

青森県埋蔵文化財調査報告書 第257集

# 三内丸山(6)遺跡 I

—東北縦貫自動車道八戸線(青森～青森)建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

1999年3月

青森県教育委員会



青森県埋蔵文化財調査報告書 第257集

# 三内丸山(6)遺跡 I

—東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

1999年3月

青森県教育委員会



# 序

青森県教育委員会では、東北縦貫自動車道八戸線建設事業に伴い、工事予定地内に所在する青森市三内丸山(6)遺跡の発掘調査を行いました。調査の結果、多くの縄文時代の遺構の検出と遺物の出土をみました。

この発掘調査の成果が今後の埋蔵文化財の保護と活用に役立つことがあれば幸いです。

最後に、平素より埋蔵文化財の保護に対してご理解を賜っている日本道路公団並びに青森市教育委員会と発掘調査の実施と報告書の作成にあたりご指導、ご協力を賜った関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成11年3月

青森県教育委員会

教育長 松 森 永 祐

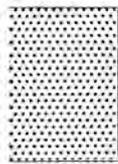


# 例 言

- 1 本報告書は、青森県教育委員会が平成9年度に実施した東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）建設事業に伴う三内丸山(6)遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 この遺跡は、青森市大字三内字丸山に位置し、平成4年3月に青森県教育委員会が編集発行した『青森県遺跡地図』に、青森県遺跡番号01016、安田(2)遺跡として記載された遺跡である。西側に隣接して、平成8年度に青森県教育委員会が登録した、遺跡番号01284、三内丸山(6)遺跡が所在している。平成9年度は二遺跡の発掘調査が並行して行われている。調査の結果、安田(2)遺跡の本書での報告部分と三内丸山(6)遺跡とは、遺構配置や時期の点から同一の集落であると判断された。調査終了後、県文化課との協議を行い、本書報告部分を安田(2)遺跡の範囲から分離し、三内丸山(6)遺跡に含めることで合意がなされた。平成10年3月に青森県教育委員会が編集発行した『青森県遺跡地図』には、遺跡番号01282として登録されている。
- 3 本報告書に掲載した地形図（遺跡位置図）は、建設省国土院発行の2万5千分の1地形図を複写して使用した。
- 4 石器の石質鑑定は、青森県立板柳高等学校教諭 山口義伸氏に依頼した。
- 5 土層等の色調観察には、『新版標準土色帖』（小山正忠、竹原秀雄 1993）を用いた。
- 6 挿図及び遺物写真の縮尺は、各図・写真ごとにスケール等を付した。
- 7 挿図に付した北の方位は、座標北である。
- 8 遺物写真の個々の遺物番号は、挿図番号と一致する。（図－番号）
- 9 遺物には観察表・計測値を付し、出土位置、諸特徴を一覧できるようにした。  
なお、計測値の（ ）は、残存値を表している。
- 10 図中で使用したスクリーン・トーンの表示は次のとおりである。



地山



スリ



タタキ



凹み

- 11 発掘調査における出土遺物、実測図、写真などは、現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。



# 目 次

序

例言

第 I 章 調査および遺跡の概要 .....	1
第 1 節 調査要項 .....	1
第 2 節 調査方法 .....	3
第 3 節 調査経過 .....	3
第 4 節 遺跡周辺の地形および地質 .....	5
第 II 章 検出遺構と出土遺物 .....	9
第 1 節 検出遺構 .....	9
1 竪穴住居跡 .....	9
2 土坑 .....	21
3 埋設土器 .....	45
第 2 節 遺構外の出土遺物 .....	46
1 土器 .....	46
2 石器 .....	70
3 土製品・石製品、その他の遺物 .....	91
参考文献 .....	98
写真図版 .....	99
報告書抄録 .....	122

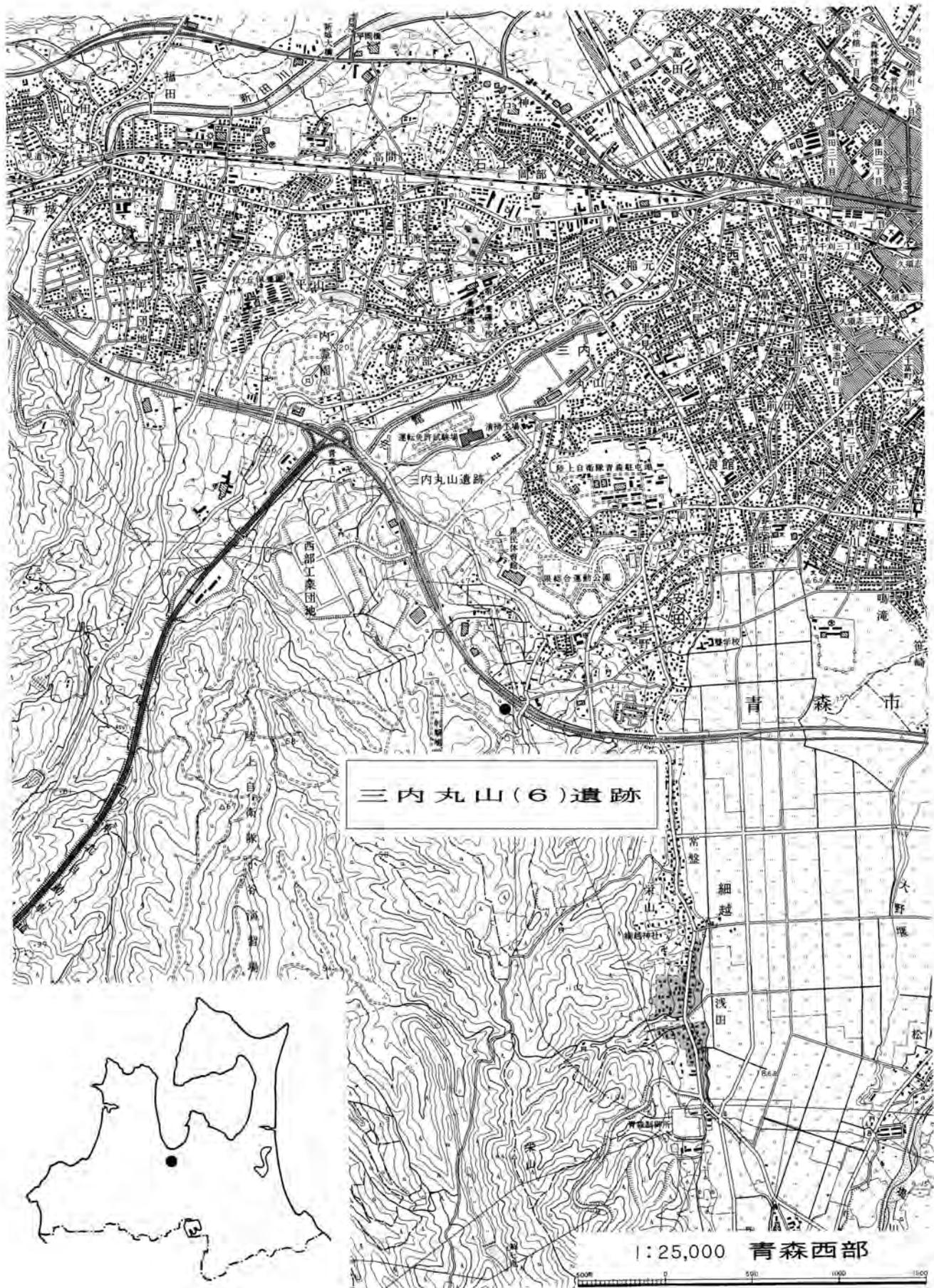


图1 遺跡位置图

# 第I章 調査および遺跡の概要

## 第1節 調査要項

### 1 調査目的

東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する三内丸山(6)遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財活用に資する。

### 2 調査期間

平成9年7月30日(水)から同年10月31日(金)まで

### 3 遺跡名及び所在地

三内丸山(6)遺跡（青森県遺跡台帳番号01282）  
青森市大字三内字丸山419-37、外

### 4 調査対象面積

6,000平方メートル

### 5 調査委託者

日本道路公団

### 6 調査受託者

青森県教育委員会

### 7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

### 8 調査協力機関

青森市教育委員会、東青教育事務所

### 9 調査参加者

調査指導員	市川 金丸	青森県考古学会会長
調査協力員	池田 敬	青森市教育委員会教育長
調査員	遠藤 正夫	青森市教育委員会埋蔵文化財対策室室長
〃	山口 義伸	青森県立板柳高等学校教諭
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター	
	調査第四課 課長	木村 鐵次郎(現、調査第三課長)
	主事	秦 光次郎(現、教育庁文化課三内丸山遺跡対策室)
	主事	三林 健一
調査補助員	福士 忠博、工藤 かおり、松浦 淳介、神 早苗	

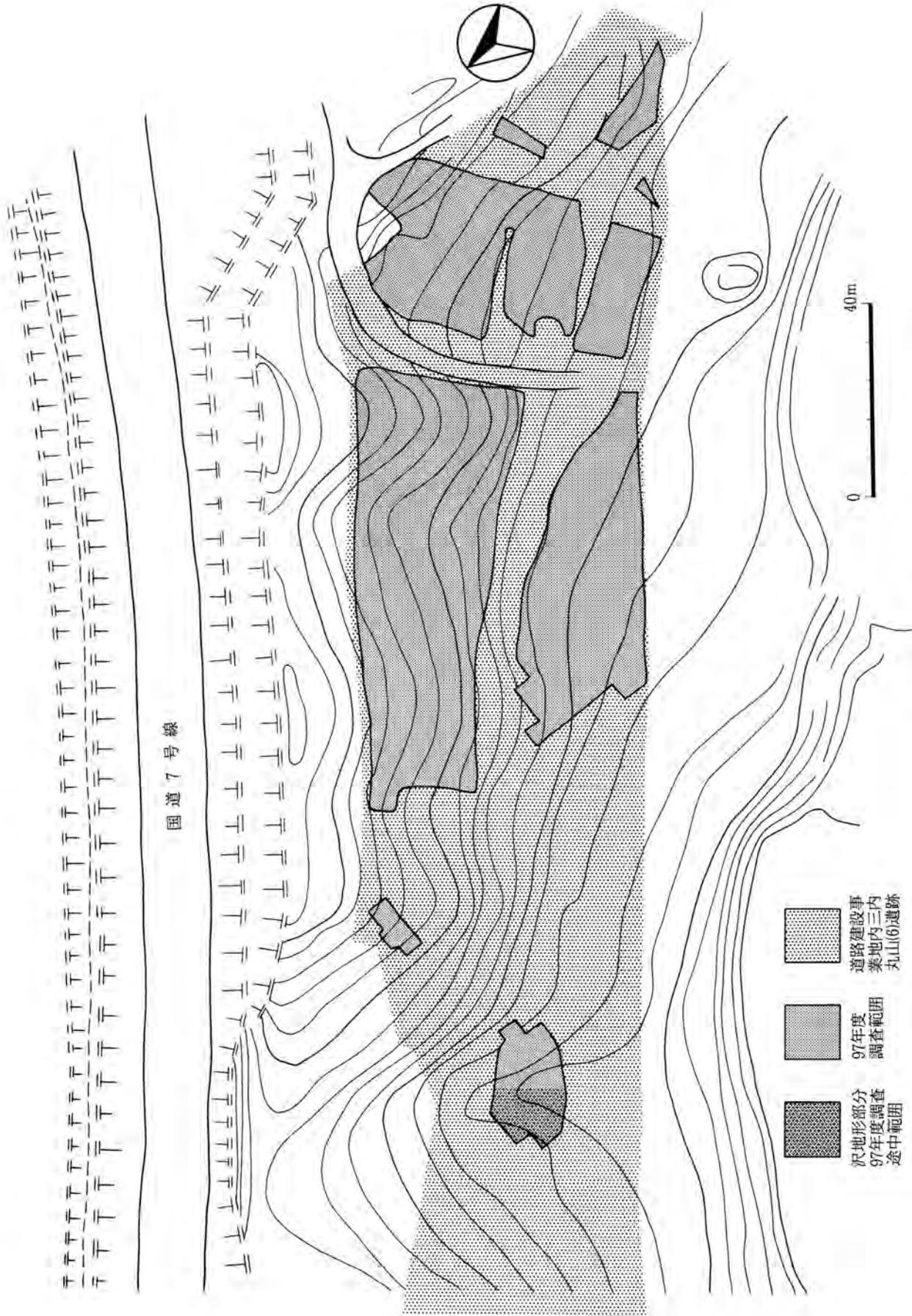


図2 道跡建設事業地内三内丸山(6)遺跡範囲及び97年度調査区域

## 第2節 調査方法

調査区域内におけるグリッド設定は、国土座標に基づいて $X=88460$ 、 $Y=-10940$ をⅢP-185として4m四方のグリッドを設定した。グリッド番号は東西ラインをローマ数字とアルファベットの組み合わせで、南北ラインを算用数字で表し、その組み合わせで4m四方の各グリッドを南東隅の交点を呼称することで表示した。

標高は調査区域外に設置された基準杭からレベル移動を行なった。また、遺構の検出・遺物の出土などの状況に応じて適宜レベル移動を行った。

土層の名称は、基本土層については谷部分に則し、表土から下位にローマ数字を付し、細分される土層にはさらに小文字のアルファベットを付加した。遺構内の堆積土については上位から下位に算用数字を付した。

写真撮影は適宜行うこととし、主としてモノクローム及びカラーリバーサルの2種類のフィルムを用いた。ただし、遺物の状況等に応じてカラーフィルムやインスタントカメラも使用した。

遺物の取り上げは、グリッド単位ごとに行い、必要に応じて平面図の作成、標高の記録を行うこととした。

## 第3節 調査経過

7月30日、調査対象面積13,000㎡中、6,000㎡を本年度分として調査を開始した。調査器材を現地に搬入し、プレハブ内・外の環境整備を行うと共に、調査区域の範囲確認を行った。また、調査区内の草木の除去を行った。

8月上旬、調査対象区内の遺構・遺物密度を調べるため、トレンチ調査を行った。

8月中旬、重機による表土除去を開始し、面的調査に移行した。同時に、20mグリッドの設定及び遺物が多量に確認された箇所から4mグリッドの設定を行った。

9月上旬、調査区北側(斜面地)の表土除去、道路を挟んだ調査区東側の畑地部分試掘トレンチ、沢部分の掘り下げを中心に作業を進行した。東側畑地部分は着手直後の段階で、第Ⅳ層下位～第Ⅴ層まで削平を受けていたことが判明し、面的調査の対象から除外した。

9月中旬、沢部分に、縄文時代中期・後期の廃棄層が形成されていることが判明した。そのため、今年度は中央部の3分の1に調査対象を絞ることとした。

9月下旬、住居跡、土坑の検出が目立ち始める。調査区南側の緩斜面部は、遺物の出土量が多かったため、表土から人力での掘り下げを行っていった。この頃、沢地から西側も同一の集落ではないかと思われるようになった。

10月上旬、沢部分の面的調査に移行し、表土の除去から開始した。

10月中旬、沢地部分から多量の遺物が出土し、地山までの到達が不可能であると判断し、Ⅲa-2層までで調査を中断することとした。

10月31日、調査器材の搬出を行い、発掘調査を終了した。

(秦・三林)

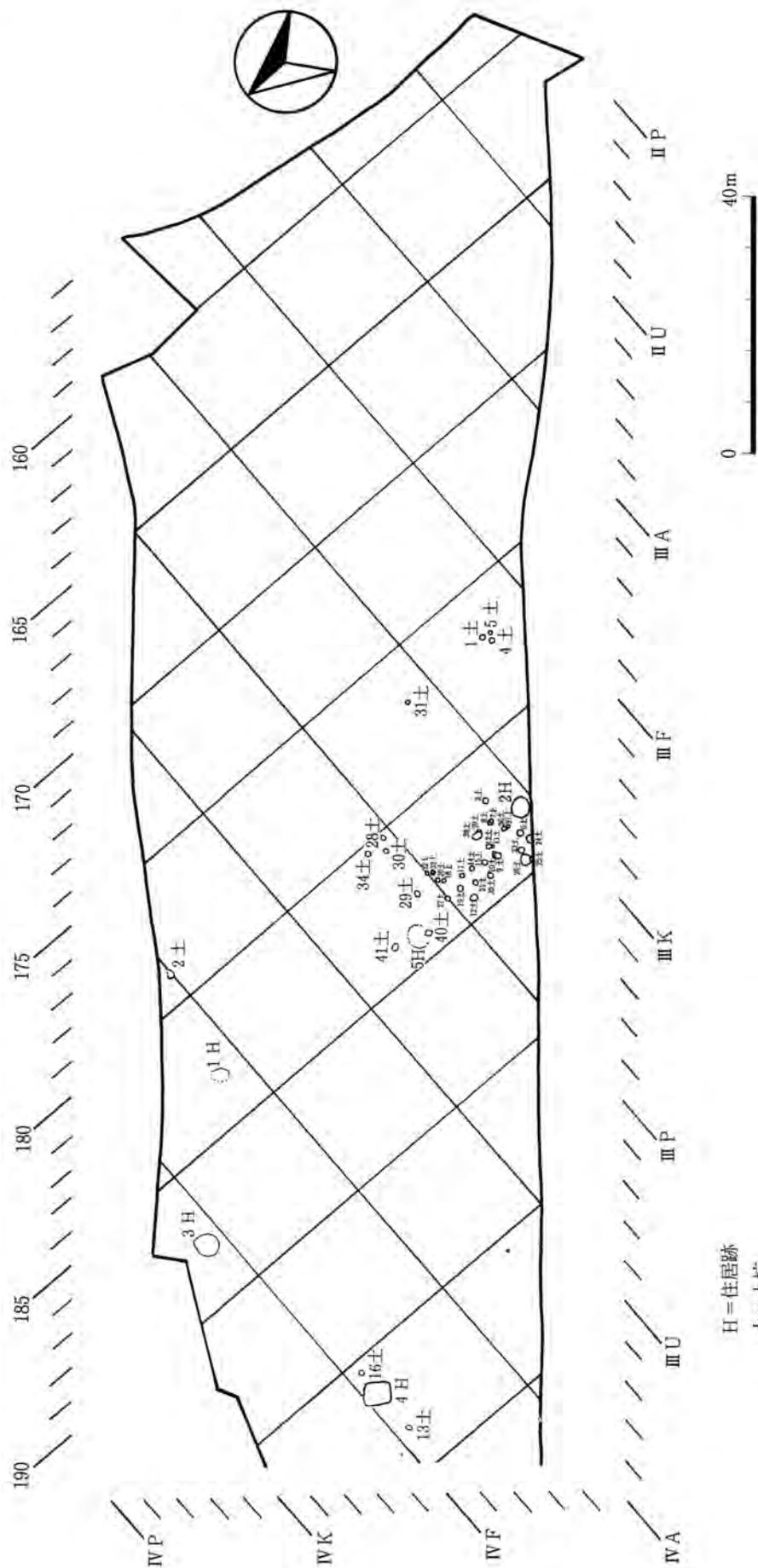


図3 グリッド及び遺構配置

## 第4節 遺跡周辺の地形および地質

青森県立板柳高等学校教諭 山口 義 伸

陸奥湾奥部には、三角形の青森平野と西方の火山性丘陵地とが分布している。

青森平野は湾岸沿いの三角州と河川の流域沿いに分布する扇状地からなっている。流域沿いの扇状地はおよそ標高10~20mで1000分の10の勾配を有する緩い傾斜地であって、主に砂礫など後背地からの供給物と十和田火山起源の火砕流堆積物で構成されている。最近話題となった横内川流域での埋没林は、扇状地を構成する約30,000年前および約13,000年前に十和田湖の形成に起因する火砕流堆積物中で確認されたものと、この扇状地を開析する6,000年以上前の「縄文の谷」内で確認されたものとに分類される。また、青森市街地のほとんどが位置する三角州はおよそ標高5m以下の低平な湿地帯と自然堤防帯とからなっている。湾岸に沿って分布する砂堤の背後に、堤川や駒込川など平野を流れる諸河川によって運搬された多量の土砂が堆積することによって形成されたものであって、その堆積物の一部は扇状地前縁部を被覆している。

一方、平野西方に展開する火山性の丘陵地はV字状の浸食谷の発達で起伏に富んでいるが、頂部はきわめて滑らかである。この平頂面は北方にむかって緩やかに高度を下げていて、青森空港付近で標高約200m、北方の新城川付近ではわずか標高50mである。平野部とは南北に直線的な比高数十mもある急崖で臨み、崖下には活断層である入内断層が存在する。なお、この西部丘陵地は火砕流台地であって、主に田代平カルデラの形成に起因する2枚の火砕流で構成されている（村岡・長谷、1990）。

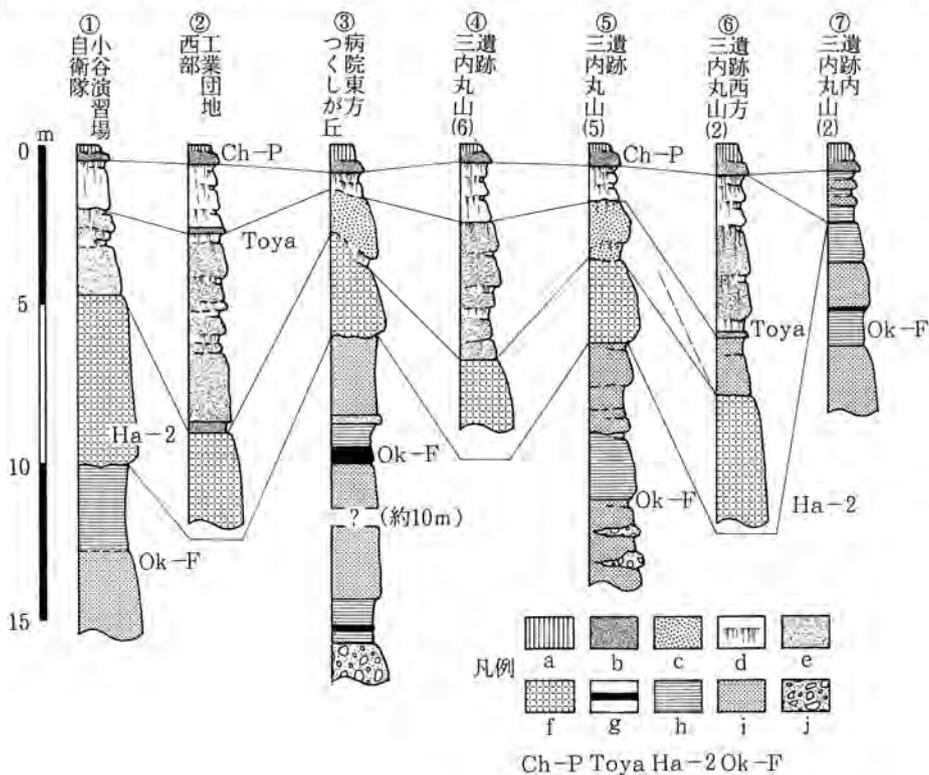


図4 遺跡周辺における露頭の模式柱状図

a:表土、b:降下細粒軽石層、c:崖錐堆積物、d:黄色褐色ロームとクラック帯、e:軽石質ローム  
 f:軽石質凝灰岩（火砕流堆積物）、g:泥炭層、h:粘土、i:成層砂、j:砂礫層  
 Ch-P:千曳浮石、Toya:洞爺テフラ、Ha-2:八甲田第2期火砕流堆積物、Ok-F:岡町層

内湾性堆積物の特徴を有する岡町層を挟んで、下位には約65万年前に流下した八甲田第1期火砕流堆積物が、上位には約40万年前の八甲田第2期火砕流堆積物が厚く堆積している。なお、青森平野下においても火砕流堆積物が確認されているが、入内断層によって平野部が大きく沈降したために直接には確認できない。ただ、南部工業団地や幸畑団地などが位置する扇状地南方の丘陵地において露頭観察ができる(図4)。

ところで、本遺跡は青森市街地南西方を流れる沖館川に注ぐ小谷内に立地している。本小谷は青森IC付近で沖館川に合流する流路距離約3kmの小河川であって、三内丸山遺跡の西方をほぼ北流している。沖館川および小谷は西部丘陵地を刻むV字状の浸食谷で、下流側ほど断片的に低位段丘面が分布している。三内丸山遺跡の立地する、沖館川南岸の低位段丘面は起伏の少ない標高12~18mの平坦な面であって、沖館川と比高数mの段丘崖で臨んでいる。本遺跡の立地する流域内の低位段丘面は標高40~45mであって、谷側への緩傾斜面として帯状に分布している。谷底平野部とは数mの急崖で臨み、背後には丘陵地が迫っている(図5)。

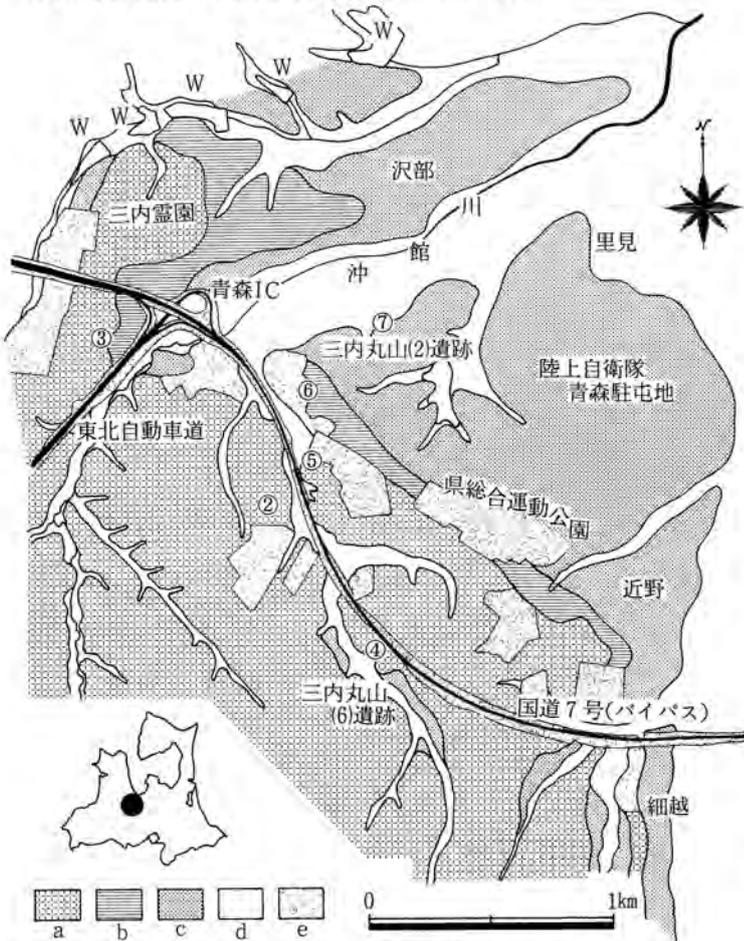


図5 遺跡周辺における地形分類図

a:丘陵地、b:中位段丘、c:低位段丘、d:谷底平野、e:土地改変部

本遺跡の調査区域は標高41~57mと15m以上の高低差がある傾斜地となっている。調査区域にはほぼ平行して、中央部には比高10mに及ぶ急崖が認められ、北東半部は八甲田第2期火砕流堆積物からなる丘陵地周縁部(標高55~57m)にあたり、南西半部は低位段丘の指標である千曳浮石層を載せる緩傾斜地(標高41~44m)となっている。そして、調査区域中央部には調査区域をほぼ二分する形の枝谷が認められた。この枝谷は現地地形では土砂によってほぼ埋積されているが、発掘調査では深さ2m以上に及ぶ谷地形であったことが確認された。なお、枝谷北側に展開する丘陵地上には縄文時代中期から晩期の土坑群が、枝谷南側の平地にあたる低位段丘面上では主に縄文時代中期から後期のいわゆる捨て場や竪穴住居跡などの遺構が検出された。

次に、本遺跡調査区域内における基本層序について述べることにする。基本層序について述べることにする。基本層序は調査区域内に認められる枝谷内の厚い埋積土を基準に概ね設定されたために、いわゆる捨て場など平地(低位段丘面に相当する)での遺構確認は細分化された埋積土の層相を確認した上で実施した。平地での基本層序は浪岡町の高屋敷館遺跡や野尻遺跡および五所川原市の隠川遺跡などの立地する低位段丘面の堆積土に基本的には一致している。谷地形内の埋積土については次年度の報告書で詳

基本層序は調査区域内に認められる枝谷内の厚い埋積土を基準に概ね設定されたために、いわゆる捨て場など平地(低位段丘面に相当する)での遺構確認は細分化された埋積土の層相を確認した上で実施した。平地での基本層序は浪岡町の高屋敷館遺跡や野尻遺跡および五所川原市の隠川遺跡などの立地する低位段丘面の堆積土に基本的には一致している。谷地形内の埋積土については次年度の報告書で詳

述することにする。なお、図6には調査区域南西端に分布する平地での基本土層の模式柱状図を、図7にはそのセクション図を示した。

I 層(10YR 2/1) 黒色土(厚さ約20cm)。表土および耕作土である。粘性・湿性が多少あり、堅く締まっている。乾くと黒灰色に変色し、クラックが目立つ。ローム粒、軽石粒などのブロックが多量に混入する。

II a層(10YR1.7/1) 黒色腐植質土(厚さ10~20cm)。粘性・湿性が多少あり、堅さはあるが締まりに欠ける。ローム粒及び軽石粒などが多量に混入するが、全体的に腐植質である。乾くと細かな格子状の割れが目立ち脆く崩れやすい。

II d層(10YR 2/2) 黒褐色土(厚さ0~10cm)。平地内の凹地に堆積する土層であって連続性がない。湿性が多少見られるが、やや粘性に欠けることから全体的にソフトな感じがする。ローム粒、軽石粒そして粘土粒の混入物のほかに、焼土粒・炭化粒なども混入している。なお、本層中には白頭山起源の苦小牧火山灰(B-Tm)が小ブロック状に堆積しているのが確認されている。

III a層(10YR 2/1) 黒色土(厚さ10~30cm)。粘性・湿性に富み、全体的に腐植質かつ粘土質である。丘陵地側ではローム粒および軽石粒など崖錐による堆積物が多く混入して明るい色調を呈するが、低位段丘面では湿地に近い環境と考えられやや黒泥質となっている。なお、本層からは主に縄文時代中期から後期の遺物が出土している。

III b層(10YR 3/3) 暗褐色土(厚さ0~10cm)。漸移層である。粘性・湿性があり、やや堅く締まっている。北東側の丘陵地及び斜面から供給された軽石粒、ローム粒および粘土粒などの混入物が目立ち、全体的に色調が明るい。

IV 層(10YR 4/6) 褐色ラピリ質細粒軽石層(厚さ10~30cm)。緻密堅固な降下相の細粒軽石層で径5~20mm大の軽石粒を多量に包含する。ただ、いわゆる捨て場などの遺構が検出された低位段丘面では水成堆積相を呈する粘土質軽石層として堆積し、層相から2層に細分される。上部のIV a層は白色軽石粒(径20mm大以下)を包含する降下相のラピリ質細粒軽石層であって、下部のIV b層は軽石粒の風化が著しく全体的にややソフトな砂質の粘土質軽石層となっている。おそらく、IV b層は下位のV層堆積時から引き続いて湿地性の環境下にあったものと思われる。なお、本層は千曳浮石(東北地方第四紀研究グループ、1969)、碓ヶ関浮石(山口、1993)に対比され、約12,000年前の降下火砕物と考えられる。

V 層 粘土層(厚さ150cm以上)。全体的に塊状無層理であって、丘陵地から供給された軽石粒を多量に包含する軽石質の粘土層である。本層は湿地性の堆積物であって、酸化の染みなど層相から4層に細分される。最上部のV a層は緻密堅固な灰白色粘土層で、地下水など水分を含むと弛んで軟らかくなる。V b層は灰白色粘土層であるが、やや酸化の染みが目立つ。V c層は全体的に酸化されて黄灰色を呈する軽石質粘土であり、下部のV b層は帯状の褐鉄鉱層である。浪岡町の高屋敷館遺跡で検出された堀跡の壁面では、本層相当の泥炭層から約15,000年前の年代測定値が得られている。

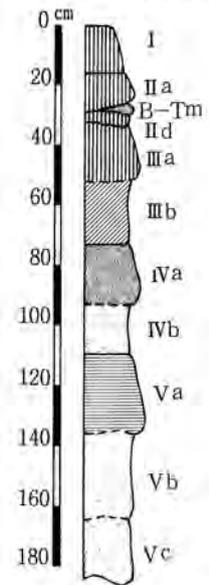


図6 遺跡内の平地(低位段丘面)における基本層序を示す模式柱状図

三内丸山(6)遺跡 I

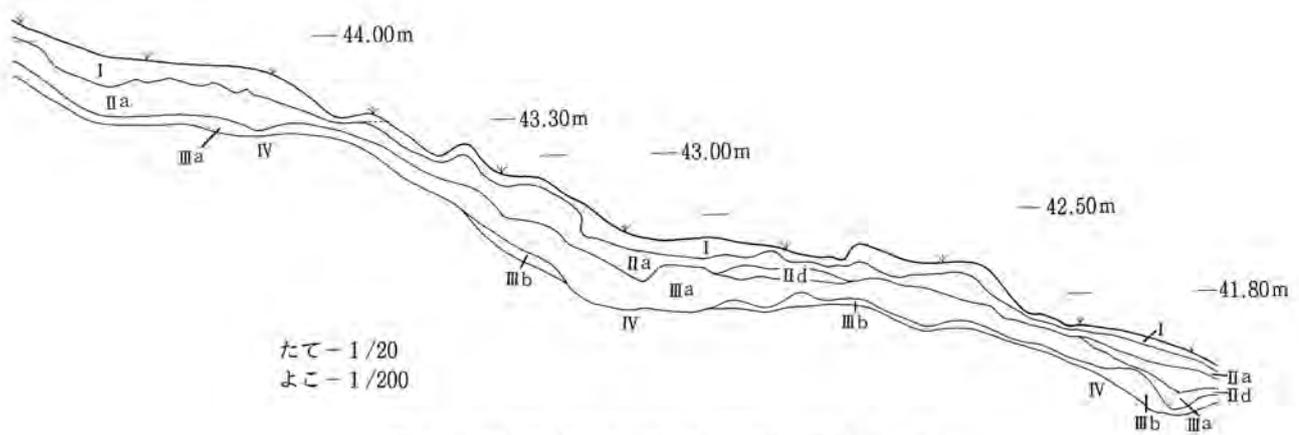


図7 調査区域南西端部分(平地)セクション

引用文献

- 東北地方第四紀研究グループ(1969)『東北地方における第四紀海水準変化』地学団体研究会専報 No.15 p.37~83
- 中川久夫(1972)青森県の第四系『青森県の地質』第二部 青森県 p.71~114
- 村岡洋文・長屋紘和(1990)『黒石地域の地質』地域地質研究報告(5万分の1地質図幅及び同説明書)地質調査所 124p
- 山口義伸(1993)平川流域での十和田火山起源の浮石流凝灰岩について 年報『市史ひろさき』No.2 弘前市 p.10~41
- 青森県教育委員会(1994)『三内丸山(2)遺跡Ⅱ』(第1分冊)青森県埋蔵文化財調査報告書 第157集 p.25~34
- 青森県教育委員会(1996)『野尻(2)遺跡Ⅱ・野尻(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第 186集 p.8~14
- 青森県教育委員会(1997)『三内丸山遺跡Ⅶ』(第1分冊)青森県埋蔵文化財調査報告書第230集 p.16~17
- 青森県教育委員会(1998)『高屋敷館遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書 第243集p.11~17
- 青森県教育委員会(1998)『隠川(4)・隠川(2)遺跡Ⅰ』青森県埋蔵文化財調査報告書第244集 p.7~10
- 山口義伸 1999予定 浪岡周辺の地形発達『浪岡町史第1巻』浪岡町

## 第II章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 検出遺構

#### 1 竪穴住居跡

##### 1号住居跡(図8)

〔位置・確認〕IVB-182に位置する。基本層序の第IV層相当層において、黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕斜面地ということもあり、西・南壁はほとんど残存していない。平面形は残存部から推定するに不整な円形と思われる。大きさは確認面で長径2.8m、短径2.2m、床面は検出したPitを壁際と考えれば推定で長径2.8m、短径1.8mとなる。確認面からの壁高は0～22cmで、床面には緩い凹凸があり、全体として南西に傾斜している。遺構は基本土層の第IV層相当層を掘りこんで作られ、同層を直接床面としている。

〔柱穴等〕柱穴状のピットを床面のほぼ中央と思われる箇所に1個(Pit1)、北東壁に1個(Pit2)、南東と北西の壁際と思われる箇所に1個ずつ(Pit3・4)、計4個検出した。Pit1は他のPitに比べ比較的浅い窪み状のものである。Pit2～4は深さ40cm以上のもので、しっかり掘り込まれている。これらのピットは壁柱穴とみられるものであるが、この他に柱穴は認められなかった。

〔付属施設〕北東壁のPit2付近の壁に沿って浅い掘り込みが確認できたが、不明である。

〔堆積土〕黒褐色土の1層のみの確認であり、ローム粒の混入の度合いが強い。堆積土は1層ということもあり、自然堆積か人為堆積かの確認はできなかった。

〔出土遺物〕縄文土器片(IV群)が2点と、石鏃が1点出土している。

〔時期〕出土遺物が細片ということもあり、不明である。

(三林)

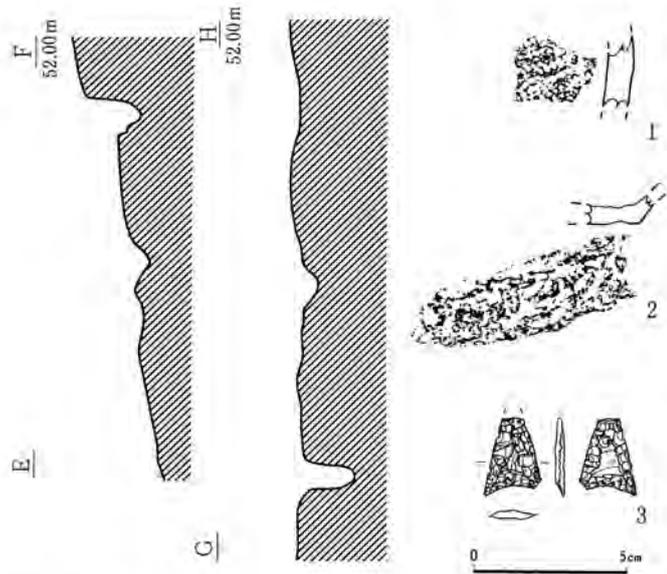
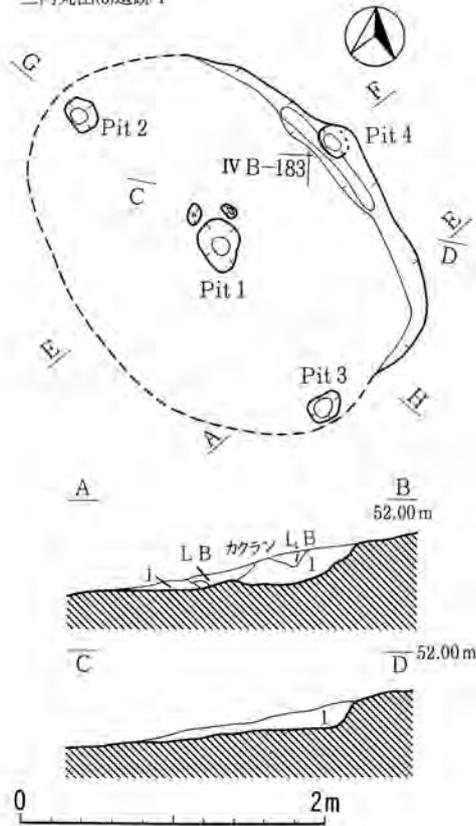
##### 2号住居跡(図8～10)

〔位置・確認〕IIIJ-182に位置する。基本層序第III層精査時に、第IV層上面において黒褐色土の落ち込みと、遺物の集中部分として確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、床面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径3.1m、短径2.7m、床面で長径2.6m、短径2.9mである。確認面からの壁高は10～22cmで、壁面全体に小さな攪乱が多数あり、それによって壁面の崩れが目立ち、壁の傾斜が緩くなっている。床面には緩い凹凸があるが、壁面同様小さな攪乱が多数存在している。遺構は基本層序の第IV層を掘りこんで作られ、同層を直接床面としている。

〔柱穴等〕床面の5ヶ所に不整円形の落ち込みを確認したが、Pit2・5以外は平面形状・断面形状とも柱穴とは呼べないもので、また攪乱によるとと思われる壁の崩落が激しく用途は不明である。また、Pit2・5とも掘り込みが浅く、柱穴かどうかは不明である。

〔付属施設〕確認できなかった。床面の中央南東よりに20cm×40cmほどの焼土の広がり確認できた。

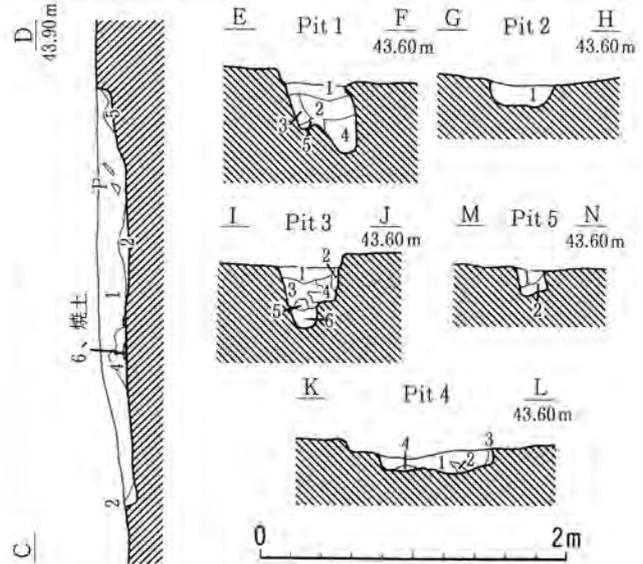
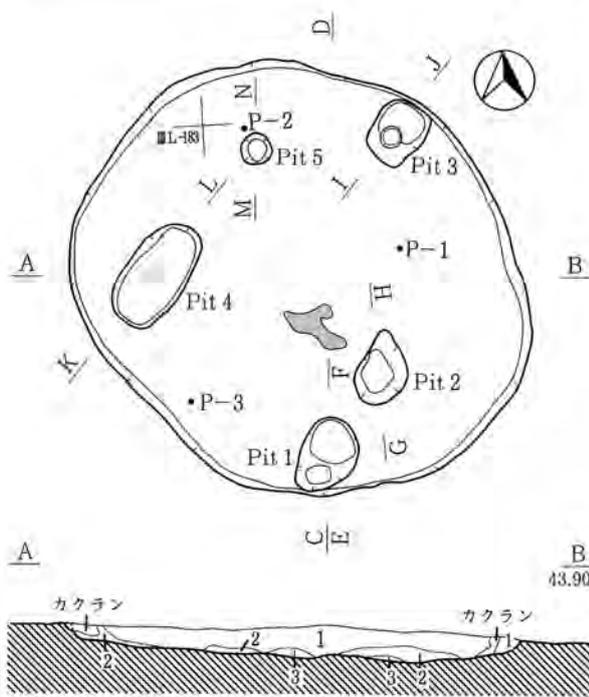


1号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様	など	備考
8-1	IVC-183	床直	深鉢	IV	胴部	RL		
8-2	IVC-183	床面	深鉢	IV	底部	無文?、底部:縄状?の圧痕		

1号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ:mm	幅:mm	厚さ:mm	重さ:g	石質	備考
8-3	IVC-183	床面	石鏃	I-1	(26.5)	19.0	2.4	(1.0)	珪質頁岩	先端欠損



2号住居跡土層注記

- 1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒5%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒10%混入。
- 3層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒30%混入。
- 4層 褐色土 10Y R4/4 焼土粒50%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒30%混入。
- 6層 暗赤褐色土 5Y R3/4 床面直上の焼土。

Pit1

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R3/1 粒径10mmのLB3%、炭化物粒10%混入。
- 3層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒3%混入。
- 4層 暗褐色土 10Y R3/3 炭化物粒10%混入。
- 5層 黄褐色土 10Y R5/8 粒径10~20mmのLB15%混入。

Pit2

- 1層 黒色土 10Y R1/2 ローム粒25%混入。

Pit3

- 1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒7%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒5%混入。
- 3層 にお漬縄土 10Y R4/3 ローム粒7%混入。
- 4層 褐色土 10Y R4/4 ローム粒3%混入。
- 5層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒50%混入。
- 6層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒30%混入。
- 7層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒10%混入。

Pit4

- 1層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒15%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R3/4 ローム粒30%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒1%混入。

Pit5

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒30%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R3/4 ローム粒30%混入。

図8 1号住居跡・出土遺物、2号住居跡

それともなう掘り込みは確認できず、また焼土除去後には周りと同等の床面が確認できた。

〔堆積土〕主に黒褐色土からなっていた。確認時点から多数の遺物が集中しており、覆土からも浅い掘り込みながら40破片程の土器片の出土があった。遺物のほとんどは1層中からの出土である。2層以下はブロック状の堆積土で、人為堆積と思われる。

〔出土遺物〕確認面及び覆土からⅡ-3-a~b類、Ⅲ-1類などの縄文土器片、剥片石器（Ⅰ-6類）が出土した。

〔時期〕出土遺物より、縄文時代中期後葉から後期前葉の住居と思われる。

(三林)

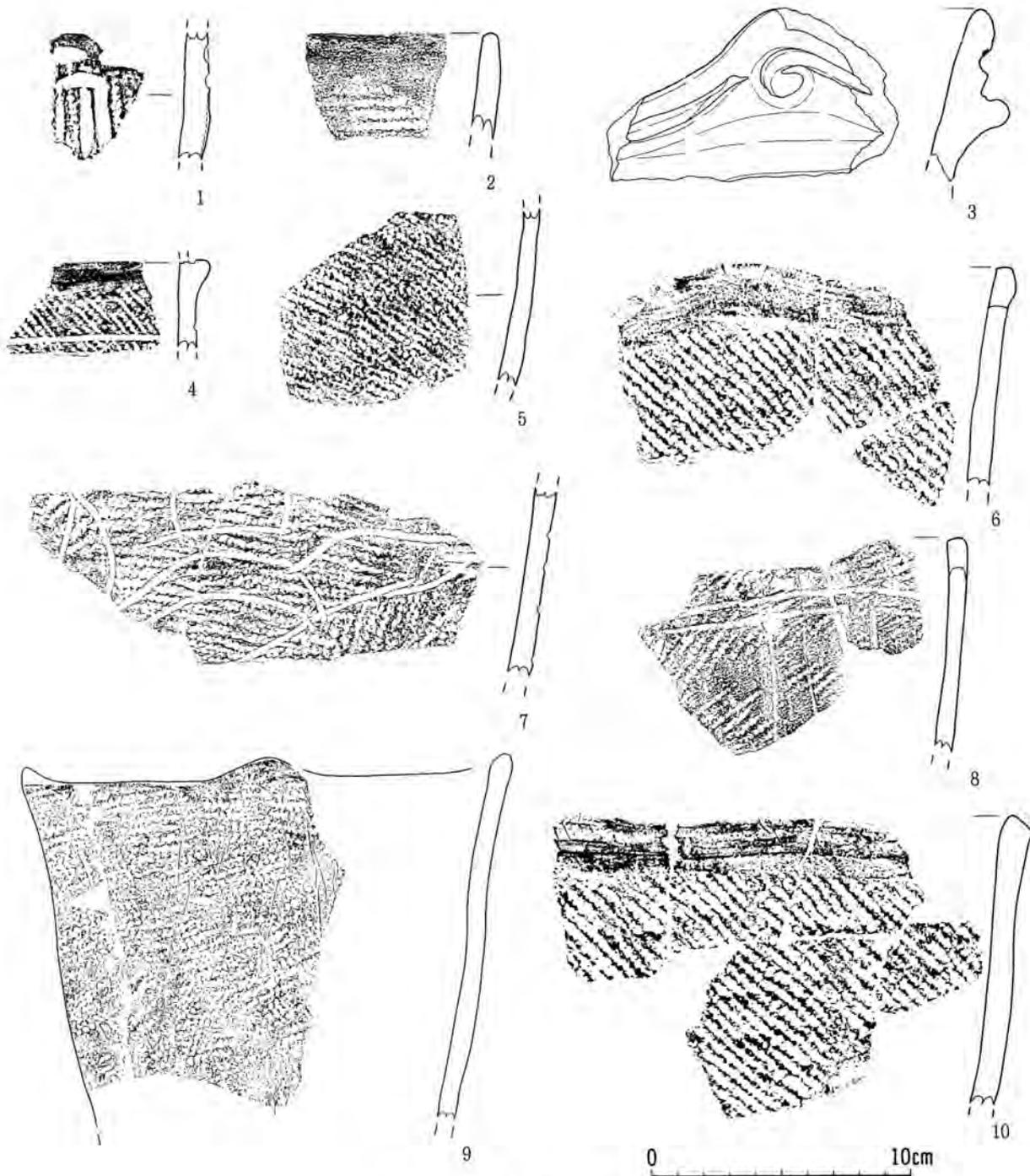


図9 2号住居跡出土土器

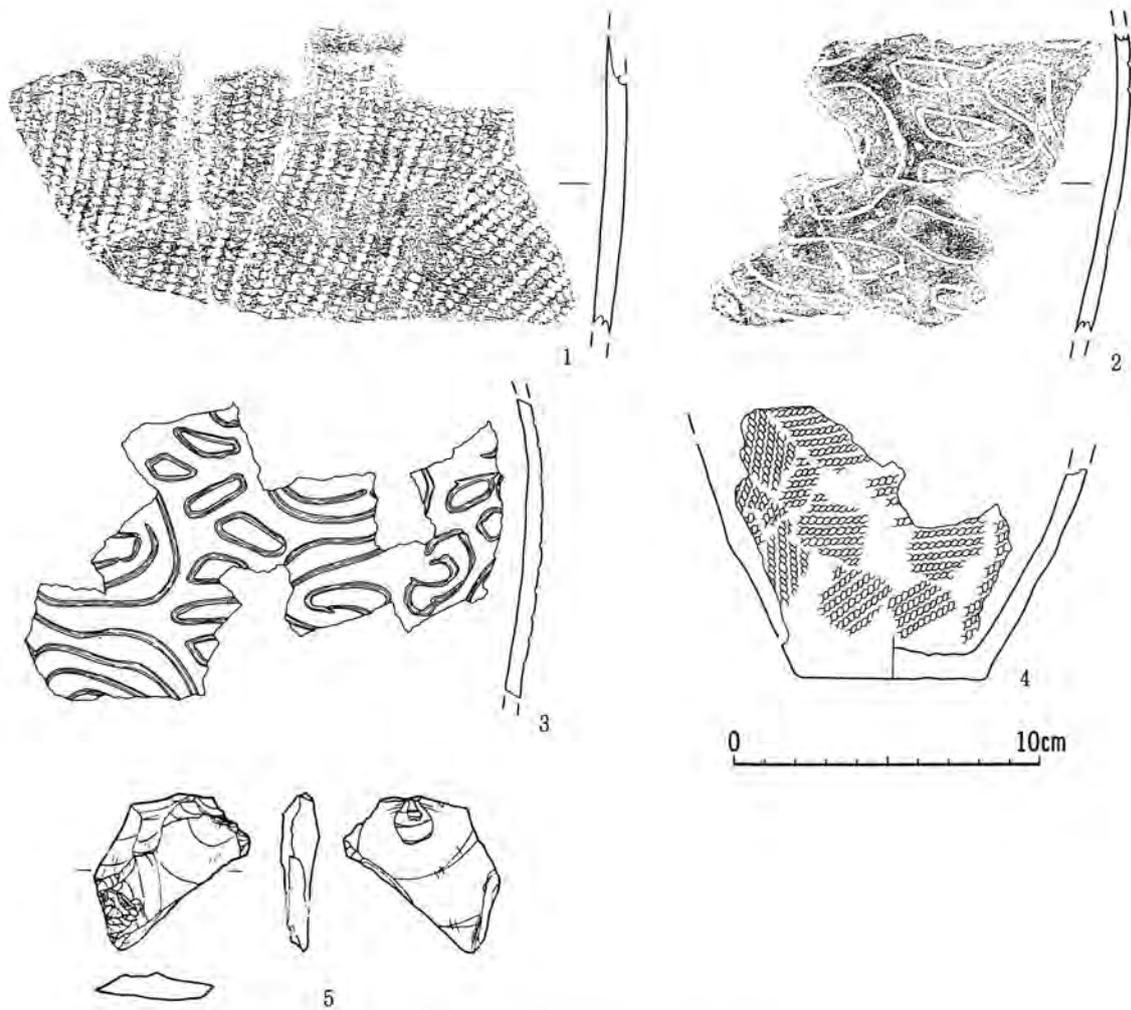


図10 2号住居跡出土土器・石器

2号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
9-1	ⅢK-182	1	深鉢	Ⅱ-3-b	胴部	刺突、沈線、RLナナメ	
9-2	ⅢK-183	確認面	深鉢	Ⅳ-2	口縁	LRナナメ、無文帯	中期末
9-3	ⅢK-182	1	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	口唇部、沈線	
9-4	ⅢK-182	1	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	LRタテ、沈線	
9-5	ⅢK-182	2	深鉢	Ⅳ-1	胴部	RLヨコ	
9-6	ⅢK-182	3	深鉢	Ⅳ-2	口縁	RLヨコ、無文帯	
9-7	ⅢK-182	1	深鉢	Ⅳ-3	胴部	沈線、RLナナメ、外面炭化物	
9-8	ⅢK-182	確認面	深鉢	Ⅱ-3	口縁	沈線、LRヨコ、外面炭化物	口径15cm
9-9	ⅢK-182	2	深鉢	Ⅳ-1	口縁	LRナナメ、外面炭化物	Ⅱ-3~Ⅲ-1、口径23cm
9-10	ⅢK-182	1	深鉢	Ⅳ-2	口縁	LRタテ、無文帯	Ⅱ-3~Ⅲ-1
10-1	ⅢK-182	確認面	深鉢	Ⅳ-1	胴部	RLナナメ、タテ	
10-2	ⅢK-183	確認面	深鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線	
10-3	ⅢK-183	確認面	深鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線	
10-4	ⅢK-182	確認面	深鉢	Ⅳ-1	底部	LRヨコ、底径6cm	

2号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石質	備考
10-5	ⅢK-183	覆土	不定形	1-6	(31.5)	31.0	6.7	4.7	珪質頁岩	

3号住居跡(図11~14)

[位置・確認] IV F・G-187・188の斜面上方に位置する。基本層序の第VI層相当層において、黒褐色土の落ち込みを確認した。

[形態・規模] 平面形は長軸3.80m、短軸3.12mの卵形である。遺構は基本層序の第VI層相当層を掘りこんで作られ、同層を直接床面としている。確認面からの最大壁高は40cmで、床面から若干開き気味に立ち上がる。掘り込み土層の砂分が強いせいか、床面はほとんど硬化していなかった。

[柱穴等] 直径20~30cm、深さ20~24cmの4基が検出された。4基は台形に配置され、上底1.44m、下底1.8m、斜辺1.72mの台形に配置される。柱痕は検出されなかった。

[付属施設] 住居長軸上の南西寄りから埋設土器炉が検出された。口径35cm程の深鉢上半部を、床面から30cm程埋め込んで構築される。焼土、炭化物は明瞭に確認できなかった。

北東壁際からは特殊施設が検出された。長軸上の壁際で、開口部60cmの掘り込み周辺に、3基のピット状の掘り込みが配置されたものである。覆土、遺物の点での特徴はなかった。

[堆積土] 主に黒褐色土からなり、4層に分層できた。4層は、掘りこみ土層の土が混入しており、人為堆積によるものと思われる。

[出土遺物] 覆土からII-2-b類、IV群の縄文土器片とI-6類の剥片石器が出土している。

[時期] 炉体土器及び住居形態より、縄文時代中期中葉から後葉にかけての住居と思われる。

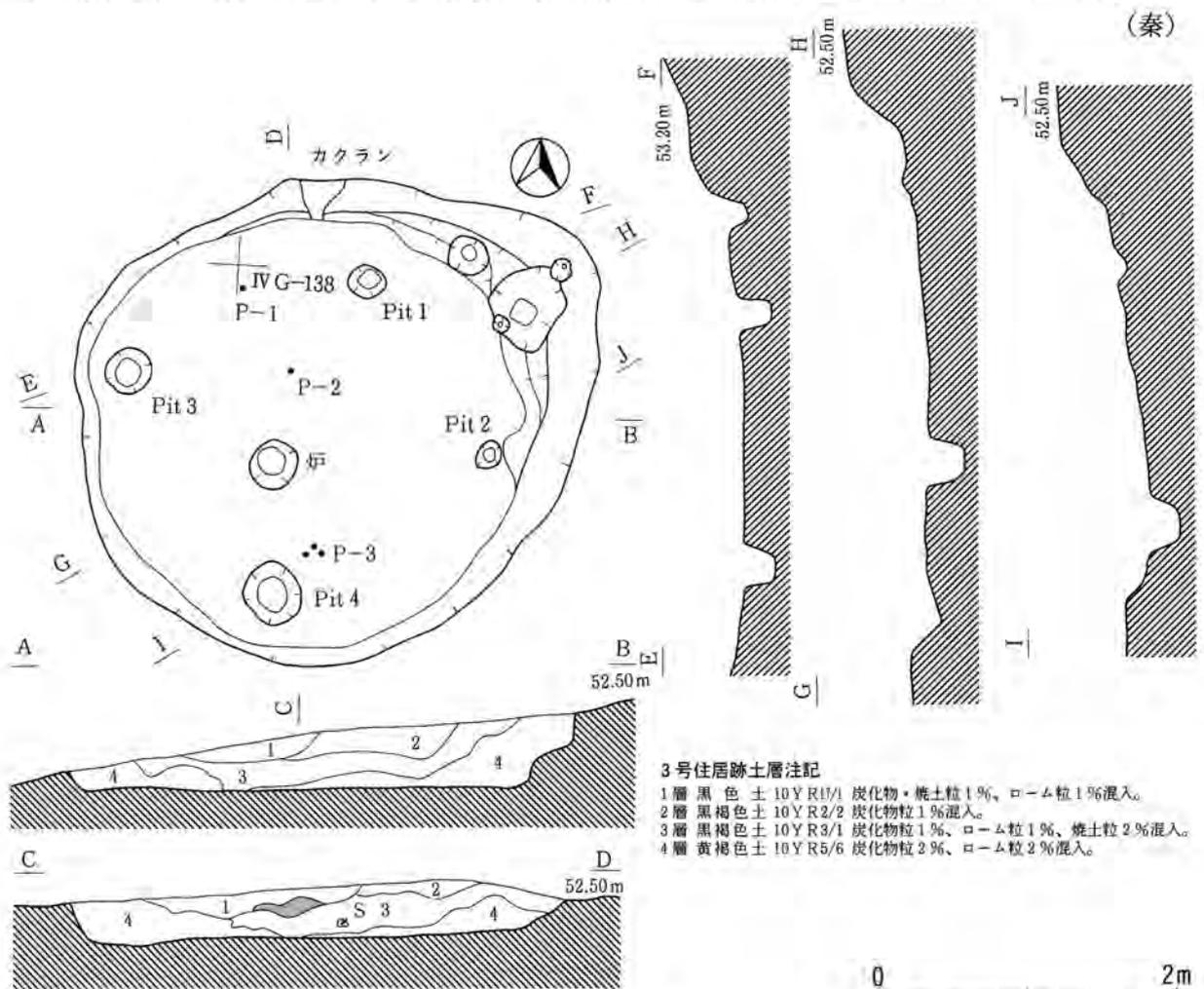


図11 3号住居跡

三内丸山6遺跡 I

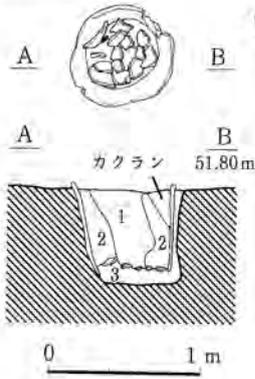


図12 3号住居跡炉

3号住居跡炉土層注記

- 1層 暗褐色土 10YR3/4 粒径30mmのLB 3%混入。
- 2層 暗褐色土 10YR3/3 粒径20mmのLB 2%混入。
- 3層 暗褐色土 10YR3/3 粒径10mmのLB 1%混入。粗方。

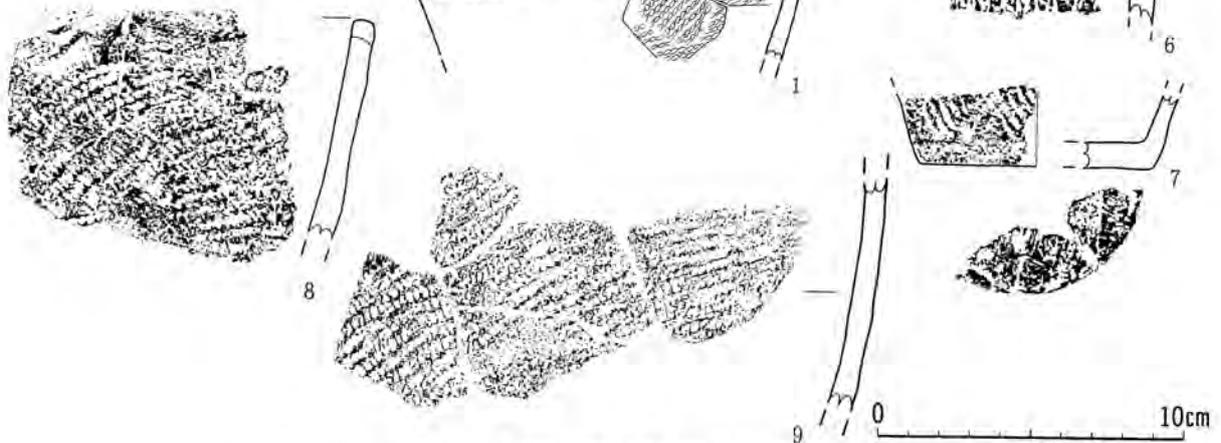


図13 3号住居跡炉、出土土器

3号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
13-1	IVF-187	—	深鉢	II-2~3	略完形	平行沈線、波状沈線、LRヨコ、ナナメ	炉
13-2	IVF-187	覆土	深鉢	II-2	胴部	RLヨコ、口唇部縄文押圧、外面炭化物	
13-3	IVF-187	4	深鉢	III-1	口縁	粘土帯貼付、沈線	
13-4	IVF-187	覆土	深鉢	II-2~3	胴部	沈線	
13-5	IVF-187	覆土	深鉢	II-2~3	口縁	無文	
13-6	IVF-187	覆土	深鉢	III-1	口縁	網目状捺系文	
13-7	IVF-187	覆土	深鉢	IV-1	底部	RLヨコ、底部不明	
13-8	IVF-188	5	深鉢	IV-1	口縁	LRヨコ、炭化物付着	
13-9	IVF-188	5	深鉢	IV-1	胴部	LRヨコ	

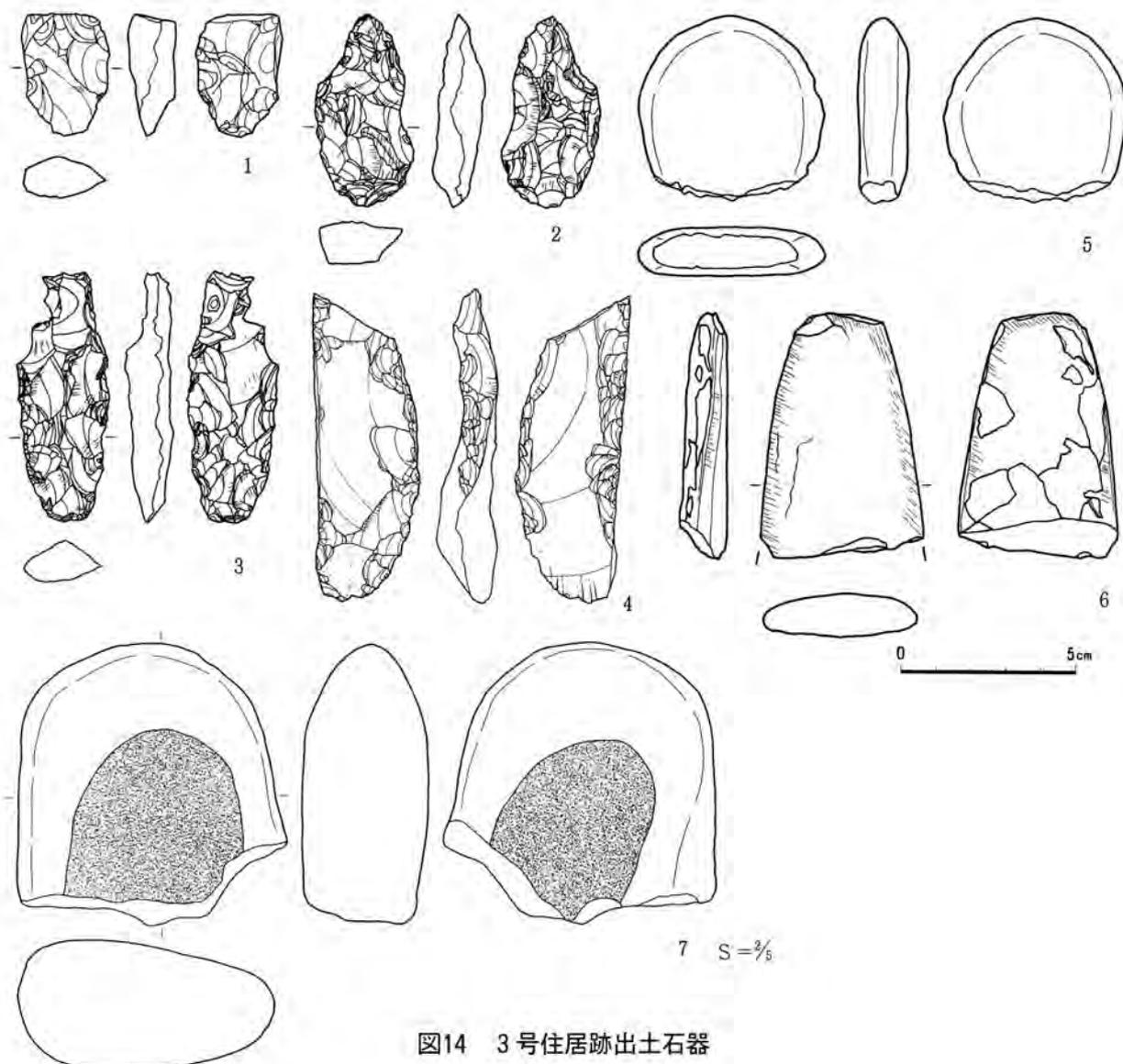


図14 3号住居跡出土石器

3号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石質	備考
14-1	IVF-187	5	不定形	I-6	35.0	24.0	15.0	11.6	珪質頁岩	石槌の基部?
14-2	IVF-187	覆土	不定形	I-6	56.0	28.0	13.0	17.7	珪質頁岩	
14-3	IVF-187	5	不定形	I-6	73.0	26.0	12.3	20.4	珪質頁岩	
14-4	IVF-187	覆土	不定形	I-6	89.0	32.0	17.5	38.7	頁岩	
14-5	IVF-187	5	敲磨器	II-2	54.0	63.0	14.0	51.6	流紋岩	
14-6	IVF-187	5	磨製石斧	III-1	(71.2)	(47.0)	(13.0)	(70.0)	緑色細粒凝灰岩	
14-7	IVF-187	床直	台石	II-3	(206.0)	(195.0)	(91.0)	(5350.8)	安山岩	

## 4号住居跡(図15・16)

[位置・確認] IV E・F-196の谷間際に位置する。基本層序第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面において黒褐色土の落ち込みと、遺物の集中部分として確認した。

[形態・規模] 南西部の壁は確認できなかったが、平面形は長軸3.92m、短軸3.34mの長方形である。遺構は基本層序の第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を直接床面としている。確認面からの最大壁高は22cmで、床面から直に立ち上がる。床面の硬化面の形成は顕著であった。

[柱穴等] 直径27~35cm、深さ33~60cmの4基が検出された。4基は炉を中心として、一辺160~190cmの略方形に配置される。Pit3・4からは柱痕が検出されている。柱痕は直径10~14cmの円形で、暗褐色土からなり、埋土はほぼⅣ層土からなっていた。

[付属施設] 住居の長軸中央からPit1が、南東壁際から特殊施設が検出された。Pit1と登録した施設は、構造と位置の点から掘り込み炉であると思われる。特殊施設は長軸55cm、床面からの深さ7~15cmの浅い掘り込みと、土堤状の粘土部分からなる。土堤部は基本層序第Ⅳ層を用いており、掘り込み部は土堤部に接して壁際に掘り込まれる。覆土、遺物の点での特徴はなかった。

[堆積土] 主に黒褐色土からなっていた。遺物の多くは1層からの出土である。2層以下は、地山土壌の混入は少ないがブロック構造が確認でき、人為堆積と思われる。

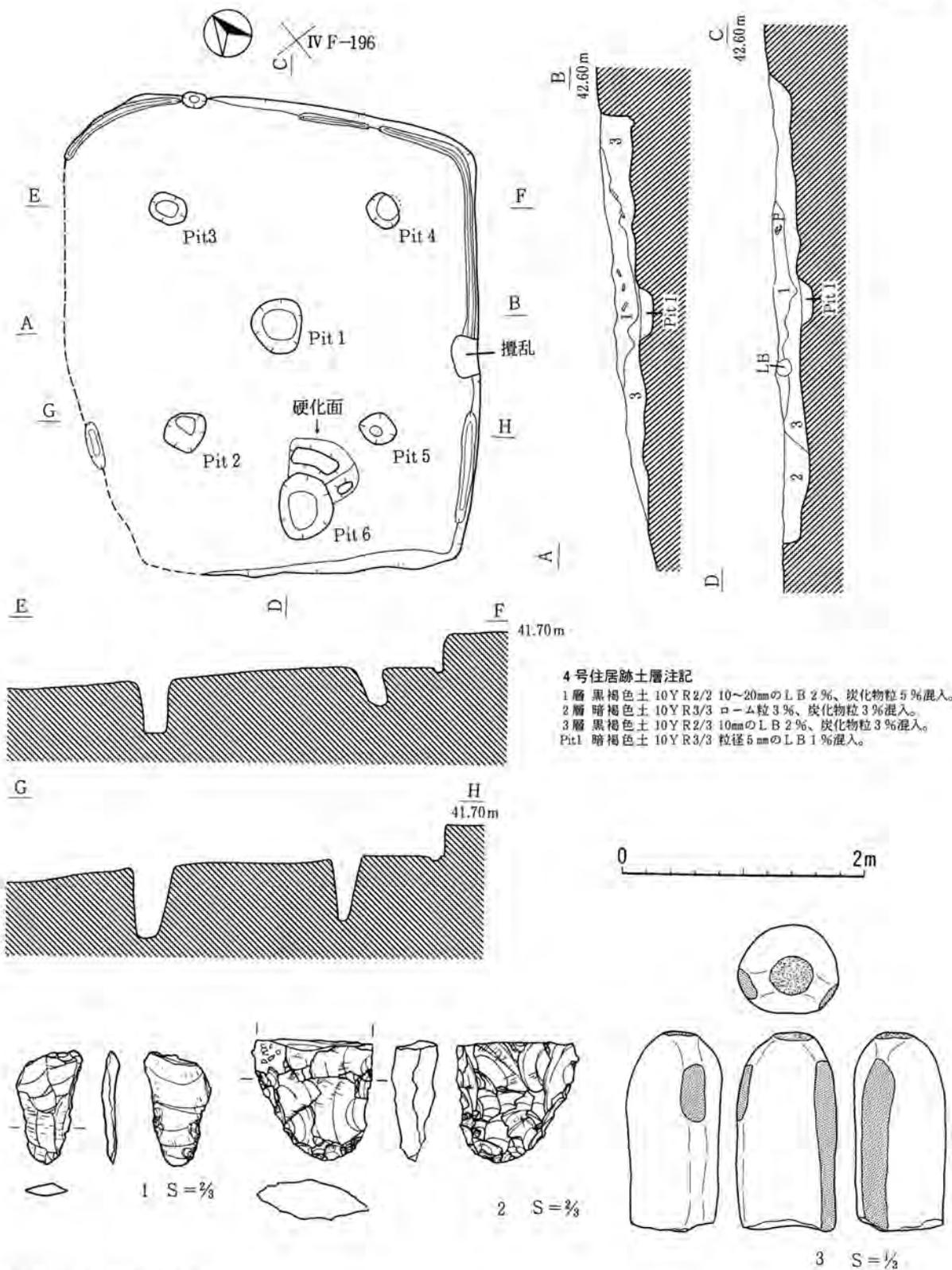
[出土遺物] 覆土からⅡ-2-b類、Ⅳ類などの縄文土器片、剥片石器(Ⅰ-6類)、礫石器(Ⅱ-2類)が出土している。

[時期] 覆土中の遺物出土状態及び住居形態より、縄文時代中期中葉の住居と思われる。

(秦)

4号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様	備考
15-1	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2	口縁	R L ヨコ、粘土紐 (R L ヨコ)	口径: 19.5cm
15-2	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2	口縁	羽状縄文 (L R + R L)、R L 押圧	
15-3	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2	口縁	羽状縄文 (L R + R L)、R L 押圧	
15-4	IV F-196	2	深鉢	Ⅱ-2	口縁	羽状縄文 (L R + R L)、R L 押圧	口径: 18.0cm
15-5	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	R L ヨコ、粘土紐	
15-6	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	L R タテ、R L 押圧、粘土貼付	
15-7	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2	口縁	口唇肥厚、R L 押圧、外面炭化物	
15-8	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2	胴部	R L ヨコ、粘土紐	
15-9	IV F-196	2	深鉢	Ⅱ-2	胴部	L R ヨコ、粘土紐	
15-10	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	粘土紐、羽状縄文 (L R + R L)	口径: 19.0cm
15-11	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	R L ヨコ、R L 押圧	
15-12	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2	胴部	L R タテ、粘土紐	
15-13	IV F-196	1	深鉢	Ⅱ-2	胴部	粘土紐 (押圧)、羽状縄文 (L R + R L)	
15-14	IV F-196	1	深鉢	Ⅳ-1	口縁	L R ヨコ	折り返し状口縁
15-15	IV F-196	2	深鉢	Ⅳ-3	胴部	R L ヨコ、沈線	中期中~後葉
15-16	IV F-196	1	深鉢	Ⅳ-3	胴部	R L ヨコ、沈線	中期中~後葉
15-17	IV F-196	1	深鉢	Ⅳ-1	胴部	羽状縄文 (L R + R L)	
15-18	IV F-196	2	深鉢	Ⅳ-1	胴部	R L ヨコ、外面炭化物	
15-19	IV F-196	2	深鉢	Ⅳ-1	胴部	L R ナメ、外面炭化物	
15-20	IV F-196	1	深鉢	Ⅳ-1	胴部	羽状縄文 (L R + R L)	
15-21	IV F-196	2	深鉢	Ⅳ-1	胴部	R L ヨコ	
15-22	IV F-196	1	深鉢	Ⅳ-1	胴部	羽状縄文 (L R + R L)	
15-23	IV F-196	1	深鉢	Ⅳ-1	底部	L R タテ	底径: 8.0cm、器高: 4.0cm
15-24	IV F-196	2	深鉢	Ⅳ	底部	無文	
15-25	IV F-196	1	不明	Ⅳ	底部	無文	底径: 6.8cm



4号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石質	備考
15-1	IV F-196	II	不定形	I-6	29.0	16.5	2.6	1.1	珪質頁岩	
15-2	IV F-196	II	不定形	I-6	(30.0)	(30.0)	(10.6)	(9.3)	珪質頁岩	石籠の基部?
15-3	IV F-196	床直	敲磨器	II-2	(111.0)	(55.0)	(51.0)	(431.8)	流紋岩	

図15 4号住居跡・出土石器

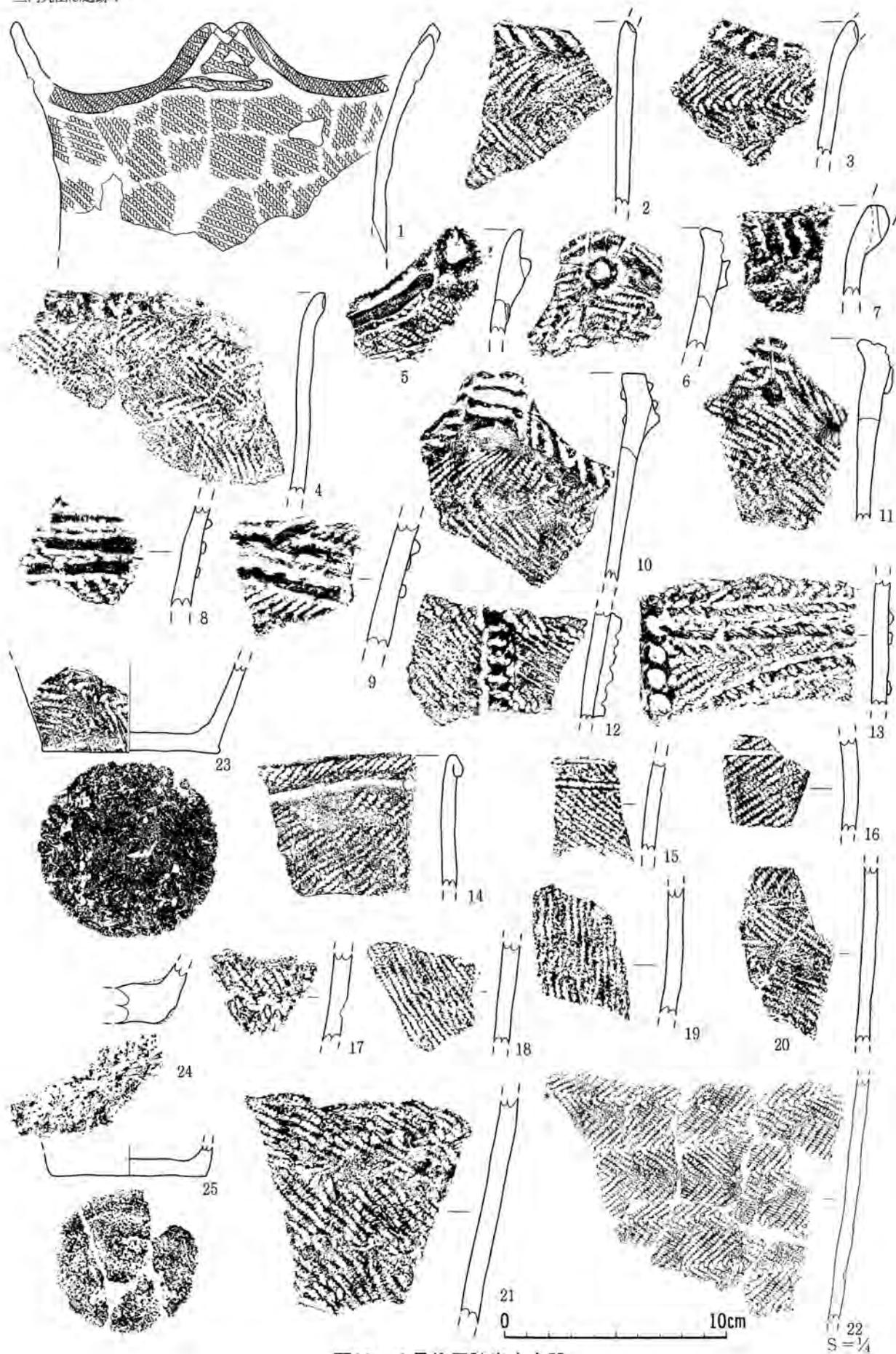


图16 4号住居跡出土土器

5号住居跡(図17・18)

〔位置・確認〕ⅢQ・R-183・184の斜面上に位置する。基本層序第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面において黒褐色土の落ち込みと、直下の硬化面を確認した。

〔形態・規模〕壁は北半部のみを検出となる。一部植物による攪乱が見られる。確認面からの最大壁高は20~30cmで比較的緩く立ち上がる。南壁は床面レベルからみて、黒色土中に構築されていたと思われる。確認できなかつた。平面形は楕円形もしくは最大幅が中心からずれる不整円形であったと思われる。確認面での残存最大長は3.92mである。床は壁と同じく、基本層序第Ⅳ層を掘り込んで構築される。平坦な作りで、Ⅳ層上に限れば硬化面の形成は顕著であった。

〔柱穴等〕推定範囲も含め、住居床面上に柱穴は確認できなかつた。

〔付属施設〕確認できなかつた。位置の上では、40号土坑の石組みと焼土が本住居の炉に相当する可能性はある。

〔堆積土〕主に黒褐色土からなっていた。確認時に床の多くが露出してしまったことと、土層観察用の畔が崩落してしまったことにより、覆土の詳細な観察・記録はできなかつた。

〔出土遺物〕床面直上からⅢ-1類、Ⅳ群などの縄文土器片、磨製石斧が出土している。

〔時期〕床面直上出土の土器片から、縄文時代後期前葉の住居と思われる。

(秦)

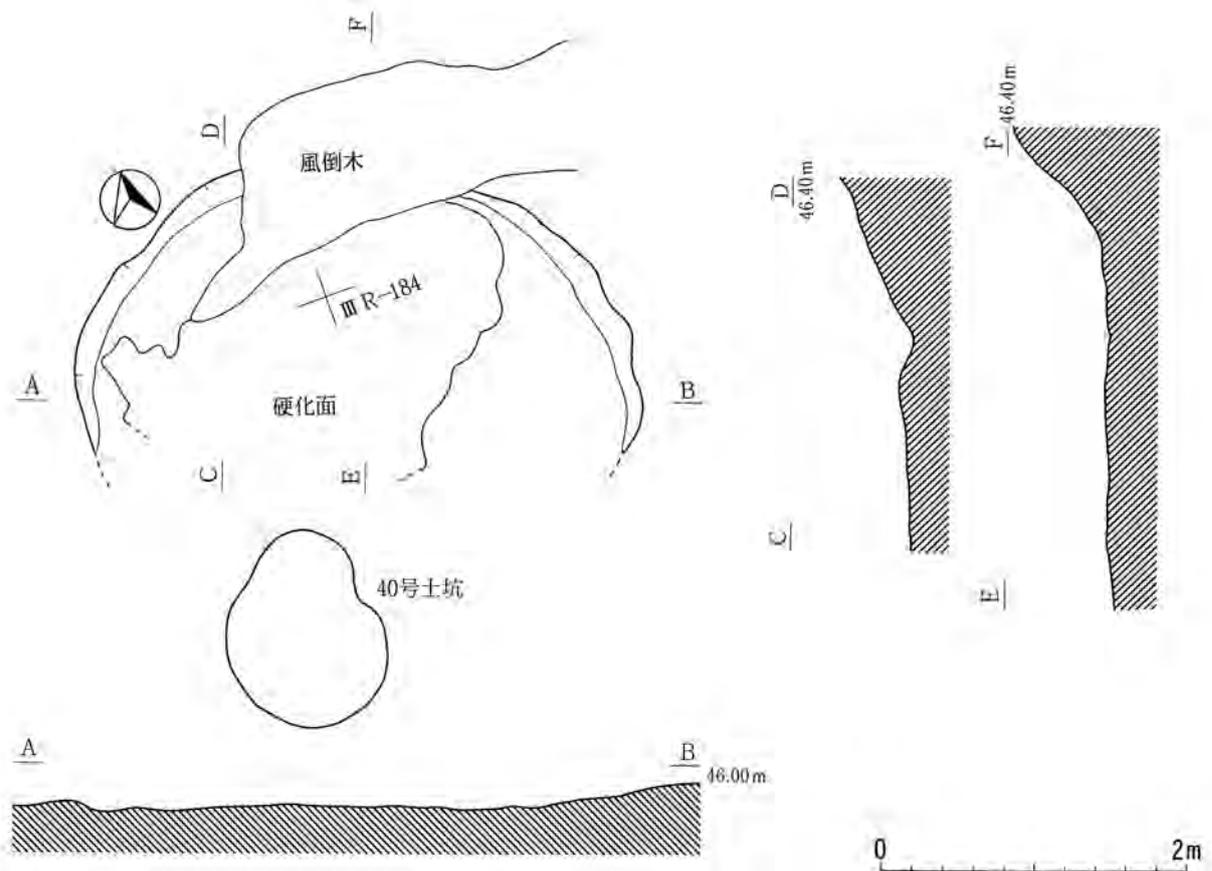


図17 5号住居跡

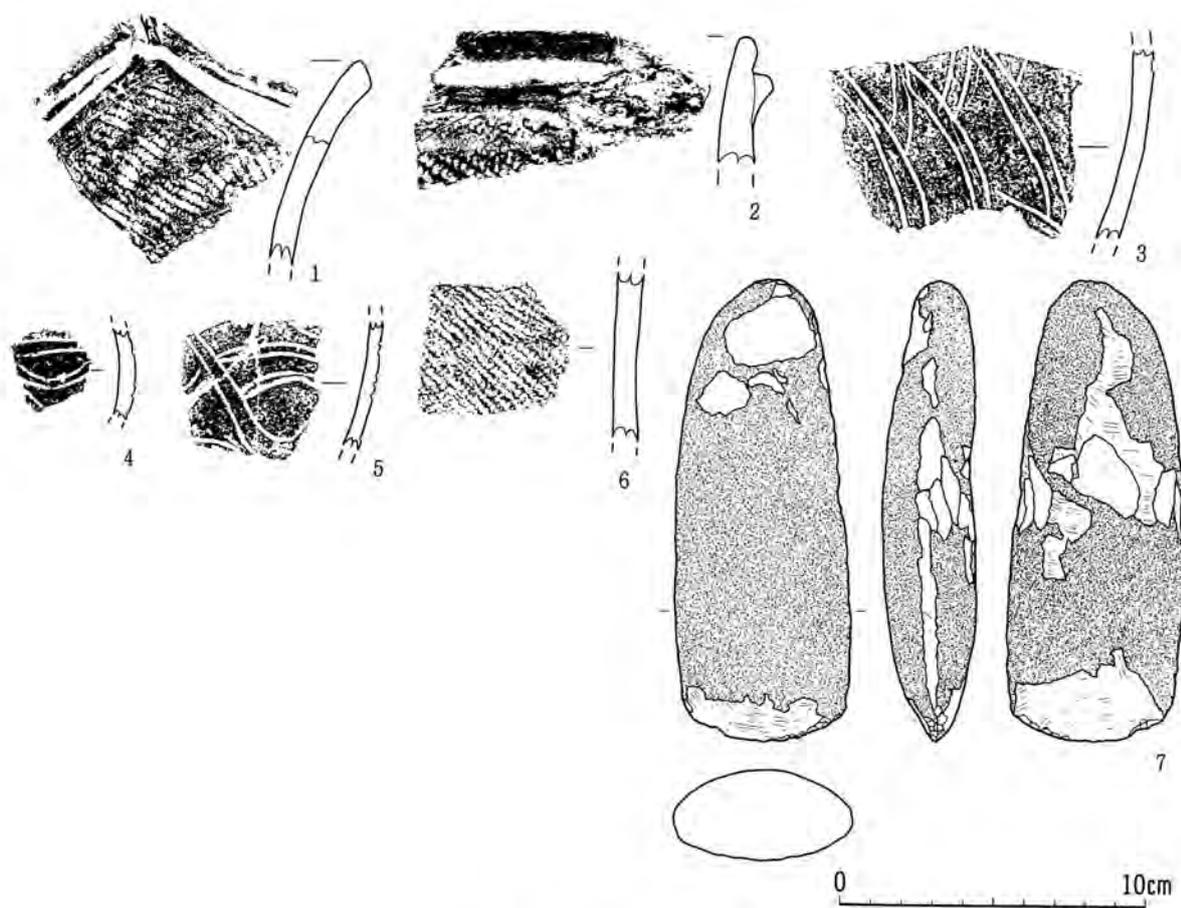


図18 5号住居跡出土土器・石器

5号住居跡出土土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
18-1	ⅢO-183	床直	深鉢	Ⅱ-3	口縁	RLヨコ	口径: 21.0cm
18-2	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅱ-3	口縁	RLヨコ	
18-3	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線	
18-4	ⅢO-184	覆土	鉢?	Ⅲ-1	胴部	沈線、外面炭化物	
18-5	ⅢO-184	覆土	鉢?	Ⅲ-1	胴部	沈線	
18-6	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅳ-1	胴部	RLヨコ	

5号住居跡出土石器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石質	備考
18-7	ⅢO-183	覆土	磨製石斧	Ⅲ-1	303.0	58.0	30.0	435.6	緑色細粒凝灰岩	

## 2 土坑 (図19~28)

## 1号土坑 (図19)

〔位置・確認〕ⅢH-176グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや楕円形に近い形状となっている。大きさは確認面で長径0.96m、短径0.80m、底面で長径0.74m、短径0.62mである。確認面からの壁高は22~21cmであり、全体的に壁は緩やかに立ち上がる。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。底面はやや凹凸があるが、全体としてほぼ平坦である。

〔堆積土〕黒褐色土と暗褐色土を主体とし、これにローム粒が全体的に混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 2号土坑 (図19)

〔位置・確認〕ⅣA-178・179グリッドに位置する。基本層序の第Ⅳ層相当上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は北側の半分が調査区際のため未精査であるが、全体形はおおよそ円形と思われる。大きさは確認面で長径1.40m、短径0.90m、底面で長径1.26m、短径0.70mである。確認面からの壁高は84~62cmで、全体的に壁は急角度で掘り込まれており、南東側底面付近はやや抉れている。底面はほぼ平坦である。

遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、第Ⅴ層相当上面を底面としている。

〔堆積土〕検出面からはほぼ暗褐色土、褐色土、黄褐色土の順に堆積している。全体的に僅かではあるが炭化物粒の混入がある。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 3号土坑 (図19・25)

〔位置・確認〕ⅢK-182グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面とも円形である。大きさは確認面で長径1.04m、短径0.90m、底面で長径0.68m、短径0.64mである。確認面からの壁高は40~34cmで、全体的に壁の立ちあがりは緩やかである。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。底面はほぼ平坦であるが、壁との境がやや不明瞭である。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とし、これにローム粒、炭化物粒が若干混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕覆土より礫石器 (Ⅱ-2類) が1点出土している。〔時期〕不明である。

4号土坑(図19)

[位置・確認] III H-177グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[形態・規模] 平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.90m、短径0.80m、底面で長径0.84m、短径0.62mである。確認面からの壁高は30~20cmで、全体的に壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面はほぼ平坦であるが、全体的に東に傾斜している。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 黒褐色土を主体としており、これにロームブロックなどが若干混入している。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

5号土坑(図19)

[位置・確認] III H-176グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で暗褐色土に縁取られた黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[形態・規模] 平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.82m、短径0.70m、底面で長径0.70m、短径0.53mである。確認面からの壁高は18~14cmである。壁の立ちあがりは上部では垂直だが底面付近は底面との境が非常に不明瞭である。底面はほぼ平坦であるが、全体として若干西に傾斜している。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 黒褐色土と暗褐色土からなり、これにローム粒、炭化物粒が若干混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

6号土坑(図19)

[位置・確認] III L-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[形態・規模] 平面形は確認面、底面ともほぼ円形である。大きさは確認面で長径0.92m、短径0.86m、底面で長径0.72m、短径0.64mである。確認面からの壁高は30~20cmで、全体的に壁は緩やかである。底面はやや中央が凹んだ状態である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 黒褐色土と黒色土を主体とし、これにローム粒が若干混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

## 7号土坑(図20)

〔位置・確認〕ⅢL・M-182グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面とも不整な楕円形となっている。大きさは確認面で長径1m、短径0.75m、底面で長径0.85m、短径0.7mである。確認面からの壁高は35～30cmで、壁は北壁以外はかなり急角度で掘り込まれている。底面はほぼ平坦であり、底面確認作業中に黒褐色土の広がりとして8号土坑を確認した。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒、炭化物粒が混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 8号土坑(図21)

〔位置・確認〕ⅢL・M-182グリッドに位置する。7号土坑の底面確認作業中に黒褐色土の広がりとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面が不整な円形、底面はやや楕円形となっている。大きさは確認面で長径0.55m、短径0.59m、底面で長径0.55m、短径0.43mである。

確認面からの壁高は50～35cmで、南壁がややオーバーハングしている。底面には緩い凹凸があり、中央からみて北東よりに直径20cm、深さ5～7cmの浅い窪みがある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒が混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 9号土坑(図20)

〔位置・確認〕ⅢM-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。また、10号土坑と重複しており、本土坑が切る。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径1.15m、短径1.05m、底面で長径0.8m、短径0.68mである。確認面からの壁高は52～50cmで、南壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面はほぼ平坦であるが、中央部分が若干盛り上がる。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕暗褐色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は2層以下が人為堆積の可能性がある。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

#### 10号土坑(図20)

[位置・確認] ⅢM-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。また、9号土坑と重複しており、土坑が切られる。

[形態・規模] 平面形は南西側が9号土坑により不明であるが、おおよそ確認面、底面とも楕円形と思われる。大きさは確認面で長径1.15m、底面で長径1.04mである。確認面からの壁高は30~25cmで、壁はかなり急角度で掘り込まれている部分と緩やかに掘り込まれている部分がある。底面にはやや凹凸がある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 暗褐色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

#### 11号土坑(図20)

[位置・確認] ⅢM-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。また、12号土坑と重複しており、本土坑が12号土坑を切る。

[形態・規模] 平面形は確認面、底面ともやや不整な卵形となっている。大きさは確認面で長径1.1m、短径0.85m、底面で長径0.95m、短径0.7mである。確認面からの壁高は40~35cmで、全体的に壁はやや急角度で掘り込まれている。底面は中央部分にやや凹凸がある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 黒色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

#### 12号土坑(図20)

[位置・確認] ⅢM-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。また、11号土坑と重複しており、本土坑が11号土坑に切られる。

[形態・規模] 平面形は北側が11号土坑に破壊され不明であるが、確認面、底面ともおおよそ不整な円形と思われる。大きさは残存部で長径0.6m、底面で長径0.35mである。確認面からの壁高は75~70cmで、凹凸があるものの全体的に壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面はほぼ平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 暗褐色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒が混入している。堆積土は人為堆積した状態を示すとみられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

## 13号土坑（図20）

〔位置・確認〕 谷間際のIV D-199グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査中に、第Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕 平面形は斜面地ということもあり、壁の立ち上がりが一部ない部分もあるが、およそ円形になると思われる。大きさは確認面で長径0.92m、短径0.82m、底面で長径0.66m、短径0.64mである。確認面からの壁高は30～20cmで、全体的に壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面には緩い凹凸があるが、ほぼ平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕 暗褐色土と黒褐色土からなり、これにローム粒が混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明である。

## 14号土坑（図20・25）

〔位置・確認〕 Ⅲ N-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕 平面形は確認面、底面とも円形となっている。大きさは確認面で長径0.82m、短径0.78m、底面で長径0.76m、短径0.70mである。確認面からの壁高は64～60cmで、全体的に壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面は緩い凹凸があり、中央部にかけてやや落ち込む。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕 覆土からⅡ-2類、Ⅳ群の縄文土器片とⅡ-2・3類の石器（S-1・2）が出土した。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代中期中葉のものと思われる。

## 15号土坑（図20・25）

〔位置・確認〕 Ⅲ N-183グリッドに位置する。基本土層の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕 平面形は確認面、底面とも円形となっている。大きさは確認面で長径0.94m、短径0.80m、底面で長径0.80m、短径0.72mである。確認面からの壁高は24cmで、全体的に壁はやや急角度で掘り込まれている。底面には緩い凹凸があるが、全体としてはほぼ平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕 黒色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒が混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕 覆土からⅣ群の縄文土器片が出土した。

〔時期〕 出土遺物が細片ということもあり、不明である。

16号土坑 (図21・25)

〔位置・確認〕 IV E-195グリッドの谷間に位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕 平面形は確認面、底面とも円形となっている。大きさは確認面で長径0.94m、短径0.76m、底面で長径0.74m、短径0.58mである。確認面からの壁高は16cmで、西側はやや急な角度で、東側は緩やかに掘り込まれている。底面には全体的にやや凹凸がある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕 黒褐色土と褐色土からなっている。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕 覆土からⅢ-1類の縄文土器片が出土した。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代後期前葉か、それ以降に埋没した遺構であると思われる。

17号土坑 (図21・25)

〔位置・確認〕 Ⅲ O-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕 平面形は確認面、底面ともかなり不整な円形となっている。また東西の壁面はかなりオーバーハングしており、フラスコ形を呈する。大きさは確認面で長径0.75m、短径0.65m、底面で長径0.95m、短径0.7mである。確認面からの壁高は54~48cmである。底面には全体的に緩い凹凸がある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕 黒褐色土と褐色土からなり、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕 覆土からⅣ群の縄文土器片が出土した。

〔時期〕 出土遺物より縄文時代中期後葉から後期前葉のものと思われる。

18号土坑 (図21)

〔位置・確認〕 Ⅲ O-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕 平面形は確認面、底面とも円形となっている。大きさは確認面で長径0.76m、短径0.70m、底面で長径0.70m、短径0.64mである。確認面からの壁高は40~38cmで、全体的に壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面には東側を中心として緩い凹凸がある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は人為堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 不明である。

## 19号土坑（図21）

〔位置・確認〕Ⅲ〇-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともかなり不整な円形となっており、底面の北側がややオーバーハングしている。大きさは確認面で長径0.88m、短径0.84m、底面で長径0.78m、短径0.72mである。確認面からの壁高は32～28cmである。底面には緩い凹凸があり、南側にやや大きな凹みが目立つ。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土からなり、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 20号土坑（図21）

〔位置・確認〕Ⅲ〇-182グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや隅丸方形形状となっている。大きさは確認面で長径0.84m、短径0.76m、底面で長径0.76m、短径0.68mである。確認面からの壁高は26～24cmで、全体的に壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面には緩い凹凸があるが、ほぼ平坦であり、全体として西に傾斜している。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土と暗褐色土からなり、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 21号土坑（図21・26）

〔位置・確認〕Ⅲ〇-183・184グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともかなり不整な円形となっており、南西側がややオーバーハングしている。大きさは確認面で長径1.02m、短径0.92m、底面で長径1.02m、短径0.68mである。確認面からの壁高は68～60cmである。底面には緩い凹凸があり、全体として西に傾斜している。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した後、人為堆積した可能性がある。

〔出土遺物〕覆土からⅡ-3～Ⅲ-1類などの縄文土器片が多数出土した。

〔時期〕出土遺物より縄文時代中期末葉から後期前葉のものと思われる。

22号土坑 (図22)

[位置・確認] III O-184グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。また、北側の不整な広がり植物攪乱である。

[形態・規模] 平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径1.1m、短径0.95m、底面で長径0.60m、短径0.50mである。確認面からの壁高は45～42cmで、全体的に壁は掘り鉢状に掘り込まれている。底面はほぼ平坦であり、全体として南に傾斜している。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 黒色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

23号土坑 (図22・26)

[位置・確認] III L-184グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[形態・規模] 平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.96m、短径0.90m、底面で長径0.72m、短径0.66mである。確認面からの壁高は56～50cmで、全体的に壁はかなり凹凸があり、東壁がややオーバーハング気味になっている。底面には緩い凹凸がある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は人為堆積した可能性がある。

[出土遺物] 覆土からⅣ群の縄文土器片と剥片石器 (I-6類)、石棒の欠損品が出土した。

[時期] 出土遺物より不明であるが、縄文時代中期末葉の可能性はある。

24号土坑 (図22)

[位置・確認] III L-183・184グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

[形態・規模] 南東部が調査区外のため未精査ではあるが、確認面、底面ともやや不整な円形になると思われる。大きさは確認面で長径1.35m、底面で長径1.15mである。確認面からの壁高は20～13cmで、全体的に壁は緩やかに掘り込まれている。底面には緩い凹凸があり、中央の南西よりに34cm×38cm、底面からの深さ10cmの凹みがある。底面は全体として南に傾斜している。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 不明である。

## 25号土坑（図22）

〔位置・確認〕ⅢL-184グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。また、26号土坑と重複しているが、調査時の不手際により新旧関係は不明である。

〔形態・規模〕南半部が調査区外のため未精査であるが、平面形は確認面、底面とも不整な円形になると思われる。大きさは確認面で長径0.95m、底面で長径0.83mである。

確認面からの壁高は43～38cmで、全体的に壁は凹凸があり、緩やかに掘り込まれている。底面はほぼ平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕暗褐色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。4層はしまりのない黒色土であり植物攪乱である。自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 26号土坑（図22・27）

〔位置・確認〕ⅢL・M-184グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は南側が25号土坑との重複により不明であるが、確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.94m、短径0.86m、底面で長径0.80m、短径0.78mである。確認面からの壁高は44～30cmで、全体的に壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面には緩い凹凸があり、全体として南に傾斜している。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒色土と褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕覆土からⅣ群の縄文土器片と磨製石斧の欠損品が出土した。

〔時期〕出土遺物より不明であるが、縄文時代中期後葉の可能性はある。

## 27号土坑（図22）

〔位置・確認〕ⅢO・P-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともほぼ円形となっている。大きさは確認面で長径0.90m、短径0.86m、底面で長径0.78m、短径0.78mである。確認面からの壁高は20～10cmで、全体的に壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面には緩い凹凸ややがあるが、全体としてほぼ平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は人為堆積した可能性はある。また、2層は捨て焼土である。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

### 28号土坑 (図23・27)

〔位置・確認〕ⅢP-180グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともかなり不整な円形となっており、壁面の北・南側がオーバーハングしている。大きさは確認面で長径0.92m、短径0.68m、底面で長径0.94m、短径0.76mである。確認面からの壁高は20～10cmである。底面には緩い凹凸があり、全体として中央がやや凹んでいる。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土はロームブロックの混入の割合が高い層もあり、人為堆積した可能性が高い。

〔出土遺物〕覆土からⅡ-2-b類の縄文土器片が出土した。

〔時期〕出土遺物より縄文時代中期中葉のものと思われる。

### 29号土坑 (図23)

〔位置・確認〕ⅢP-182グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.90m、短径0.80m、底面で長径0.56m、短径0.54mである。確認面からの壁高は64～50cmで、全体的に壁はやや急角度で掘り込まれている。底面には緩い凹凸があり、全体として南に傾斜している。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は3・4層が人為堆積の可能性があるが、自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

### 30号土坑 (図23)

〔位置・確認〕ⅢP-180グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.78m、短径0.70m、底面で長径0.62m、短径0.52mである。確認面からの壁高は36～32cmである。南側の壁から底面にかけての凹凸が激しい。底面はほぼ平坦であるが、中央が若干凹んだ状況を呈す。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土と暗褐色土からなり、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 31号土坑（図23）

〔位置・確認〕ⅢL-176グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面とも円形となっている。大きさは確認面で長径0.70m、短径0.66m、底面で長径0.40m、短径0.40mである。確認面からの壁高は26～20cmで、全体的に底面付近は丸みを帯びており、壁は緩やかである。底面には緩い凹凸がある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土と暗褐色土からなり、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 32号土坑（図23）

〔位置・確認〕ⅢO・P-182グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。また、33号土坑と重複しており、本土坑が33号土坑に切られる。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともかなり不整な円形となっている。大きさは確認面で長径1.60m、短径0.46m、底面で長径1.70m、短径0.36mである。確認面からの壁高は48～41cmで、北から南東側がややオーバーハングしている。底面には緩い凹凸がある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 33号土坑（図23・27）

〔位置・確認〕ⅢO・P-182グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。また、32号土坑と重複しており、本土坑が32号土坑を切る。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.9m、短径0.78m、底面で長径0.78m、短径0.75mである。確認面からの壁高は40～33cmで、西壁が若干オーバーハングしている。底面はほぼ平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕覆土からⅣ群の縄文土器片が出土した。

〔時期〕出土遺物より不明であるが、縄文時代中期後葉の可能性がある。

34号土坑 (図23・27)

〔位置・確認〕ⅢQ-180グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.96m、短径0.78m、底面で長径0.68m、短径0.62mである。確認面からの壁高は24～9cmで、南壁は緩やかに、北壁はやや急角度に掘り込まれている。底面には凹凸があり平坦さにかける。全体として中央部が凹んだ状況を呈している。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕暗褐色土と黒褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土はともに自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕覆土よりⅡ-2～3類と思われる縄文土器片が出土した。

〔時期〕出土遺物より縄文時代中期中葉のものと思われる。

35号土坑 (図24)

〔位置・確認〕ⅢN-184グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面とも円形となっている。大きさは確認面で長径0.92m、短径0.86m、底面で長径0.84m、短径0.78mである。

確認面からの壁高は28～22cmで、全体的に壁はかなり急角度で掘り込まれている。底面には緩い凹凸がある。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土と暗褐色土からなっており、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕覆土からの出土はなかったが、本土坑確認面の10cm上より図46-323の切断底の壺形土器が出土している。

〔時期〕不明である。

36号土坑 (図24・27)

〔位置・確認〕ⅢL-182・183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.82m、短径0.68m、底面で長径0.66m、短径0.46mである。確認面からの壁高は20～18cmで、全体的に壁はやや急角度で掘り込まれている。底面はほぼ平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒色土と暗褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕覆土よりⅡ-2-c相当の縄文土器片が出土している。

〔時期〕出土遺物より縄文時代中期後葉のものと思われる。

## 37号土坑（図24）

〔位置・確認〕ⅢL-182・183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや不整な円形となっている。大きさは確認面で長径0.52m、短径0.5m、底面で長径0.40m、短径0.36mである。確認面からの壁高は18～15cmで、全体的に壁は若干の凹凸があるが、緩やかに掘り込まれている。底面はほぼ中央が窪んだ形状となっている。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒褐色土と暗褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕なし。

〔時期〕不明である。

## 38号土坑（図24・27）

〔位置・確認〕ⅢM-182グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。また、39号土坑と重複しており、本土坑が切る。

〔形態・規模〕39号土坑との重複により北東側が不明であるが、平面形は確認面、底面ともおおよそ不整な円形と思われる。大きさは確認面はおおよそ0.73m、底面は長径0.6m、短径0.57mである。確認面からの壁高は53～50cmで、全体的に壁はやや急角度で掘り込まれており、南壁が若干オーバーハングしている。底面はほぼ平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕覆土からⅢ-1類とⅣ群の縄文土器片が出土している。

〔時期〕出土遺物より縄文時代後期前葉のものと思われる。

## 39号土坑（図24・27）

〔位置・確認〕ⅢM-182グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。また、38号土坑と重複しており、本土坑が38号土坑に切られる。

〔形態・規模〕平面形は確認面、底面ともやや不整な楕円形となっている。大きさは確認面で長径1.66m、短径0.82m、底面で長径1.56m、短径0.72mである。確認面からの壁高は21～18cmで、全体的に壁は緩やかに掘り込まれている。底面には緩い凹凸があるが、全体として平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

〔堆積土〕黒色土と暗褐色土からなり、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

〔出土遺物〕覆土からⅡ-3～Ⅲ-1類の縄文土器片が多量に出土している。

〔時期〕出土遺物より縄文時代中期後葉のものと思われる。

40号土坑 (図24・28)

[位置・確認] III Q-184グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みと、礫の集中域として確認した。

[形態・規模] 平面形は確認面は北東側に張り出しがあり、底面はほぼ円形となっている。大きさは確認面で長径1.26m、短径0.92m、底面で長径0.94m、短径0.72mである。確認面からの壁高は32～26cmで、南側はやや急な角度で掘り込まれているが、北側は緩やかに掘り込まれている。底面には緩い凹凸があるが、全体的にはほぼ平坦である。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[付属施設] 北東側の張り出し部壁際におおむね沿う形で10数個の礫を2層中に確認した。また、その礫群の南側に45×38cmのほぼ円形の焼土を確認した。土全体が暗赤褐色に焼けており、混入物等の確認はできないが、土質はおおむね4層以下の層と同じであり、捨て焼土ではなく原地性の焼土である。本土坑のすぐ北に5号住居跡が存在し、位置的にこの石組みと焼土跡が5号住居跡の炉に相当する可能性はある。

[堆積土] 黒褐色土と暗褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。また、堆積土は人為堆積した状態を示すとみられる。

[出土遺物] 覆土からⅡ-b-1類、Ⅳ群の縄文土器片(P-1～5)、石鏃、石皿・台石の類(S-1・2)が出土した。

[時期] 出土遺物よりおよそ縄文時代中期中葉かそれ以降の遺構の可能性はある。

41号土坑 (図24・28)

[位置・確認] III R-183グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査時に、第Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。

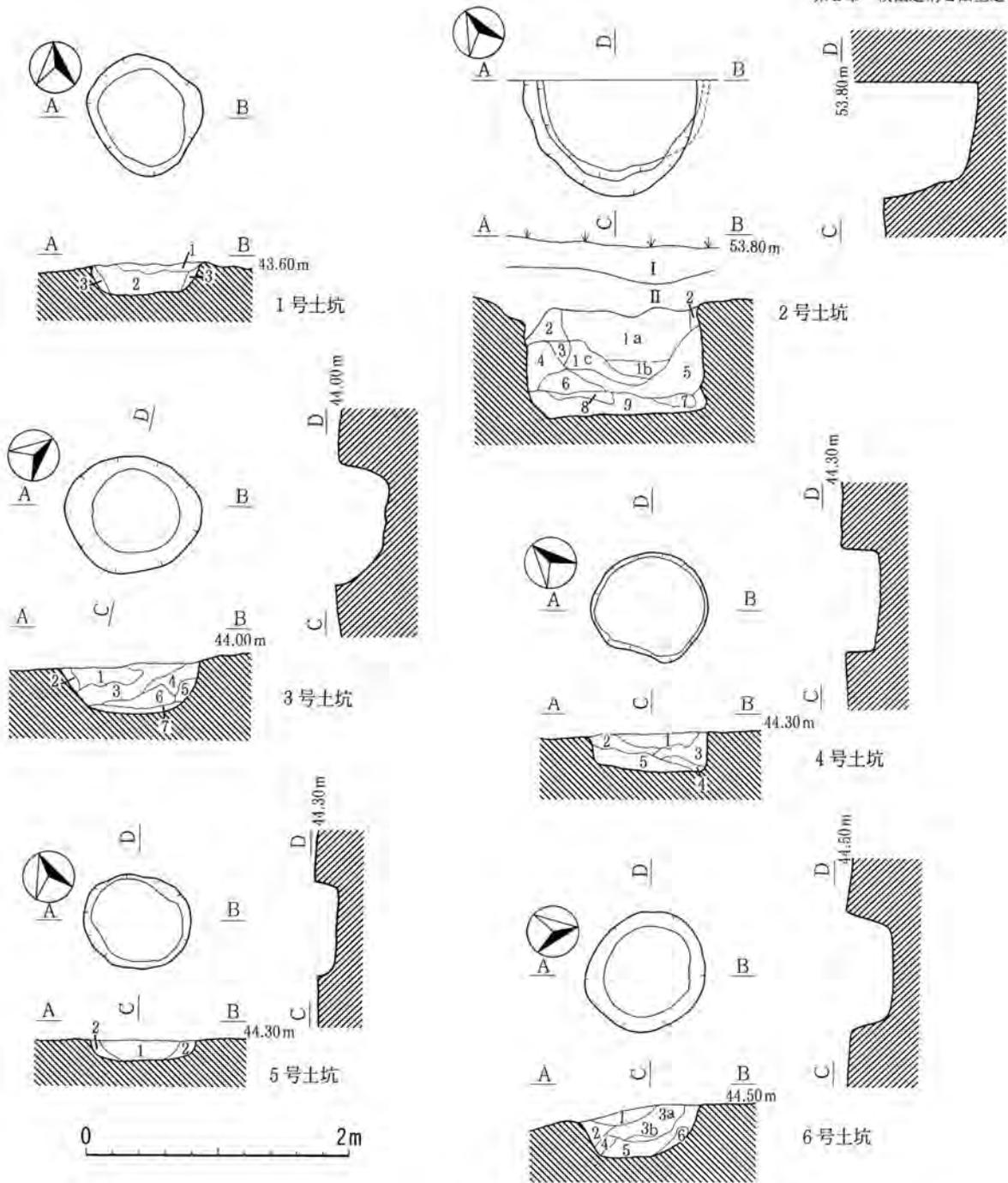
[形態・規模] 平面形は確認面、底面ともやや不整な楕円形となっている。大きさは確認面で長径1.36m、短径0.78m、底面で長径1.06m、短径0.64mである。確認面からの壁高は46～22cmで、全体的に壁はやや急角度で掘り込まれている。底面には緩い凹凸があり、南側に直径55cm、底面からの深さ13～18cmの凹みがある。調査の段階で、別遺構の重複ではないと判断した。遺構は第Ⅳ層を掘り込んで作られ、同層を底面としている。

[堆積土] 黒褐色土と暗褐色土を主体とし、これにローム粒などが混入している。堆積土は自然堆積した状態を示すとみられる。

[出土遺物] 覆土からⅡ-2・3類の縄文土器片が出土した。

[時期] 出土遺物より、縄文時代中期後葉のものと思われる。

(三林)



1号土坑土層注記

- 1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒3%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒5%、粒径5~10mmのLB1%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R3/2 粒径5~10mmのLB2%混入。
- 4層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒3%混入。

2号土坑土層注記

- 1a層 暗褐色土 10Y R3/4 ローム粒1%混入。
- 1b層 暗褐色土 10Y R3/4 ローム粒3%混入。
- 1c層 褐色土 10Y R4/4 ローム粒2%、粒径15mmの小石1%混入。
- 2層 褐色土 10Y R4/4 ローム粒2%混入。
- 3層 褐色土 10Y R4/6 ローム粒1%混入。
- 4層 褐色土 10Y R4/6 ローム粒2%、粒径2~15mmの小石1%混入。
- 5層 黄褐色土 10Y R5/6 ローム粒1%、粒径1mmの小石1%混入。
- 6層 黄褐色土 10Y R5/6 ローム粒3%混入。
- 7層 黄褐色土 10Y R5/8 ローム粒2%混入。
- 8層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒3%混入。
- 9層 黄褐色土 10Y R5/6 炭化物粒1%混入。

3号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒1%、炭化物粒1%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒1%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒2%、炭化物粒1%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒5%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒2%混入。
- 6層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒2%、炭化物粒1%混入。
- 7層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒1%混入。

4号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒10%、炭化物粒1%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径10~20mmのLB5%混入。
- 3層 黄褐色土 10Y R5/6 粒径5~20mmのLB10%、黒褐色土2%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R3/1 粒径5~10mmのLB2%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒2%、炭化物粒1%混入。

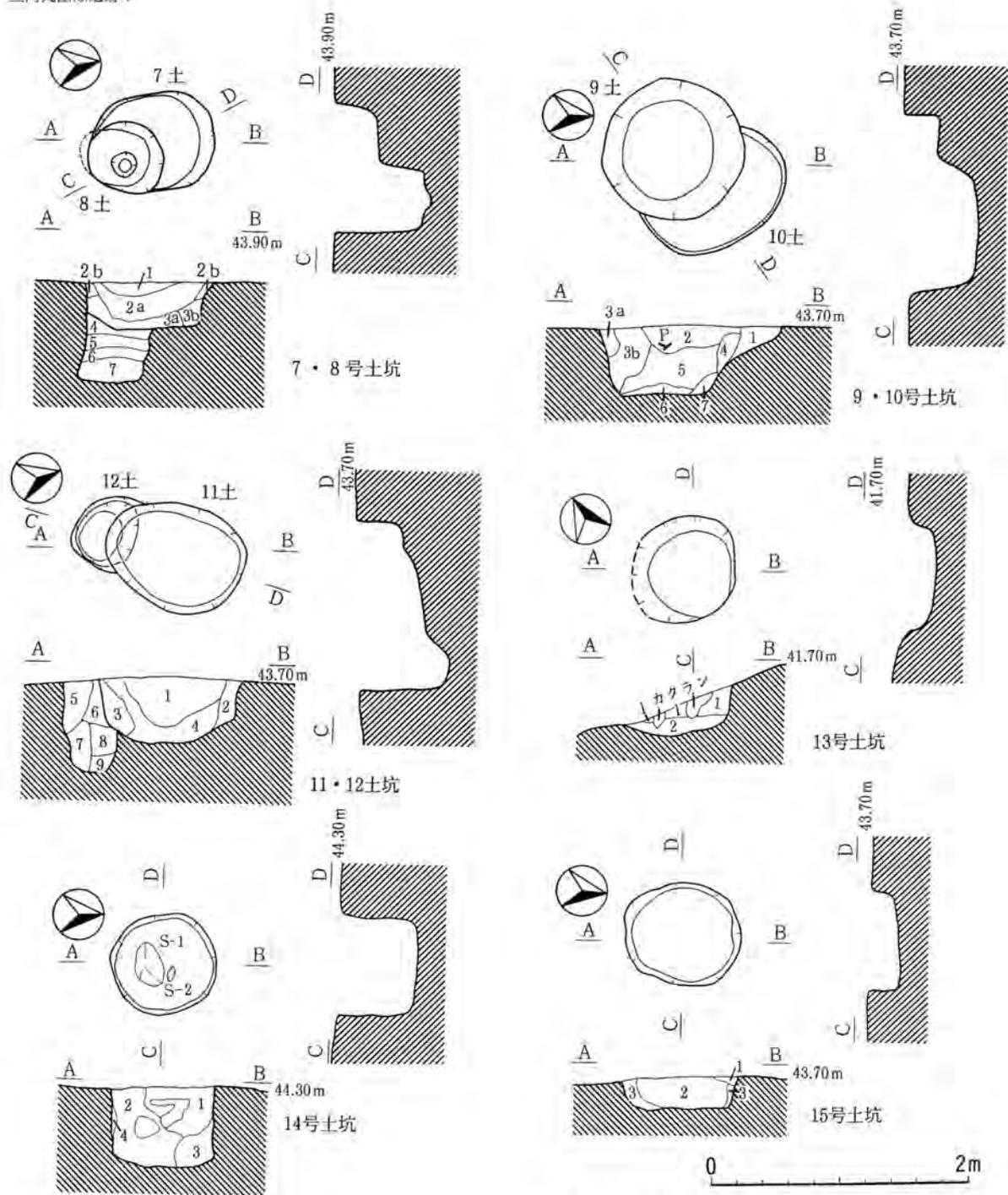
5号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒2%、炭化物粒1%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒3%、炭化物粒1%混入。

6号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒3%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒5%混入。
- 3a層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒5%混入。
- 3b層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%混入。
- 4層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒2%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒5%混入。
- 6層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒5%混入。

図19 1、2、3、4、5、6号土坑



7・8号土坑土層注記

- 1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒3%、炭化物粒1%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒5%、炭化物粒2%混入。
- 2a層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒1%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%混入。
- 3a層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%、炭化物1%混入。
- 3b層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%、炭化物1%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒30%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒20%、炭化物1%混入。
- 6層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒1%混入。
- 7層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒30%混入。

9・10号土坑土層注記

- 1層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒10%混入。
- 2層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒1%、炭化物粒1%混入。
- 3層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒7%混入。
- 3a層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒1%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R3/1 粒径10~20mmのLB2%、ローム粒5%混入。
- 6層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒5%、炭化物粒3%混入。
- 7層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径30mmのLB、ローム粒3%。

11・12号土坑土層注記

- 1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒3%、粒径30~40mmのLB5%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/2 炭化物粒5%、粒径20mmのLB3%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒2%、炭化物粒7%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒・炭化物粒3%混入。
- 5層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒10%、炭化物粒5%混入。
- 6層 褐色土 10Y R4/4 黒褐色土3%混入。
- 7層 褐色土 10Y R4/6 黒褐色土5%混入。
- 8層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒5%混入。
- 9層 暗褐色土 10Y R3/4 ローム粒1%混入。

13号土坑土層注記

- 1層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒3%、LB3%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒2%、炭化物粒1%混入。

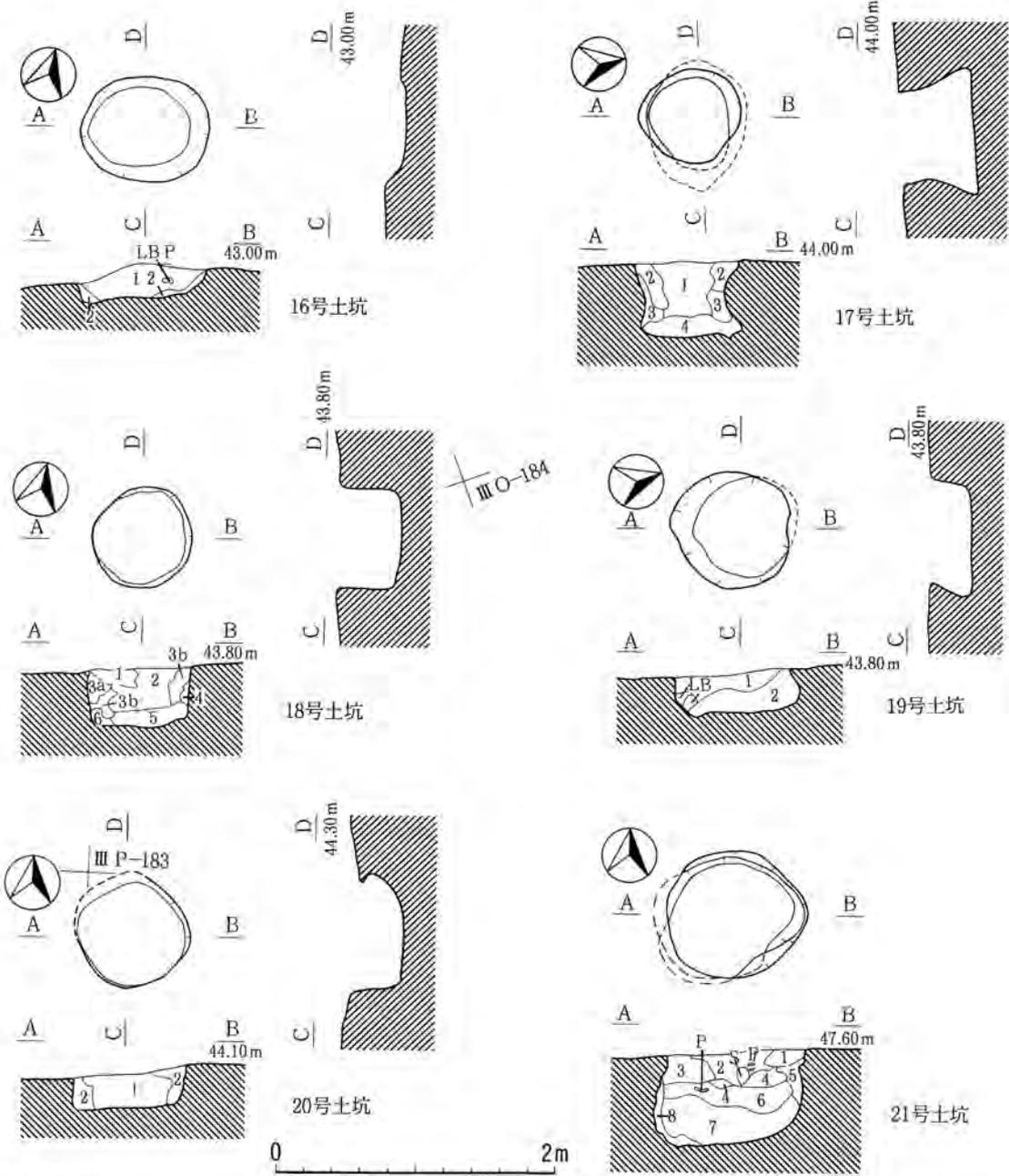
14号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒3%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒1%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%、炭化物粒3%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R2/2 粒径10~20mmのLB3%、炭化物粒1%混入。

15号土坑土層注記

- 1層 黒色土 10Y R3/1 ローム粒1%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒3%混入。
- 3層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒3%、LB5%混入。

図20 7、8、9、10、11、12、13、14、15号土坑



16号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/1 粒径100mmのL B 5%混入。
- 2層 褐色土 10Y R4/4 黒色土3%混入。

17号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム、焼土粒3%、粒径10~20mmのL B 5%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒、粒径10~20mmのL B 1%混入。
- 3層 褐色土 10Y R4/4 ローム粒50%、炭化物粒1%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム・炭化物粒2%、粒径10mmのL B 2%混入。

18号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒5%混入。
- 3a層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒5%、粒径30~50mmのL B 20%混入。
- 3b層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒5%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R3/1 粒径50mmのL B 50%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒2%、炭化物粒5%混入。
- 6層 黒褐色土 10Y R3/1 粒径50mmのL B 50%混入。

19号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒2%、粒径50mmのL B 1%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R3/3 ローム粒5%、粒径5~10mmのL B 2%混入。

20号土坑土層注記

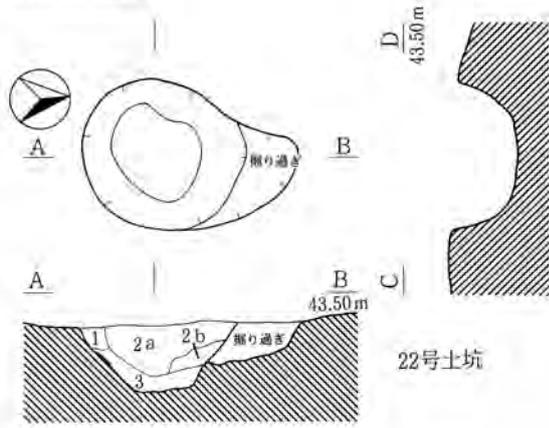
- 1層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒5%、粒径50mmのL B 1%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒10%混入。

21号土坑土層注記

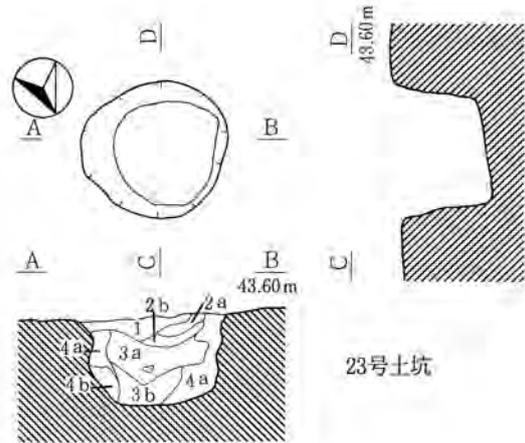
- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒1%、粒径10mmのL B 5%混入。
- 2層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒1%、焼土粒3%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%、粒径10~20mmのL B 5%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒2%、焼土50%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒10%、炭化物粒5%混入。
- 6層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒3%、炭化物粒5%混入。
- 7層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒10%、炭化物粒3%混入。
- 8層 黒褐色土 10Y R3/1 粒径30~50mmのL B 50%混入。

図21 16、17、18、19、20、21号土坑

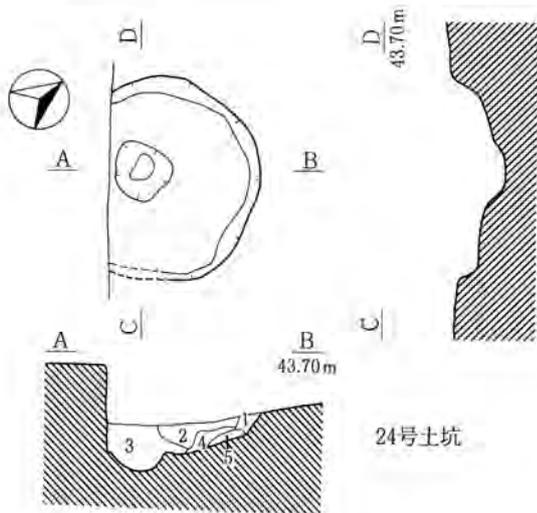
三内丸山(6)遺跡1



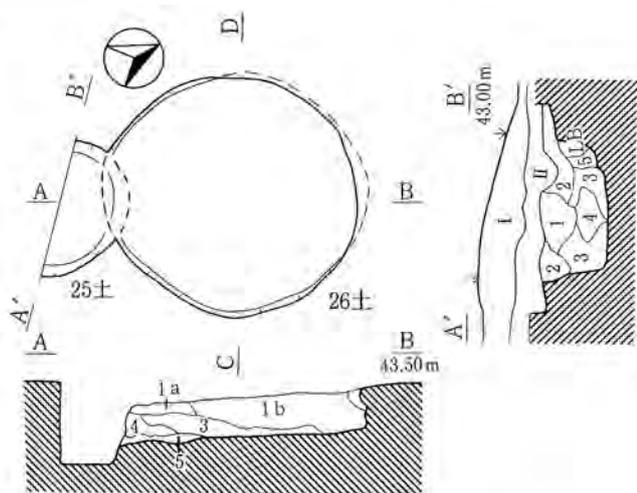
22号土坑



23号土坑

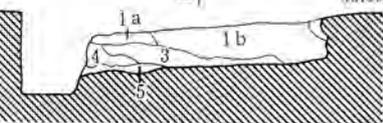


24号土坑

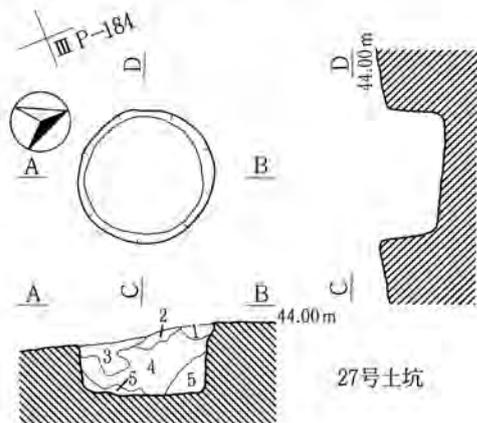


25土

26土



25・26号土坑



27号土坑

22号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R3/3 ローム粒2%混入。
- 2層 黒色土 10Y R11/1 ローム粒3%、炭化物粒2%混入。
- 2a層 黒色土 10Y R2/1 粒径10~15mmのLB1%混入。
- 2b層 黒色土 10Y R2/2 粒径10~15mmのLB2%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/2 粒径10~15mmのLB2%混入。

23号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R3/3 粒径20mmのLB1%、ローム粒2%。
- 2層 黄褐色土 10Y R5/6 粒径10~20mmのLB30%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R4/3 ローム粒2%混入。
- 4層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒3%、炭化物粒2%混入。
- 5層 黒色土 10Y R2/1 粒径10mmのLB1%混入。
- 6層 黒色土 10Y R2/1 粒径10~15mmのLB2%、炭化物粒2%混入。
- 7層 黒褐色土 10Y R3/1 粒径10~20mmのLB2%混入。
- 8層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径10~20mmのLB1.7%混入。

24号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/5 粒径10~20mmのLB5%。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒2%混入。
- 3層 黒色土 10Y R11/1 ローム粒1%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R2/1 ローム粒1%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒1%混入。

25号土坑土層注記

- 1層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒10%、粒径30mmのLB1%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒2%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%、炭化物粒2%混入。
- 4層 黒色土 10Y R11/1 ローム粒1%、炭化物粒3%混入。植物攪乱。
- 5層 褐色土 10Y R4/4 ローム粒10%混入。

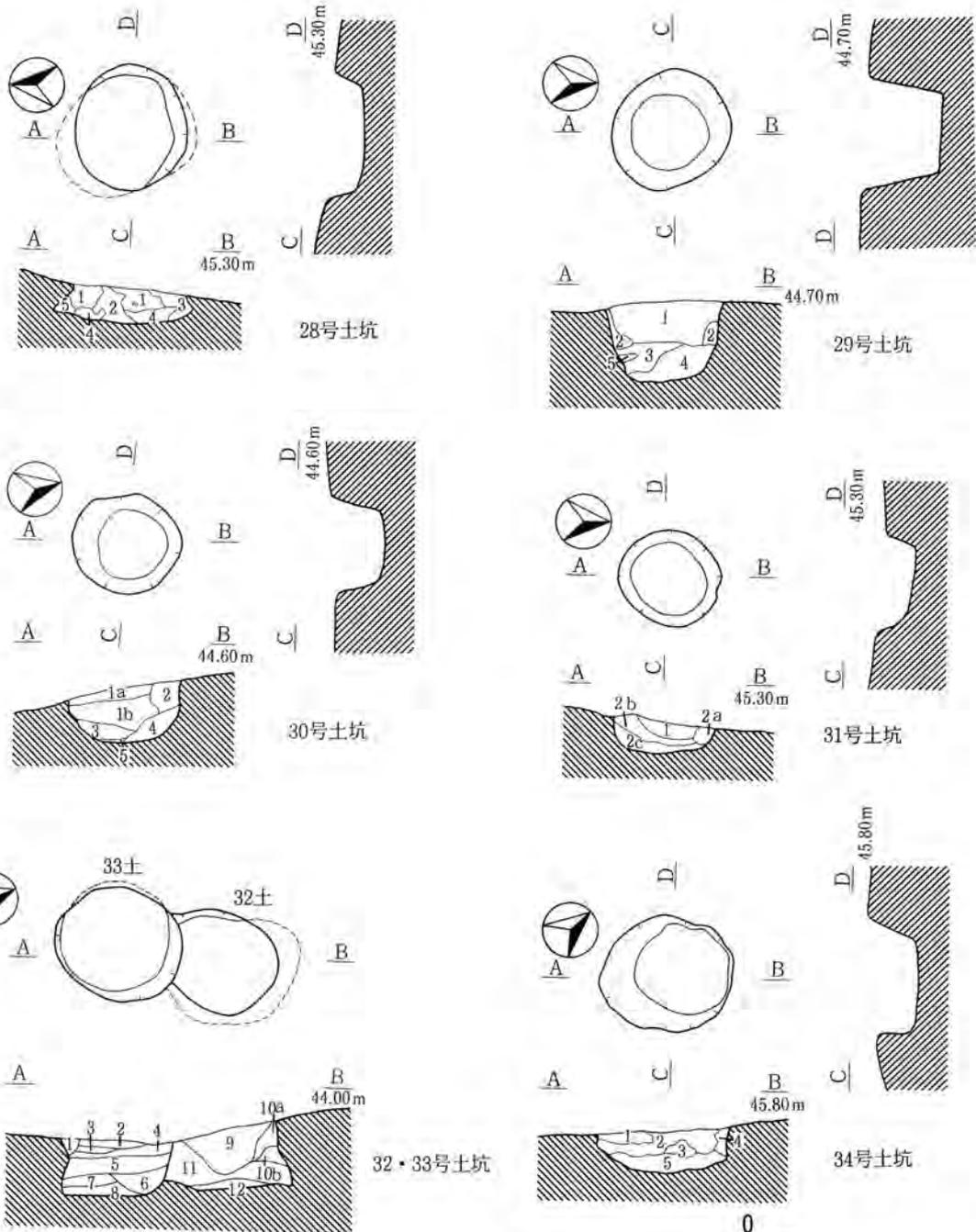
26号土坑土層注記

- 1層 黒色土 10Y R2/1 粒径10~15mmのLB2%混入。
- 2層 黒色土 10Y R11/1 粒径10mmのLB1%、炭化物粒3%混入。
- 3層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径10~20mmのLB5%混入。
- 4層 褐色土 10Y R4/6 粒径10~30mmのLB5%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%混入。
- 6層 黄褐色土 10Y R5/6 ローム粒4%混入。

27号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒2%、炭化物粒1%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R5/8 炭化物粒3%混入。
- 3層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒2%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒3%混入。
- 5層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒10%、炭化物粒2%混入。

図22 22、23、24、25、26、27号土坑



28号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒5%、炭化物粒2%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒10%、炭化物粒3%混入。
- 3層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒2%、粒径30mmのLB1%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒1%、焼土粒1%混入。
- 5層 暗褐色土 10Y R3/4 粒径30~50mmのLB80%混入。

29号土坑土層注記

- 1層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒3%、炭化物粒1%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%混入。
- 3層 黒色土 10Y R1/1 ローム粒2%、粒径20~50mmのLB5%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒10%、粒径30~50mmのLB10%混入。

30号土坑土層注記

- 1a層 黒褐色土 10Y R2/3 粒径30~50mmのLB5%混入。
- 1b層 黒褐色土 10Y R2/3 粒径10~20mmのLB5%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径10~30mmのLB3%、ローム粒5%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒3%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒1%混入。
- 5層 暗褐色土 10Y R2/3 粒径10~20mmのLB50%混入。

31号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R3/2 粒径10~20mmのLB、ローム粒5%混入。
- 1a層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径20~30mmのLB10%混入。
- 1b層 暗褐色土 10Y R3/4 粒径10mmのLB3%、ローム粒3%混入。
- 1c層 暗褐色土 10Y R3/4 粒径10~20mmのLB30%混入。

32・33号土坑土層注記

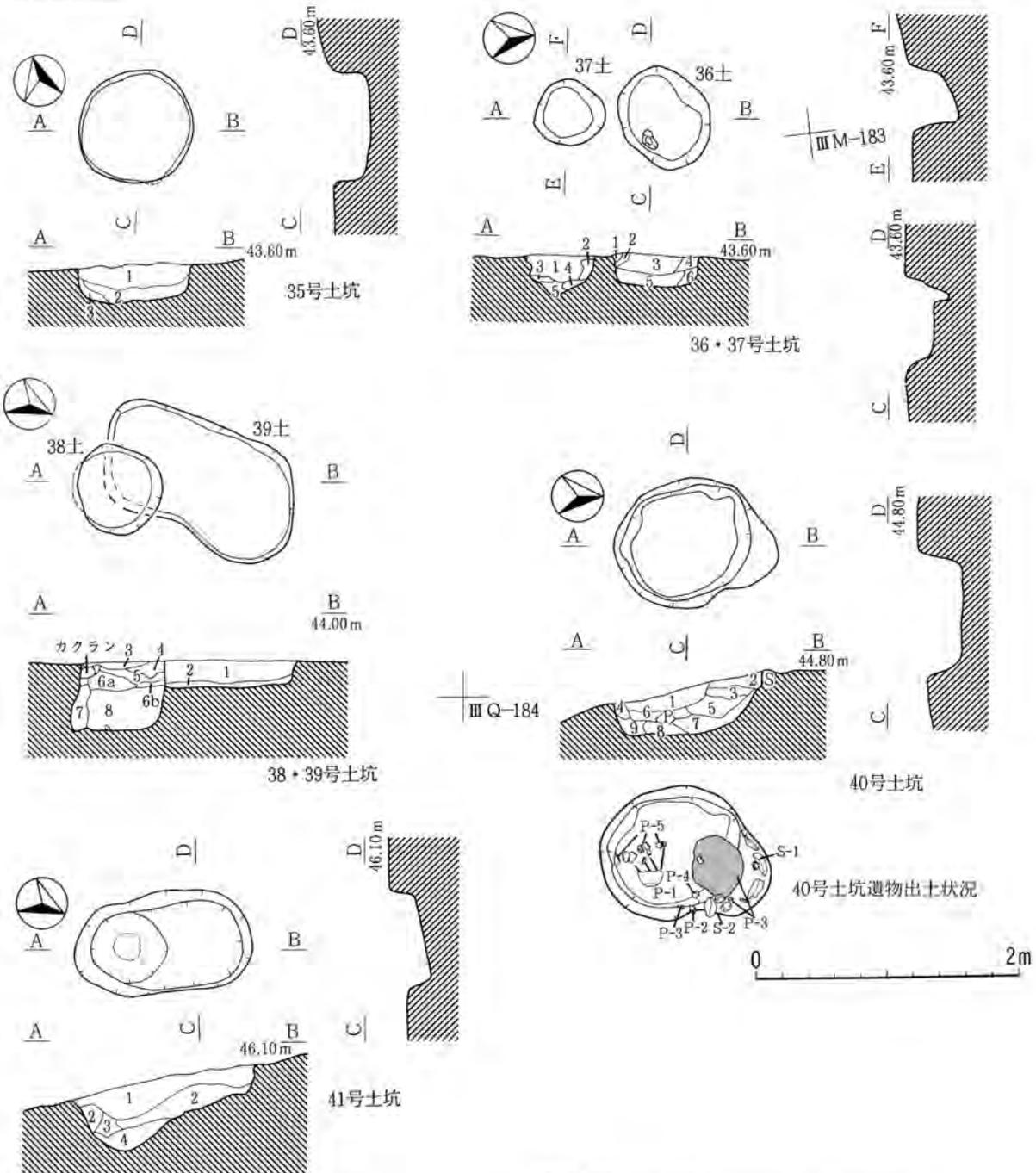
- 1層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒10%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒10%、粒径10mmのLB30%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒1%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒5%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒10%、炭化物粒1%、粒径30mmのLB1%混入。
- 6層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒5%、炭化物粒1%混入。
- 7層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒3%混入。
- 8層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒10%、粒径30mmのLB2%混入。
- 9層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒5%、炭化物粒7%、粒径10~20mmのLB3%混入。
- 10層 黒褐色土 10Y R2/2 粒径10mmのLB10%混入。
- 10a層 黒褐色土 10Y R2/3 粒径30~50mmのLB30%混入。
- 11層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒10%、炭化物粒3%混入。
- 12層 黒褐色土 10Y R3/1 ローム粒5%、炭化物粒1%混入。

34号土坑土層注記

- 1層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒1%、焼土粒5%、炭化物粒3%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒5%、炭化物粒7%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/1 ローム粒2%混入。
- 4層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒5%、ロームブロック30%混入。
- 5層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒5%、炭化物粒7%、焼土粒2%混入。

図23 28、29、30、31、32、33、34号土坑

三内丸山(6遺跡)



35号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%、焼土粒1%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒3%、炭化物粒1%混入。
- 3層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒5%、粒径30mmのLB1%混入。

36号土坑土層注記

- 1層 褐色土 10Y R4/4 粒径5mmのLB5%混入。
- 2層 褐色土 10Y R4/4 粒径5~10mmのLB5%混入。
- 3層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒1%混入。
- 4層 黒褐色土 10Y R3/2 ローム粒1%混入。
- 5層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径20mmのLB30%混入。
- 6層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径20mmのLB10%混入。

37号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒1%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径20mmのLB10%混入。
- 3層 褐色土 10Y R4/6 粒径10mmのLB20%混入。
- 4層 黄褐色土 10Y R5/8 粒径10~20mmのLB20%混入。
- 5層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒5%混入。

38・39号土坑土層注記

- 1層 黒色土 10Y R1/1 ローム粒1%、炭化物粒2%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒・焼土粒1%混入。
- 3層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒5%、炭化物粒5%混入。
- 4層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒3%、焼土粒1%混入。
- 5層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒1%、炭化物粒5%混入。
- 6層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒50%混入。
- 7層 黒色土 10Y R1/1 ローム粒7%、粒径20~30mmのLB3%混入。
- 8層 黒色土 10Y R2/1 粒径30mmのLB30%混入。

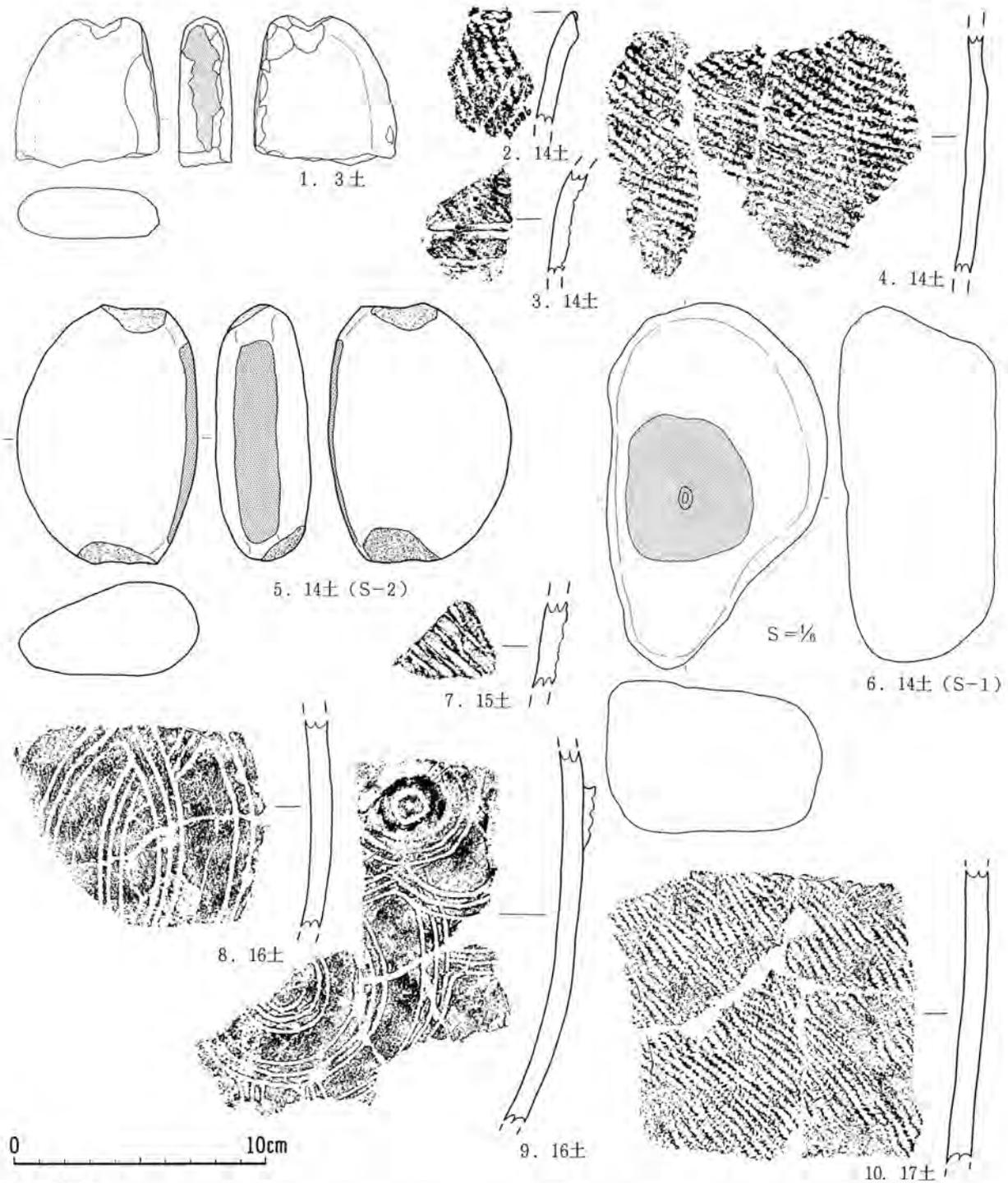
40号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 炭化物粒3%、焼土粒1%混入。
- 2層 黒褐色土 10Y R2/3 ローム粒3%、焼土粒5%混入。
- 3層 暗赤褐色土 5Y R3/4 焼土層。
- 4層 暗褐色土 10Y R3/4 ローム粒・炭化物粒1%混入。
- 5層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒1%、炭化物粒5%混入。
- 6層 暗褐色土 10Y R3/3 ローム粒1%混入。
- 7層 暗褐色土 10Y R3/4 炭化物粒1%、粒径20mmのLB10%混入。
- 8層 暗褐色土 10Y R3/3 炭化物粒3%、粒径10~15mmのLB2%混入。
- 9層 暗褐色土 10Y R3/4 粒径10~20mmのLB5%混入。

41号土坑土層注記

- 1層 黒褐色土 10Y R2/2 ローム粒5%、炭化物粒1%混入。
- 2層 暗褐色土 10Y R3/3 粒径30~50mmのLB20%混入。
- 3層 黒色土 10Y R2/1 ローム粒5%混入。
- 4層 暗褐色土 10Y R3/4 ローム粒10%、粒径30mmのLB1%混入。

図24 35、36、37、38、39、40、41号土坑



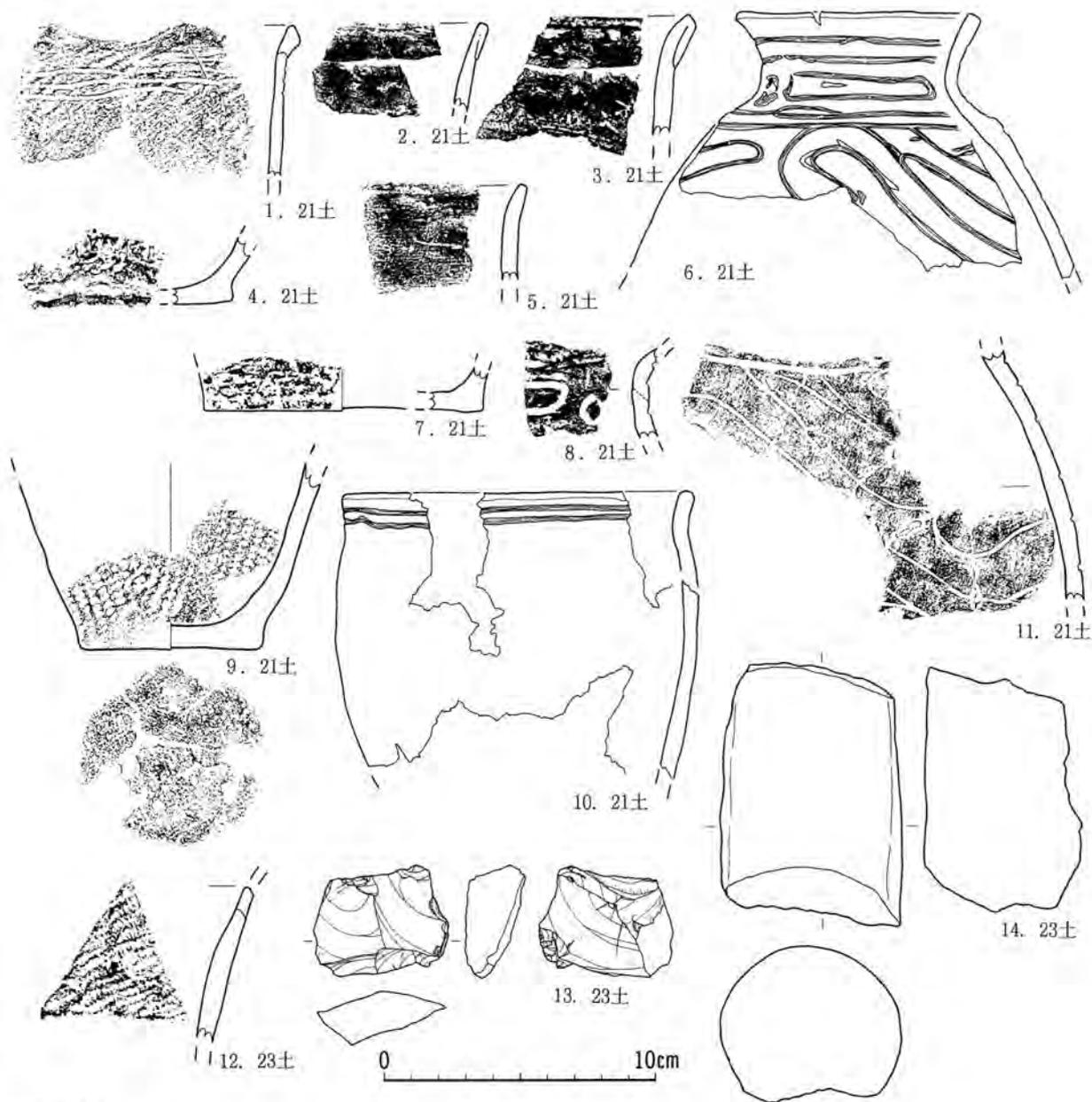
土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
25-2	ⅢN-183	覆土	深鉢	Ⅱ-2	口縁	RLヨコ、外面炭化物	
25-3	ⅢN-183	覆土	深鉢	Ⅱ-2	胴部	RLヨコ、沈線	
25-4	ⅢN-183	覆土	深鉢	Ⅳ	胴部	RLヨコ	
25-7	ⅢN-183	覆土	深鉢	Ⅳ	胴部	RLヨコ、沈線	
25-8	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線	
25-9	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線、粘土貼付	
25-10	ⅢO-183	底面直上	深鉢	Ⅳ-1	胴部	RLヨコ	

石器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: mm	石質	備考
25-1	ⅢK-181	覆土	敲磨器	Ⅱ-2	(73.5)	(70.0)	(24.8)	(183.9)	凝灰岩	
25-5	ⅢN-183	2	敲磨器	Ⅱ-2	354.0	213.0	152.0	16800.0	安山岩	
25-6	ⅢN-183	2	台石	Ⅱ-3	139.0	95.0	50.0	745.0	安山岩	

図25 3、14、15、16、17号土坑出土遺物



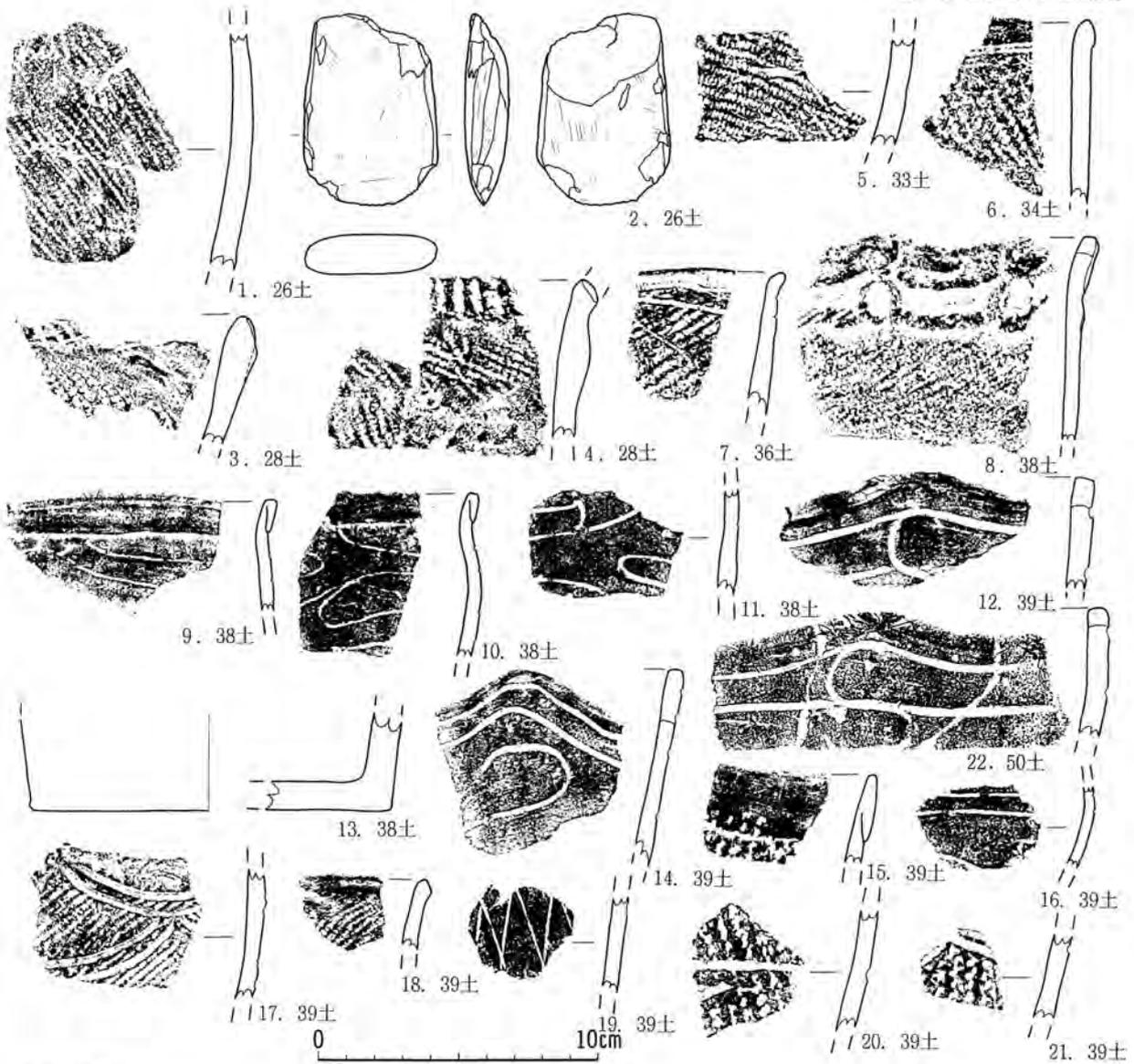
土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様	な	と	備考
26-1	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅱ-3	口縁	沈線、内面ミカキ、外面炭化物			
26-2	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅲ-1	口縁	無文			
26-3	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅲ-1	口縁	無文			
26-4	ⅢO-184	覆土	深鉢	—	底部	縄文不明			
26-5	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅲ-1	口縁	無文			
26-6	ⅢO-184	覆土	壺	Ⅲ-1	口縁	沈線			口径：9.0cm
26-7	ⅢO-184	覆土	深鉢	—	底部	無文			底径：10.4cm
26-8	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線			
26-9	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅳ	底部	LRヨコ			底径：6.4cm
26-10	ⅢO-184	覆土	深鉢	Ⅲ-1?	口~胴	沈線			口径：13.0cm
26-11	ⅢO-184	覆土	壺?	Ⅲ-1	胴部	沈線			
26-12	ⅢL-180	覆土	深鉢	Ⅳ	口縁	RLタテ			

石器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ：mm	幅：mm	厚さ：mm	重さ：g	石質	備考
26-13	ⅢL-184	覆土	不定形	I-6	41.5	49.5	20.0	36.1	珪質頁岩	
26-14	ⅢL-184	覆土	石棒	Ⅱ-5	(130.0)	(90.0)	(78.0)	(1228.0)	流紋岩	

図26 21、23号土坑出土遺物



土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
27-1	ⅢL-184	覆土	深鉢	Ⅳ-1	胴部	R Lヨコ、外面炭化物	
27-3	ⅢP-180	覆土	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	R Lヨコ、粘土紐	
27-4	ⅢP-180	覆土	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	R Lヨコ	
27-5	ⅢO-182	覆土	深鉢	Ⅳ	胴部	L Rタテ	
27-6	ⅢQ-180	覆土	深鉢	Ⅱ-2-3	口縁	R Lヨコ、沈線	
27-7	ⅢN-182	覆土	深鉢	Ⅱ-2	口縁	R Lヨコ、沈線	
27-8	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅱ-3-Ⅱ-1	口縁	R Lタテ、粘土紐貼付、炭化物付着	口径：11.0cm
27-9	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅲ-1	口縁	沈線	折り返し状口縁
27-10	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅲ-1	口縁	沈線	折り返し状口縁
27-11	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線	
27-12	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅲ-1	口縁	沈線	
27-13	ⅢM-182	覆土	深鉢	—	底部	縄文不明	底径13.0cm
27-14	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅲ-1	口縁	沈線	口径：17.0cm
27-15	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅱ-3-b	口縁	L Rタテ、沈線	折り返し状口縁
27-16	ⅢM-182	覆土	鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線	
27-17	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅱ-3	胴部	L Rヨコ、沈線、外面炭化物	
27-18	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅳ	口縁	L Rヨコ	
27-19	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅲ-1	胴部	網目状沈線、内外面炭化物	
27-20	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅳ-3	胴部	沈線、L撻糸?、内面炭化物	
27-21	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅳ-3	胴部	沈線、R L	
27-22	ⅢM-182	覆土	深鉢	Ⅲ-1	口縁	沈線	

石器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ：mm	幅：mm	厚さ：mm	重さ：g	石質	備考
27-2	ⅢL-184	覆土	磨製石斧	Ⅲ-1	(70.0)	(47.5)	(16.0)	(160.2)	細粒凝灰岩	

図27 26、28、33、34、36、38、39号土坑出土遺物

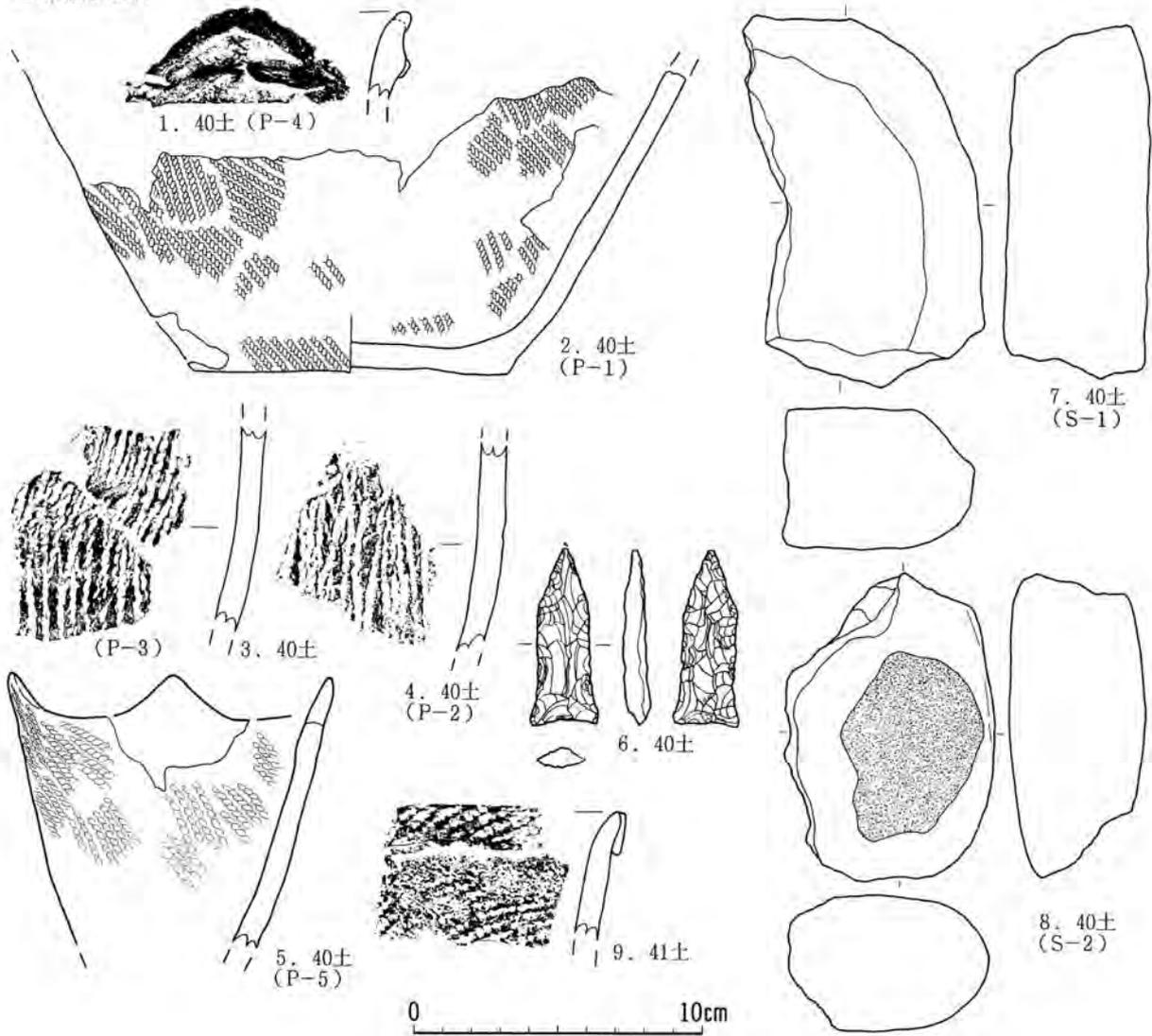


図28 40、41土坑出土遺物

土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様	な	と	備考
28-1	ⅢO-184	7	深鉢	Ⅲ-1?	口縁	粘土紐、外面炭化物付着			
28-2	ⅢQ-184	4	深鉢	Ⅳ-1	底部	R Lヨコ			底径: 10.8cm
28-3	ⅢQ-184	7	深鉢	Ⅳ-1	胴部	摺糸文			
28-4	ⅢQ-184	7	深鉢	Ⅳ-1	胴部	摺糸文			
28-5	ⅢQ-184	4	深鉢	Ⅳ-1	口縁	R Lヨコ			口径: 11.4cm
28-9	ⅢR-182	覆土	深鉢	Ⅳ-1	平口縁	L Rヨコ			折り返し状口縁

石器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石質	備考
28-6	ⅢQ-184	4	石鏃	I-1	37.0	15.0	6.0	2.1	珪質頁岩	
28-7	ⅢQ-184	7	石皿	Ⅱ-3	(173.0)	(112.0)	(61.0)	(1750.2)	安山岩	
28-8	ⅢQ-184	7	石皿	Ⅱ-3	(216.0)	(144.0)	(95.0)	(3871.8)	安山岩	

3 埋設土器

1号埋設土器

[位置・確認] ⅢW-195グリッドに位置する。基本層序の第Ⅲ層を精査中に、第Ⅲ層中に埋設された土器の一部と密集した土器片、黒色土の半円形プランを確認した。

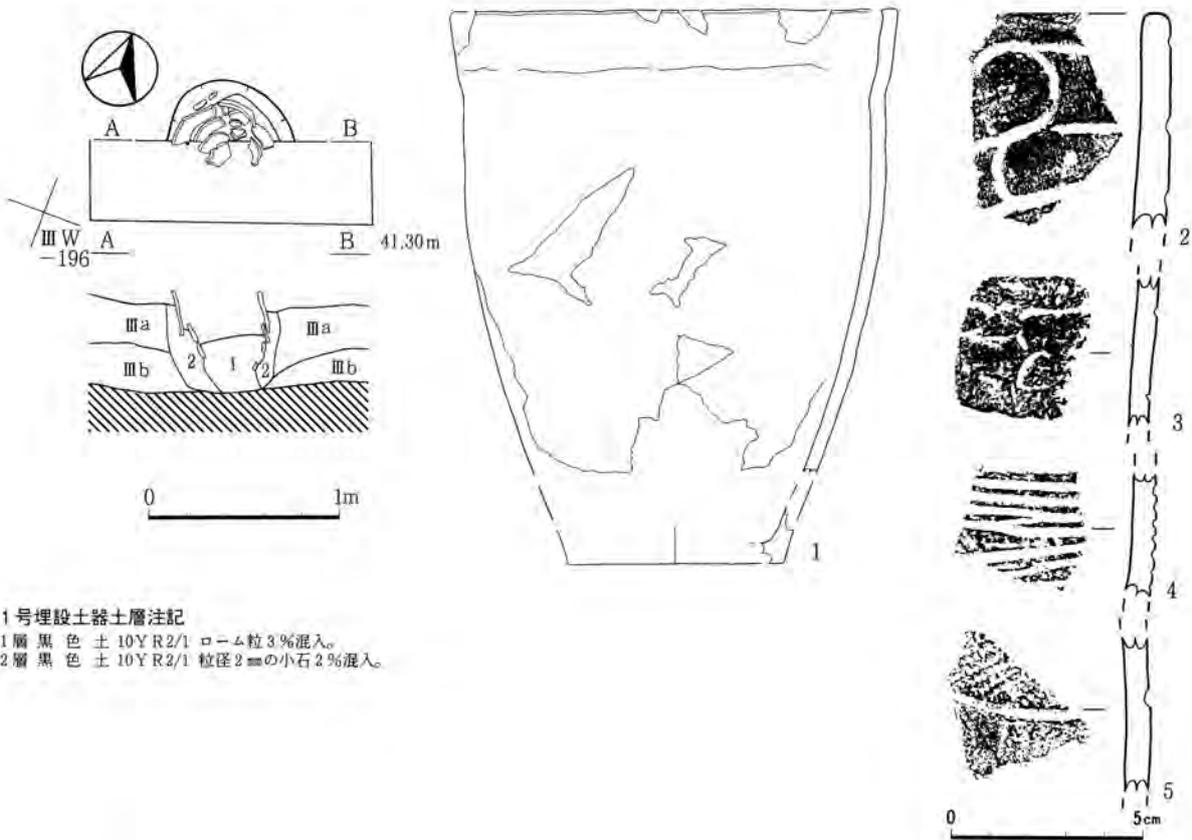
[形態・規模] 掘り方の平面形はおおよそ円形になると思われるが、その南側のプランが非常に不明瞭であったため、約70×30cmの断面観察用トレンチをいれた。基本層序の第Ⅱ～Ⅲ層を掘り込んでおり、若干第Ⅳ層上面を掘り窪めている。土器は正立状態で埋設されており、口縁部以下の土器の割れが激しい。

[堆積土] 埋設した土器と掘り方との間には、粒径2mmほどの粗砂が若干混入した黒色土を埋めている。土器内部には黒色土が堆積していた。

[出土遺物] Ⅲ-1類と思われる深鉢形土器が1個体埋設されていた。

[時期] 埋設土器より後期前葉のものと思われる。

(三林)



1号埋設土器土層注記

- 1層 黒色土 10Y R 2/1 ローム粒3%混入。
- 2層 黒色土 10Y R 2/1 粒径2mmの小石2%混入。

土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
29-1	ⅢV-196	—	深鉢	Ⅲ-1	口～底	無文	口径：23.5cm、埋設土器
29-2	ⅢV-196	確認面	深鉢	Ⅲ-1	口縁	沈線	1号埋設確認面周辺
29-3	ⅢV-196	確認面	深鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線	''
29-4	ⅢV-196	確認面	深鉢	Ⅲ-1	胴部	沈線	''
28-5	ⅢR-196	確認面	深鉢	Ⅱ-1-C-Ⅱ-1	胴部	L R、沈線、磨消	''

図29 1号埋設土器、確認面・出土土器

## 第2節 遺構外の出土遺物

### 1 土器 (図30~46)

今回の報告対象内で、ダンボール箱120箱分である。時期幅は縄文時代前期末頃から後期前葉までであるが、後期初頭の土器は全く見られない。

土器については、以下のように分類した。また、各分類中必要に応じて便宜的に細分した所もある。

I 群 (前期)	1 類	後葉から末葉の土器(円筒下層 d 式)
II 群 (中期)	1 類	初頭から前葉の土器(円筒上層 a ~ c 式)
	2 類	中葉の土器 (円筒上層 d・e 式)
	3 類	後葉から末葉の土器(大木系土器)
III 群 (後葉)	1 類	前葉の土器 (十腰内 I 式)
IV 群		主に時期不詳の土器

I 群 縄文時代前期の土器 (27~30) 1 類のみ 4 片出土した。

1 類 前期後葉から末葉の土器 (27~30)

何れも胴部の小破片である。細い LR、RL の結束第 1 種を用いた、横位の羽状縄文が施されているもの (27~29) と、結束第 2 種を縦位に回転するもの (30) がある。胎土に繊維の混入が見られ、円筒下層 c 又は d 式に相当する破片と思われる。

II 群 縄文時代中期の土器 (1~8、31~118)

III 群に次いで出土量が多い。類別では 2 類が最も多く、3 類、1 類の順に少なくなる。総量では III 群に劣るが、遺構内出土土器では当群が最も多い。

1 類 中期初頭~前葉の土器 (31~35)

小片のみの出土である。円筒上層 a 式 (31)、同 a ~ b 式 (32~34)、同 c 式 (35) が見られた。

2 類 中期中葉の土器 (1・2、36~74)

a 類 (36~56) 村越 潔 (1974) の円筒上層 d 式土器が相当する。縄文地文に主に粘土紐で文様モチーフを描くものが主である。粘土紐には、弧状のもの (36・37 など)、直線のもの (47・49 など)、口唇部が主であるが波状を呈するもの (43・51・54)、円形状のもの (45) がある。また、口唇部に先の丸い工具による円形の連続刺突を施すもの (36・52) があり、粘土紐に沿ってナデ状の調整が施されている。55 の口唇部は LR をタテとナナメに交互に押圧したものである。56 は口唇部に連続的に刻みを施し、胴部に短い沈線を施している。2 類 b に含まれる可能性がある。

b 類 (1・2、57~74) 村越 潔 (1974) の円筒上層 e 式土器が相当する。縄文地文に沈線の文様モチーフが主体である。波状・直線状の懸垂文から弧状に沈線を横位に展開していると思われる。

もの(65~67)、波頂部に刻み状に沈線を施し、その下位にはやや太めの平行・弧状の沈線を施文しているもの(64)などがある。粘土紐を貼付している破片(57~60、62、63)もあるが、a類に比べ部分的なものになっている。73は口唇部に溝線状のRL圧痕がある。71は3類b、74は2類aの可能性はある。

3類 中期後葉~末葉の土器(3~8、75~118、310) 所属型式から以下の3小類に分類した。

a類(3~6、75~104) 大木8b式併行期に属すると思われる土器である。

口縁部片には、口唇部に溝線、山形突起部に蕨手状の文様をもつもの(3・75~81)、山形突起部を粘土紐によって装飾しているもの(82・84)などがある。また、胴部文様は直線・弧線・渦巻状などの沈線を組み合わせているもの(3・76・78・81・96など)がある。

b類(7・8、105~111) 大木9式に併行すると思われる土器である。

口縁部無文帯・連続刺突・3条1組の懸垂文が主体である。無文帯が極端に狭いもの(109)、連続刺突が2段のもの(109)がある。また、地文の縄文をタテ回転している比率が前型式に比べ高くなっている。

c類(112~118、310) 中期末葉の大木10式期に併行すると思われる土器である。

単節・複節の縄文地文に沈線で区画をし、磨消を施しているものが大半である。また、刺突を施すものも比率的に多い。114・115は鱗状の隆起部に多くの不連続な刺突を施している。

### III群 縄文時代後期の土器(9~26、119~263)

本遺跡で最も出土量が多い類である。本調査での出土は1類のみである。

1類 後期前葉の十腰内I式に相当する土器

沈線区画帯内に縄文の回転施文を施す、いわゆる磨消縄文は全く見られない。

a類 半肉彫状の文様を主体とするもの(119~128、130~138、227)

沈線文様内を粘土紐の貼付、撫で付けによって膨隆させている類である。総じて全面が入念に磨かれ、器表面では粘土紐貼付の痕跡が残らない。文様モチーフは枝分かれする帯状文様(125、131、135)か、ソーセージのような小単位の組合せによるもの(120~123、130、132~134、136~138)が主体で、後述の1類b・cほど豊富ではない。III群1類は沈線区画内に赤色顔料が塗布されることがあるが、本類では全く見られないのも特徴である。なお、口縁部のみの破片については、主文様帯が別の類である可能性もある。

b類 2~3本一組の平行沈線を用いた帯状文様が展開するもの(13・19・21、139~164)

平行沈線は互いに連結し合い、縦位または横位に連繋した帯状文様となる。棒状に末端が閉じるものは1類c-iiに、結合部分の切れ目がない枝分かれ状のモチーフを持つものは1類c-iに含めた。2本一組のものに赤色顔料の塗布が目立つ。モチーフは縦位の鎖状或いは渦巻き文様と鋸歯状文(13、139、140、144~156)、横位の波状文(21、141~143、161~164)が多い。

8の字文様は他の類同様に口縁の波頭部直下で多く見られる。鋸歯文が主体文様の場合、8の字が鎖状に連結して胴部下半にまで及ぶものが多い(13、146、147、149、154)。波状文の場合、波頭と文様帯区画沈線、波頭同士を連結する平行沈線が充填される(142、143、161~164)。また波状文は鉢形に多く施される傾向がある(141~143、161~164)。

c類 無文地に沈線を用いて文様モチーフを描くもの(9~12、14~18、20、22、24、129、165~242)で、a・b・d以外のものである。文様構成から以下の4小類が見られる。

i : 文様描線が、枝分かれする帯状文様を構成する類である(16~17、165、167、168、172、177、182)。モチーフは、帯状文様の末端が文様帯の上下端に接続するか、横に連繋して展開するモチーフが構成される。小破片の場合、後述する1類c-iiのネガ文様との区別が困難である。

ii : 1類aとモチーフは同様のことが多いが、半肉彫状にならない類である(12、14、18、169~171、173、174、176、189、190、195、196、222、226)。1類b、1類c-iii同様、壺形の器形で比較的多く見られる。

iii : 沈線同士が平行しない、非帯状文様の類である(9~11、17、20、22、129、166、175、178、179、183~188、191~194、198、199、242)。赤彩が全く見られないが、明瞭な区画範囲を形成しない文様構造に起因するものと思われる。モチーフは波状文が比較的多い(9、10、184~188)が、1類bに比べて波頭部が細身若しくは緩く流れる傾向がある。他に1類c-iiに似る文様単位が連結する文様(166、175、178、179、191、193)、波状沈線が一見不規則に連結するかに見える文様(11、22、183、192、194)等が見られる。

iv : 主な文様モチーフが不明の破片である(200~226、228~239)。口縁部破片のみで見ると、1類c-ii、1類c-iiiに分類できるが、主文様は胴部にあると思われる。胴部文様のうかがい知れる例では、1類c-iiiの可能性のあるものが多い。

#### d類(25、26、244~263)

縄文や沈線を用いた、網目状の文様モチーフを主体とするものである。網目状撚糸文の類は、口縁部がやや外反し、折返し状口縁部を無文帯とするものが多い。253は口縁部と胴部とを別の軸を用いて施文した可能性がある。また、観察表に網目状撚糸文としたものは全て単軸絡条体第5類である。沈線を用いて網目状のモチーフを描くものは、外反する口縁部を無文帯とし、無文帯と網目状沈線を横位の沈線によって明確に区切っているものがほとんどである。網目状撚糸文の類と違って、折返し状口縁部を呈するものは少ない。また、無文帯部に楕円状・円形状の沈線を施すもの(259・262)もある。

### 第IV群 時期不詳の土器(23、243、264~309、311~323)

特に文様モチーフを持たず、時期判別に確信が得られない土器群である。無文または縄文地文のみのものが大半を占める。

#### 1類 地文の縄文が文様の主体となるもの(243、264~276、282、286、302~318)

a 地文に縄文を施文し、口縁部に区画された無文帯を形成するもの(271、272、274~276、304~309、318)。地文は単節縄文、単軸絡条体1類が見られる。単軸絡条体は回転施文以外に、口縁直下で側面圧痕に使用する例(271、272)がある。275と276は口縁部の形状が若干異なるが同一個体の可能性がある。共に口縁部に無文帯を有し、胴部は目の細かな櫛状工具による縦の条痕状の調整を施している。全体的に施文工具に係らず、地文は縦位に施される傾向がある。

口縁の無文帯は、①折り返し口縁による区画(274)、②地文と同一原体の側面圧痕による区画(271、272、275、276)の他、③特に区画線を施さずに、口頸部で施文を中断する(306、309)等の方法で作られる。①と②はⅢ群1類に、③はⅡ群3類の可能性はある。

b 地文の縄文のみのもの(243、264~270、302、303、311~317、319、320)。分類基準上、胴

部及び底部片が多い。口縁部片では、1類aに近いもの(308、313、319)が存在するが、II群3類の可能性が高い。地文はaと同様であるが、胴部片に付加条縄文が見られるものがある。

また、底部片は、木葉痕(280・281)、網代痕(282、283など)を有するものがあり、IV群に含めているが、本文類でいうII-3-c~III-1、中期末葉から後期前葉の範疇に収まると思われる。

2類 縄文地文の見られないもの(23、288~301、323)。無文土器の類であるが、口縁に限っては沈線による区画(293、296)や折返し状口縁の形をとるもの(294、295、297~300)がある。323は胴部下半で切断された壺形土器である。遺構外の出土であり、合わせ口の状態で出土した。内面に樹脂状のこびり付きが見られる。縦方向に貫通孔を持つ橋状突起が、上下2個、左右一対の計4個見られる。中期後葉から後期初頭のものと思われる。

3類 縄文地文に沈線で文様モチーフを描くもの(273、321、322)。321は単節縄文の地文に沈線文様を施した土器片である。口縁にへら状工具による刻みの列が施される。後期後葉の可能性が高い。322は荒い擦痕と磨かれた無文部をもつ土器片である。

(秦・三林)

遺構外出土土器観察表

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文 様 な ど	備 考
34-27	ⅢN-181	I	深鉢	I-1	口縁	羽状縄文(RL+LR)、繊維混入	
28	ⅢN-181	I	深鉢	I-1	胴部	羽状縄文(RL+LR)、繊維混入	
29	ⅢN-181	I	深鉢	I-1	胴部	羽状縄文(RL+LR)、繊維混入	
30	ⅢO-186	I	深鉢	I-1	胴部	結束第2種(LR)、繊維混入	
31	ⅢT-181	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-1	口縁	LR圧痕、円筒上層a式	外面炭化物
32	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-1	口縁	隆帯、LR圧痕、円筒上層a~b式	
33	ⅢV-193	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-1	口縁	RL圧痕、隆帯、円筒上層a~b式	
34	ⅢX-193	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-1	口縁	隆帯、LR圧痕、円筒上層a~b式	
35	ⅢO-182	I	深鉢	Ⅱ-1	口縁	弁状突起部(穿孔)、粘土紐、刺突、円筒上層c式	波状口縁
36	ⅢM-184	I	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	LRヨコ、粘土紐、口唇部刺突	波状口縁(山形突起)
37	ⅢM-183	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐、LR?、内面沈線	波状口縁(扇状突起?)
38	ⅢK-182	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐、口唇部RL押圧	波状口縁
39	ⅢO-186	I	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐、LRヨコ	波状口縁(山形突起)
40	ⅢU-194	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐、LRヨコ、穿孔	波状口縁(扇状突起)
41	ⅢP-183	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐(瘤)、沈線	波状口縁
42	ⅢU-192	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐、RLヨコ	波状口縁
43	ⅢH-177	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	RLヨコ、口唇部粘土紐(RL圧痕)、口縁部肥厚	
44	ⅢW-196	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐、RL押圧	波状口縁
45	ⅢM-183	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐、RL、内面凹み	波状口縁(山形突起)
46	ⅢW-193	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐、縄文不明圧痕	
47	ⅢU-192	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	胴部	縄文不明、粘土紐	
48	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅱ-2-a	胴部	RLタテ、粘土紐	
49	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-2-a	胴部	LRヨコ、粘土紐	
50	ⅢX-194	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-2-a	胴部	粘土紐、縄文不明圧痕	
51	ⅢN-184	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	粘土紐、LRヨコ、外面剥落	波状口縁、外面炭化物
52	ⅢM-183	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	口唇部刺突、LRヨコ、粘土紐	
35-53	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-2-a	胴部	羽状縄文(LR+RL)ヨコ、粘土紐	
54	ⅢW-193	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	RLヨコ、粘土紐	
55	ⅢL-182	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a	口縁	RLタテ、LR圧痕	
56	ⅢV-193	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-a?	口縁	沈線、口唇部刻目、内面刺突	波状口縁
57	ⅢR-191	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	胴部	沈線、粘土紐	
58	ⅢW-196	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	RLヨコ、粘土紐(押圧)	波状口縁(山形突起)
59	ⅢO-185	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	LRヨコ、粘土紐、LR押圧	波状口縁(山形突起)
60	ⅢM-182	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	内外面粘土紐、R圧痕	波状口縁(二又突起)
61	ⅢV-192	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	LRヨコ(圧痕)、沈線	
62	ⅢJ-181	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	LRヨコ、粘土貼付(ボタン状)	外面炭化物
63	ⅢO-186	I	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	LRヨコ(圧痕)、沈線、粘土紐	波状口縁
64	ⅢU-193	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	沈線、波頂部竹管状刺突	波状口縁
65	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅱ-2-b	胴部	RLヨコ、沈線	66・67と同一
66	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅱ-2-b	胴部	RLヨコ、沈線	
67	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅱ-2-b	胴部	RLヨコ、沈線	
68	ⅢO-183	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	口唇部連続刻み、LRヨコ	波状口縁、69と同一?

三内丸山(6)遺跡 I

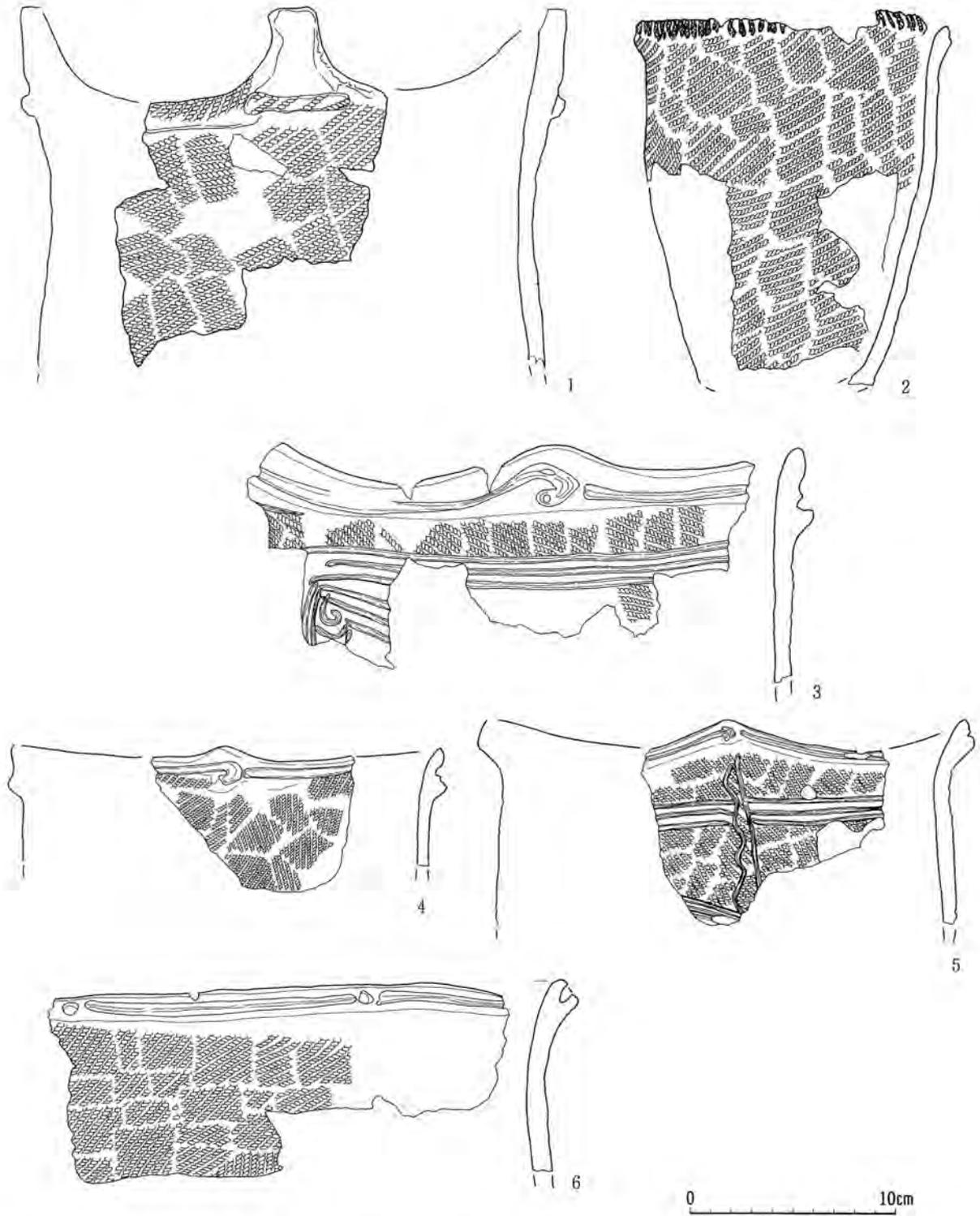
図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文 様	備 考
69	ⅢN-181	I	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	口唇部連続刻み、LRヨコ	波状口縁
70	ⅢT-191	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	胴部	RL、沈線	
71	ⅢS-191	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b?	胴部	LR、沈線	
72	ⅢO-186	I	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	RLヨコ	外面炭化物、Ⅱ-2?
73	ⅢK-182	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	RLヨコ(圧痕)	波状口縁
74	ⅢN-183	Ⅱd	深鉢	Ⅱ-2-b?	口縁	粘土紐、RL(圧痕)	波状口縁(山形突起)
36-75	ⅢN-186	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線・巖手状(刺突)、RLヨコ、外面炭化物	波状口縁(山形突起)
76	ⅢJ-181	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線・巖手、RLヨコ、沈線(平行・弧)	波状口縁(山形突起)
77	ⅢO-184	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線・巖手、RLヨコ	波状口縁(山形突起)
78	ⅢN-185	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線・巖手、RLヨコ、沈線(平行・弧)	波状口縁(山形突起)
79	ⅢN-183	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線・巖手、RLヨコ	波状口縁(山形突起)
80	ⅢN-183	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線・巖手・粘土紐、LRヨコ、口径24cm	波状口縁(山形突起)
81	ⅢN-185	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	溝線・巖手状(刺突)、LRヨコ、沈線(弧)	
82	ⅢK-179	I	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線・巖手状、粘土紐、LRヨコ?、沈線、穿孔	波状口縁(山形突起)
83	ⅢP-184	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	口唇部溝線状、RLヨコ	内外面炭化物
84	ⅢO-185	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線、粘土紐、LRヨコ	波状口縁(三日月突起)
85	ⅢK-182	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線、RLヨコ、沈線(平行)	
86	ⅢL-181	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線、LRヨコ、沈線(平行)	
87	ⅢM-183	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線、RLヨコ、沈線(平行)	
88	ⅢL-180	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	溝線、LRヨコ	
89	ⅢN-182	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	口縁部無文帯、RLタテ、口径21cm	Ⅲ-3-a?
90	ⅢN-186	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	口縁部無文帯、LRヨコ	波状口縁(山形突起)
37-91	ⅢM-182	Ⅱa	深鉢?	Ⅱ-3-a	胴部	竹管状刺突、沈線	
92	ⅢM-182	Ⅲa	深鉢?	Ⅱ-3-a	胴部	竹管状刺突、沈線	
93	ⅢL-182	Ⅲa	壺?	Ⅱ-3-a	口縁	沈線、刺突、LRヨコ	
94	ⅢM-183	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	口縁部無文帯、RLヨコ	
95	ⅢU-192	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	LRヨコ、折返し状口縁	波状口縁
96	ⅢL-183	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	LRタテ、沈線(弧・渦巻)	外面炭化物
97	ⅢO-186	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	LR不明、沈線(平行・弧)	
98	ⅢP-184	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	LRヨコ、沈線(渦巻)	外面炭化物
99	ⅢN-184	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	RLヨコ、沈線(平行・弧)、内面刺突有	
100	ⅢX-194	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	RLタテ?、沈線(平行・弧)	
101	ⅢK-182	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	LRヨコ、沈線(棘部分?)	
102	ⅢN-184	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	RLヨコ、沈線(平行・弧)	
103	ⅢG-187	Ⅱd	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	LRタテ、沈線	
104	ⅢK-182	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	胴部	LRヨコ、沈線	
105	ⅢN-182	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-b	口縁	無文帯、LRLヨコ、沈線(懸垂)、穿孔	波状口縁、外面炭化物
106	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-b	口縁	無文帯、連続刺突、縄文不明、沈線(懸垂)	
107	ⅢN-185	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-b	口縁	無文帯、連続刺突	
108	ⅢT-193	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-b	口縁	無文帯、連続刺突、LRヨコ?、沈線(懸垂)、穿孔	外面炭化物
109	ⅢI-180	I	鉢	Ⅱ-3-b	口縁	無文帯、連続刺突、粘土紐、RLタテ、沈線(懸垂)	
110	ⅢO-187	Ⅱa	鉢	Ⅱ-3-b	口縁下	無文帯、連続刺突(2段)、LRヨコ	
111	ⅢL-182	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-b	口縁	無文帯、RLタテ、沈線(懸垂)	波状口縁、口径23.5cm
112	ⅢN-183	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-c	口縁	RLタテ、沈線、磨消	外面炭化物
113	ⅢP-184	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-c	胴部	RLR、沈線、磨消、刺突	
114	ⅢO-181	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-c	口縁	鱗状、刺突	波状口縁、外面炭化物
115	ⅢN-180	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-c	胴部	鱗状、刺突、RL不明、沈線	
116	ⅢP-184	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-c	口縁	RLRタテ?、沈線、磨消、刺突	外面炭化物
117	ⅢO-180	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-c	口縁	LRヨコ、沈線、磨消、刺突、口径12.2cm	波状口縁
118	ⅢO-187	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-c	口縁	沈線、刺突	
38-119	ⅢO-183	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	波状口縁
120	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	波状口縁
121	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	波状口縁
122	ⅢO-186	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	
123	ⅢN-185	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	波状口縁
124	ⅢN-185	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	波状口縁
125	ⅢO-185	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	波状口縁
126	ⅢO-181	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	波状口縁
127	ⅢQ-188	I	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	
128	ⅢW-193	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	胴部	沈線(半肉彫状)	
129	ⅢU-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線	波状口縁、口径14.4cm
130	ⅢO-184	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	
131	ⅢU-192	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-a	胴部	沈線(半肉彫状)	
132	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(半肉彫状)	波状口縁、赤彩

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文 様	な ど	備 考
133	ⅢV-192	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-a	胴部	沈線	(半肉彫状)	
134	ⅢM-183	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線	(半肉彫状)	波状口縁、赤彩
135	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線	(半肉彫状)	
136	ⅢX-195	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-a	胴部	沈線	(半肉彫状)	
137	ⅢN-187	I	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線	(半肉彫状)	波状口縁
138	ⅢX-194	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	胴部	沈線	(半肉彫状)	
139	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-b	口縁	沈線	(3本1組)、無文帯	折返し状口縁
140	ⅢR-190	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-b	口縁	沈線	(3本1組)	波状口縁、内面炭化物
141	ⅢU-191	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-b	口縁	沈線	(2~3本1組)	
142	ⅢL-179	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-b	口縁	沈線	(3本1組)	
39-143	ⅢM-183	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-b	口縁	沈線	(3本1組)	口径14cm
144	ⅢL-182	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
145	ⅢX-194	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
146	ⅢU-193	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
147	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(2本1組)	
148	ⅢM-184	I	鉢形	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
149	ⅢM-184	I	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
150	ⅢX-194	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(2本1組)	
151	ⅢX-195	-	鉢形	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(2本1組)	
152	ⅢX-194	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
153	ⅢX-195	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
154	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
155	ⅢN-185	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	内外面漆?
156	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	赤彩
157	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(2本1組)	
158	ⅢN-187	I	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(2本1組)	
159	ⅢO-186	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
160	ⅢR-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-b	胴部	沈線	(3本1組)	
161	ⅢM-181	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-b	底部	沈線	(3本1組)	底径6.2cm
162	ⅢO-187	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-b	底部	沈線	(2本1組)	底径4.8cm
163	ⅢN-178	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-b	底部	沈線	(2本1組)	底径5.6cm
164	ⅢO-181	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-b	口縁	沈線	(2本1組)	赤彩
165	ⅢK-181	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		赤彩、口径23cm
166	ⅢX-195	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		Ⅲ-1-b?
167	ⅢX-194	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		
40-168	ⅢO-187	Ⅱa	壺形?	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		内外面炭化物
169	ⅢO-187	Ⅱa	壺形?	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		内外面炭化物
170	ⅢU-190	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		赤彩
171	ⅢJ-181	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		赤彩
172	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		
173	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		赤彩、内外面炭化物
174	ⅢS-192	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		赤彩
175	ⅢO-184	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		波状口縁
176	ⅢR-182	Ⅱd	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		
177	ⅢX-195	Ⅲa	壺形	Ⅲ-1-c	肩部	沈線		
178	ⅢL-182	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、内外面炭化物		波状口縁、Ⅲ-1-b?
179	ⅢU-192	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		
180	ⅢK-178	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		
181	ⅢX-195	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		
182	ⅢS-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、波頂部指圧痕		波状口縁
183	ⅢN-183	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		波状口縁、口径18cm
184	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		口径16cm
185	ⅢS-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		
186	ⅢX-195	Ⅲa	壺形	Ⅲ-1-c	肩部	沈線		
187	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		外面炭化物
188	ⅢX-194	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		
189	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		外面炭化物
41-190	ⅢK-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		外面炭化物
191	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		
192	ⅢQ-188	I	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		
193	ⅢP-184	Ⅲa	壺形	Ⅲ-1-c	肩部	沈線		
194	ⅢX-193	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線		
195	ⅢX-195	Ⅲa	鉢形?	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		
196	ⅢO-187	Ⅱa	壺形?	Ⅲ-1-c	胴部	沈線		外面炭化物

## 三内丸山(6)遺跡 I

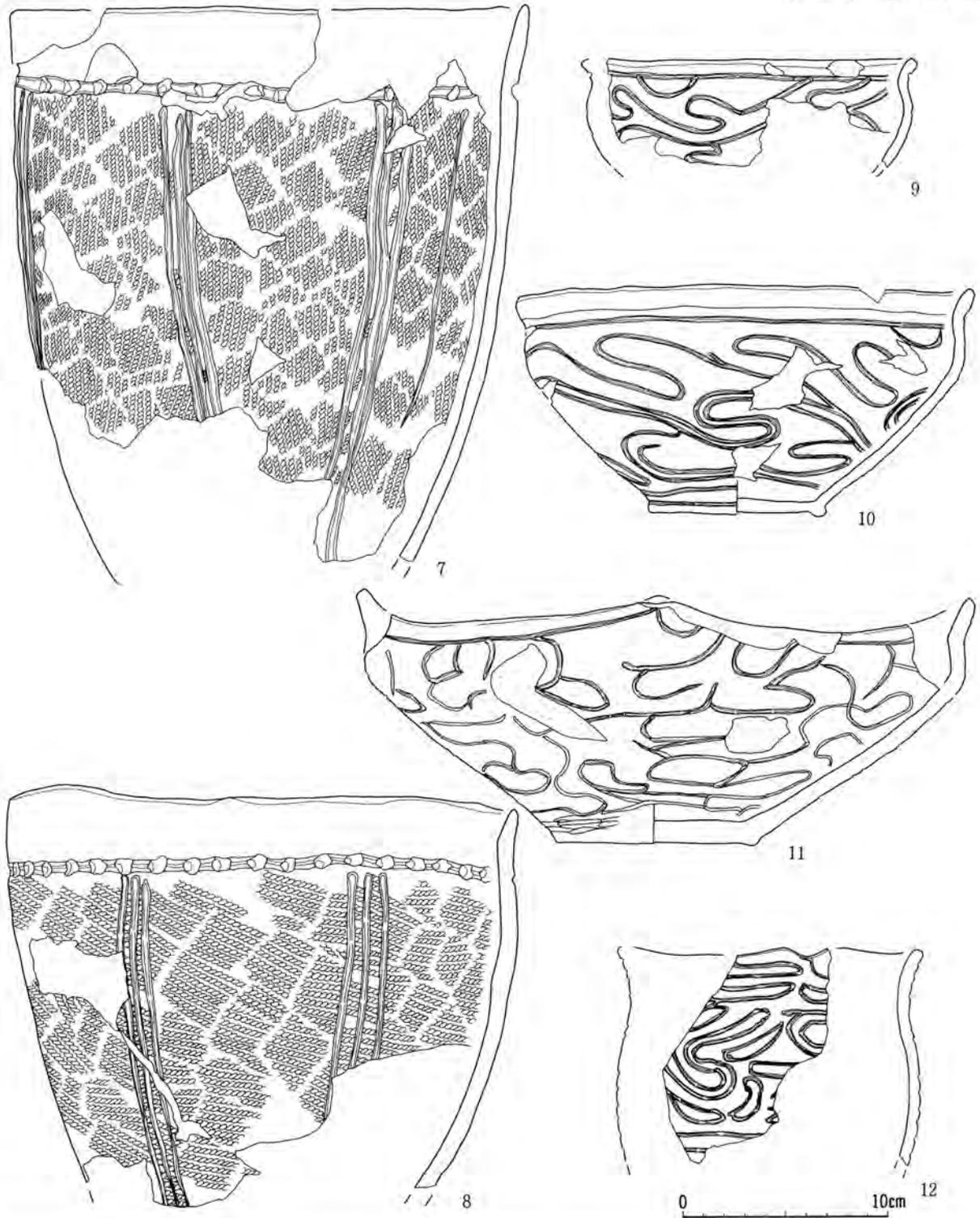
図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文 様	な	ど	備 考
197	ⅢU-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			外面炭化物、口径24cm
198	ⅢX-195	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			口径18cm
199	ⅢS-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線			
200	ⅢJ-181	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
201	ⅢJ-177	Ⅱd	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、撚糸文?			外面炭化物
202	ⅢO-186	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			赤彩
203	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
204	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
205	ⅢK-181	I	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			赤彩
206	ⅢO-185	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
207	ⅢN-185	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
208	ⅢW-193	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			波状口縁
209	ⅢG-187	Ⅱd	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
210	ⅢO-186	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			波状口縁、外面炭化物
211	ⅢK-183	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-1-c	口縁	沈線			波状口縁
212	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-1-c	口縁	沈線			波状口縁
213	ⅢU-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			波状口縁
214	ⅢX-194	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			外面炭化物
215	ⅢN-185	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
42-216	ⅢO-187	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
217	ⅢN-185	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
218	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
219	ⅢU-192	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
220	ⅢL-182	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			口径12cm
221	ⅢL-182	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			口径12cm
222	ⅢN-187	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			外面炭化物、口径17cm
223	ⅢX-195	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
224	ⅢX-195	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
225	ⅢX-195	Ⅲa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
226	ⅢM-183	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
227	ⅢX-195	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-a	口縁	沈線(羊肉形状)			
228	ⅢU-190	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
229	ⅢN-186	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			口径24cm
230	ⅢN-187	I	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
231	ⅢP-181	Ⅱd	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
232	ⅢU-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
233	ⅢN-184	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、波頂部刺突			波状口縁
234	ⅢX-194	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	胴部	沈線			
235	ⅢX-193	Ⅱa	鉢形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
236	ⅢU-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			波状口縁
237	ⅢU-192	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
238	ⅢT-192	Ⅱa	壺	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			
239	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			波状・折返し状口縁
240	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、内・外面ミガキ			波状口縁
241	ⅢU-190	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	底部	沈線			外面炭化物
242	ⅢU-191	Ⅱa	壺	Ⅲ-1-c	口縁	沈線			口径9.6cm
243	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅳ-1-b	胴部	撚糸文(R)、沈線			外面炭化物
43-244	ⅢO-186	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状撚糸文(R)、無文帯			内面炭化物
245	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状撚糸文(R)、口縁部内面連続指痕(整形時)			外面炭化物、輪積痕
246	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状撚糸文(R)、無文帯			折返し状口縁
247	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状撚糸文(R)、無文帯、外面炭化物			折返し状口縁
248	ⅢX-195	Ⅲa	鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状撚糸文(R)、無文帯			折返し状口縁
249	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅲ-1-d	胴部	網目状撚糸文(R)、無文帯			
250	ⅢU-190	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状撚糸文(R)			折返し状口縁
251	ⅢO-183	I	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状撚糸文(R)、無文帯(撫で付け)			折返し状口縁
252	ⅢT-191	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状撚糸文(R)、無文帯			折返し状口縁
253	ⅢV-193	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状撚糸文(R)			
254	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	胴部	網目状撚糸文(R)、無文帯、沈線			
255	ⅢU-192	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状沈線、無文帯			
256	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状沈線、無文帯			口径23cm
257	ⅢX-193	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状沈線、無文帯			波状口縁
258	ⅢM-182	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状沈線、無文帯			
259	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状沈線、沈線(長楕円状)			波状口縁
260	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状沈線、無文帯			

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文 様 な ど	備 考
261	ⅢN-181	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状沈線、無文帯	外面炭化物
262	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状沈線、無文帯、沈線(円)	波状口縁、外面炭化物
263	ⅢW-194	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	口縁	網目状捺糸文(不明)、無文帯	折返し状口縁
44-264	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	捺糸文(R)	口径21cm
265	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-b	胴部	捺糸文(L)	
266	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	捺糸文(L)	
267	ⅢK-181	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-b	胴部	捺糸文(R)	
268	ⅢL-182	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-b	胴部	捺糸文(R)	
269	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅳ-1-b	胴部	捺糸文(R)	
270	ⅢK-182	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	捺糸文(R)	折返し状口縁
271	ⅢP-184	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	捺糸文(LR)、口縁部LR押圧?	272と同一
272	ⅢP-184	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	捺糸文(LR)、口縁部LR押圧?	口径21cm
273	ⅢM-182	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-3	胴部	矢羽根状の沈線	Ⅲ-1
274	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	捺糸文(L)、折返し状口縁	波状口縁
275	ⅢL-185	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	無文帯、櫛状工具による条痕状の調整	外面炭化物
276	ⅢL-185	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	無文帯、櫛状工具による条痕状の調整	外面炭化物
277	ⅢO-180	Ⅲa	深鉢	Ⅳ	底部	擦痕状	底径6cm
278	ⅢH-179	I	深鉢	Ⅳ	底部	LRナナメ	底径7cm
279	ⅢP-184	Ⅱa	深鉢	Ⅳ	底部	網代痕	底径6cm
280	ⅢU-191	Ⅱa	深鉢	Ⅳ	底部	木葉痕	底径8cm
281	ⅢN-181	Ⅲa	深鉢	Ⅳ	底部	木葉痕	底径4cm
282	ⅢP-184	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1	底部	網代痕	底径6.2cm
283	ⅢU-190	Ⅱa	深鉢	Ⅳ	底部	網代痕	底径10cm
284	ⅢN-181	Ⅲa	深鉢	Ⅳ	底部	無文	底径11.6cm
285	ⅢU-190	Ⅱa	深鉢	Ⅳ	底部	沈線状痕	底径10cm
286	ⅢR-182	Ⅱd	深鉢	Ⅳ-1	底部	RLRヨコ	底径8.8cm
287	ⅢH-175	Ⅱd	鉢	Ⅳ	底部	擦痕状	底径6.4cm
45-288	ⅢK-181	I	深鉢	Ⅳ-2	口縁	無文、外面炭化物、折返し状口縁	波状口縁、口径10.4cm
289	ⅢN-181	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-2	口縁	無文、口唇部(連続?)押圧	
290	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-2	口縁	無文、折返し状口縁	
291	ⅢQ-188	I	深鉢	Ⅳ-2	口縁	無文	口径18cm
292	ⅢM-183	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-2	口縁	無文、外面タール状物質	口径11cm
293	ⅢX-195	Ⅲa	鉢	Ⅳ-2	口縁	沈線	口径13cm
294	ⅢX-195	Ⅲa	鉢	Ⅳ-2	口縁	沈線	口径8.2cm
295	ⅢU-191	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-2	口縁	口縁部粘土紐、無文	
296	ⅢU-193	Ⅱa	鉢?	Ⅳ-2	口縁	沈線	
297	ⅢT-192	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-2	口縁	口縁部粘土帯貼付→内面ヨコナデ	口径19cm
298	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-2	口縁	無文、折返し状口縁	
299	ⅢN-186	Ⅱa	壺	Ⅳ-2	口縁	無文、折返し状口縁	口径11.6cm
300	ⅢU-190	Ⅱa	壺	Ⅳ-2	口縁	沈線、折返し状口縁	折返し状口縁、口径6cm
301	ⅢO-187	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-2	口縁	捺糸文(不明)	折返し状口縁、口径20cm
302	ⅢN-184	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	LRナナメ	山形突起、Ⅱ-3?
303	ⅢK-177	I	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	LRナナメ	山形突起、Ⅱ-3?
304	ⅢP-182	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	RLRタテ、無文帯	Ⅱ-3-b~c
305	ⅢN-183	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	RLタテ、無文帯	Ⅱ-3-b~c
306	ⅢP-184	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-j-a	口縁	RLナナメ、無文帯、緩い波状口縁	Ⅱ-3-b~c
307	ⅢN-185	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	附加条(同方向)LRタテ、外面炭化物	Ⅱ-3-b~c
308	ⅢK-181	I	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	LRヨコ、無文帯	Ⅱ-3-b~c
309	ⅢP-181	Ⅱd	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	LRタテ、無文帯	Ⅱ-3-b~c
310	ⅢP-184	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-c	口縁	RLRタテ?、沈線、磨消?	
311	ⅢN-183	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	RLナナメ	
312	ⅢL-178	I	深鉢	Ⅳ-1-b	胴部	LR不明	
313	ⅢL-179	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	LRヨコ、内外面炭化物	Ⅱ-3-b~c
314	ⅢP-184	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	LRタテ、外面炭化物	Ⅱ-3-b
46-315	ⅢP-184	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	LRタテ、外面炭化物	Ⅱ-3-b~c
316	ⅣR-182	I	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	RLヨコ、外面炭化物	Ⅱ-3-b~c
317	ⅢO-182	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	LRヨコ、穿孔、外面炭化物	折返し状口縁
318	ⅢX-195	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-1-a	口縁	RL押圧、RLヨコ	波状口縁
319	ⅢL-181	Ⅲa	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	RLヨコ、口径24cm	
320	ⅢO-181	I	深鉢	Ⅳ-1-b	口縁	LRタテ・ヨコ、口径16cm	波状口縁
321	ⅢO-185	Ⅱa	深鉢	Ⅳ-3	口縁	LRヨコ、沈線、口縁部刻目	後期後葉?
322	ⅢI-180	I	深鉢	Ⅳ-3	胴部	条痕?	後期後葉?
323	ⅢN-184	Ⅲa	壺	Ⅳ-2	完形	無文、紐通し部欠損、底部付近切断、口径4.2cm、器高11.8cm、底径4.0cm	



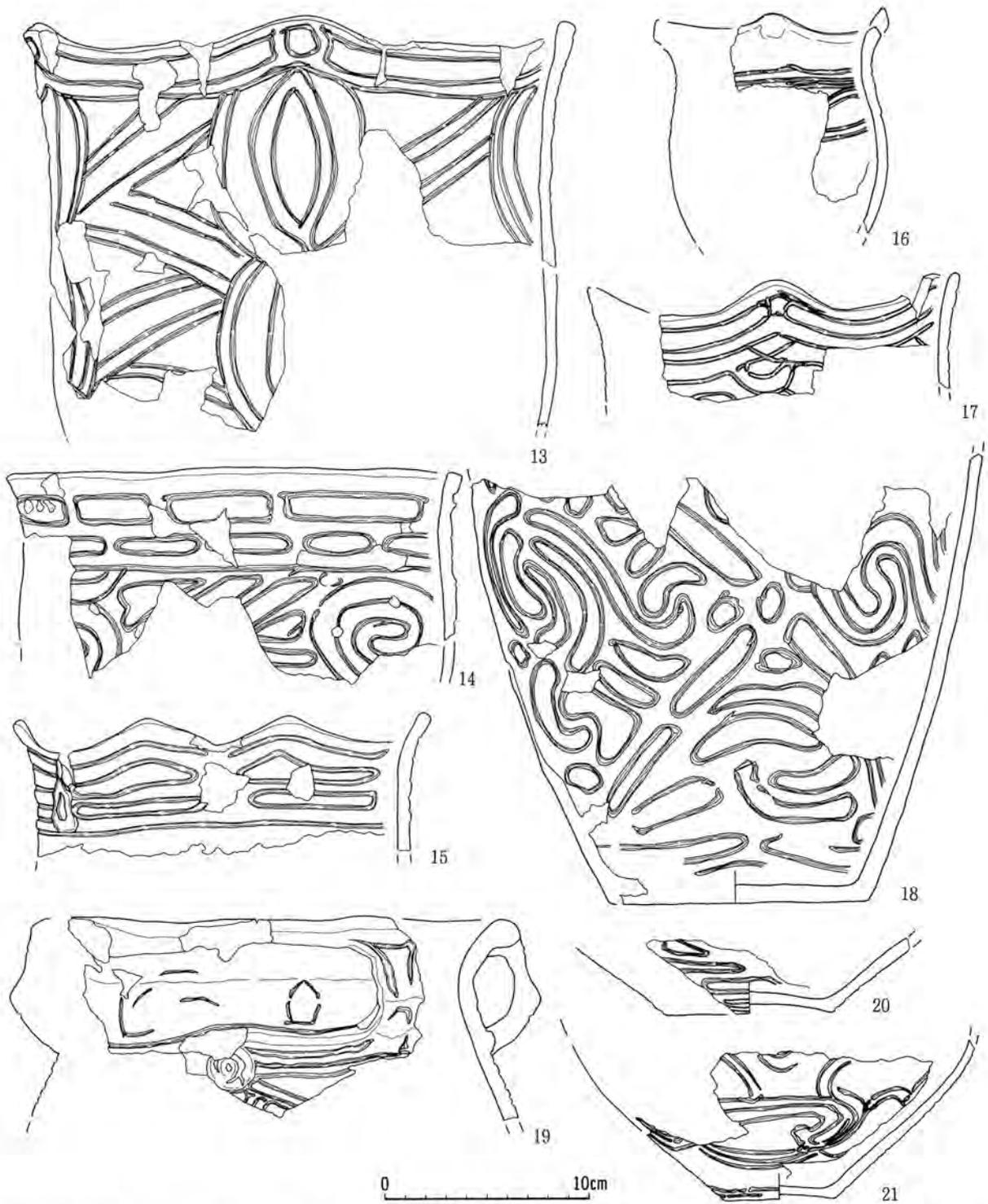
図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
30-1	ⅢP-183	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	口縁	R.L.タテ、口径(27)cm	波状口縁
2	ⅢN-179	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-2-b	口~底	L.R.ヨコ(押圧)、口径15cm、器高(19)cm、底径(8.5)cm	
3	ⅢJ-181	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	R.L.ヨコ、沈線、突起部渦巻、口径(36)cm	波状口縁
4	ⅢK-178	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	R.L.タテ、突起部渦巻、口径(21)cm	波状口縁
5	ⅣE-195	I	深鉢	Ⅱ-3-a	口~胴	L.R.タテ、沈線、突起部刺突、口径(23)cm	波状口縁
6	ⅢN-183	Ⅲa	深鉢	Ⅱ-3-a	口縁	L.R.ヨコ、口唇部沈線・刺突、口径(33)cm	

図30 遺構外出土土器(1)



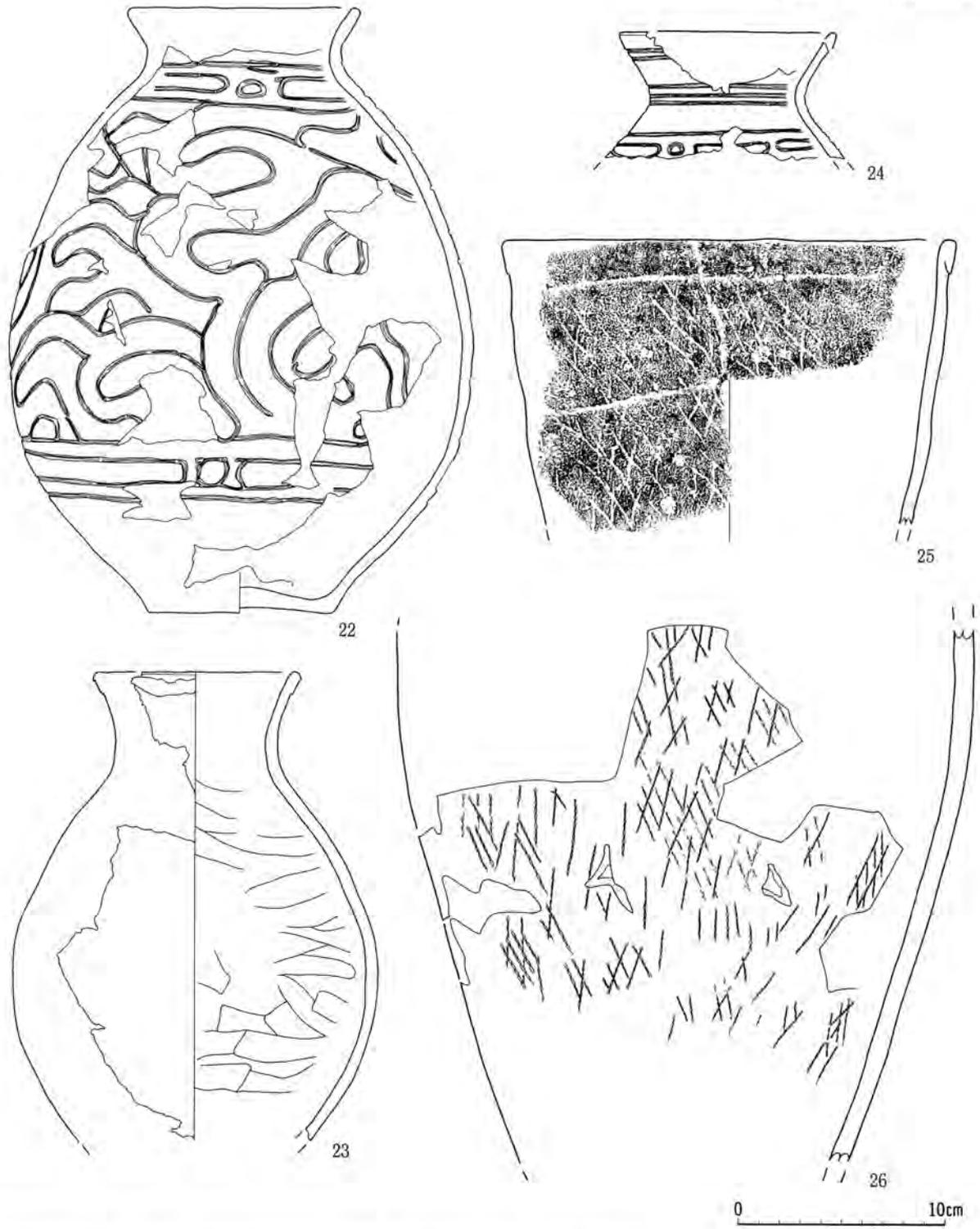
図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
31-7	ⅢN-186	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-b	口~胴	RLナナメ、口縁部無文帯、沈線、刺突	口径25.6cm
8	ⅢO-186	Ⅱa	深鉢	Ⅱ-3-b	口~胴	L R タテ、口縁部無文帯、沈線、刺突	口径25cm
9	ⅢX-195	Ⅲa	浅鉢	Ⅲ-1-c	口~胴	沈線、口径(16.6)cm	
10	ⅢN-187	Ⅲa	浅鉢	Ⅲ-1-c	略完形	沈線、口径22.7cm、器高11.4cm、底径8.7cm	
11	ⅢO-187	Ⅱa	浅鉢	Ⅲ-1-c	略完形	沈線、口径30.2cm、器高12.5cm、底径9.6cm	波状口縁
12	ⅢN-186	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、口径(15)cm	波状口縁

図31 遺構外出土土器(2)



図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
32-13	Ⅲ X-195	Ⅲ a	深鉢	Ⅲ-1-b	口~胴	沈線、口径27cm	波状口縁
14	Ⅲ X-195	Ⅲ a	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、口径22.3cm	
15	Ⅲ O-187	Ⅱ a	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、口径20.4cm	波状口縁
16	Ⅳ F-188	Ⅱ d	深鉢	Ⅲ-1-c	口~胴	沈線、口径11cm	波状口縁
17	Ⅲ O-187	Ⅱ a	深鉢	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、口径(18.2) cm	波状口縁
18	Ⅲ M-180	Ⅲ a	深鉢	Ⅲ-1-c	底部	沈線、底径12.7cm	
19	Ⅳ E-195	I	壺形	Ⅲ-1-b	口縁	把手付、沈線、剥落著しい、口径(22) cm	
20	Ⅲ O-186	Ⅱ a	壺形?	Ⅲ-1-c	底部	沈線、底径(8) cm	
21	Ⅲ V-196	Ⅱ a	壺形?	Ⅲ-1-b	底部	沈線、底径5.4cm	

図32 遺構外出土土器(3)



図版番号	出土位置	層位	器種	分類	部位	文様など	備考
33-22	ⅢK-182	Ⅱa	壺形	Ⅲ-1-c	略完形	沈線、口径11.2cm、器高29.7cm、底径8.8cm	
23	ⅢJ-177	Ⅱd	壺形	Ⅳ-2	口~胴	無文、口径10cm	
24	ⅢX-194	Ⅲa	壺形	Ⅲ-1-c	口縁	沈線、口径10.6cm	
25	ⅢX-195	Ⅲa	深鉢	Ⅲ-1-d	口~胴	網目状撚糸文(R)、口径22cm、折返し状口縁	外面炭化物
26	ⅢT-192	Ⅱa	深鉢	Ⅲ-1-d	胴部	網目状撚糸文(R)	内面炭化物

図33 遺構外出土土器(4)

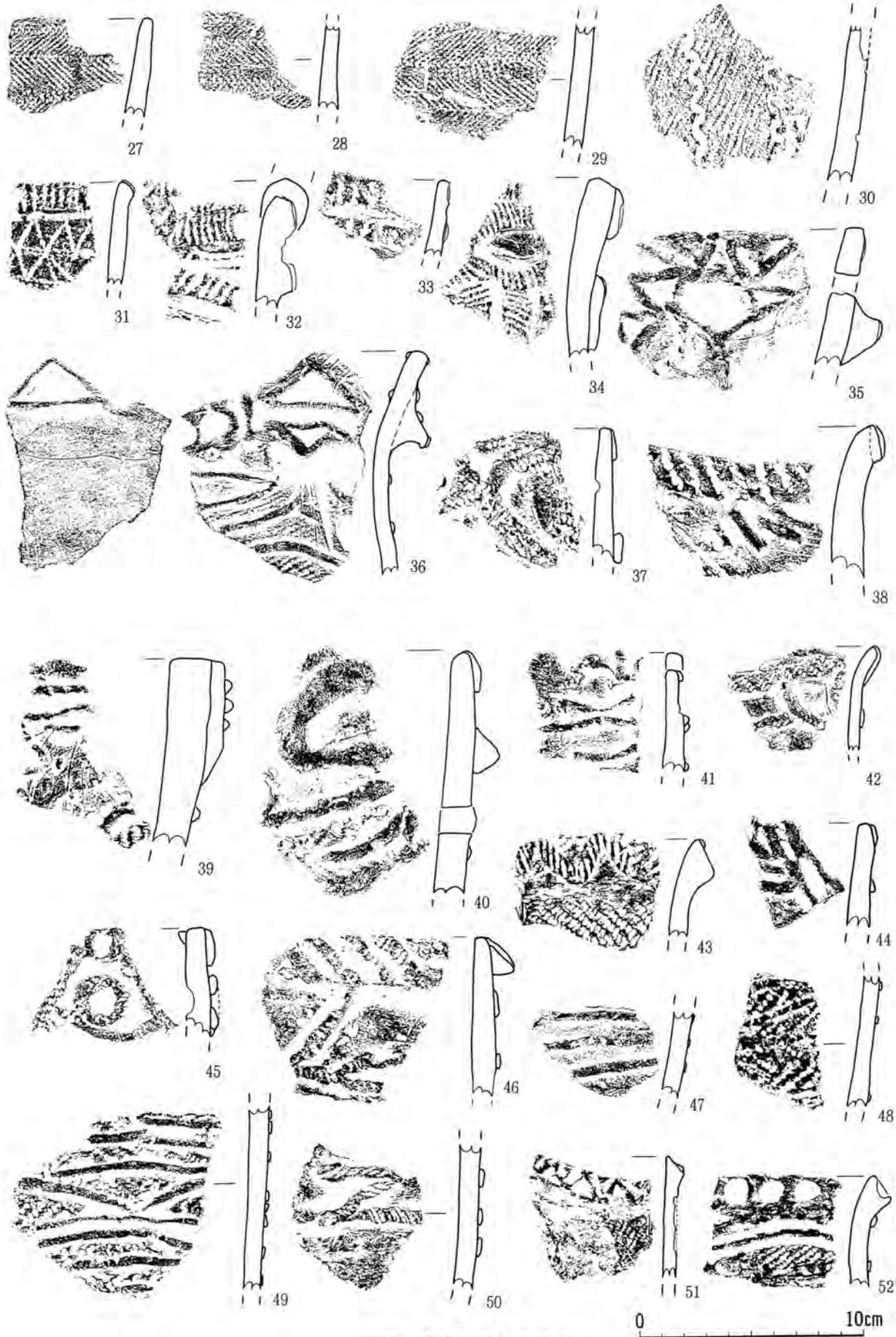


图34 遺構外出土土器(5)

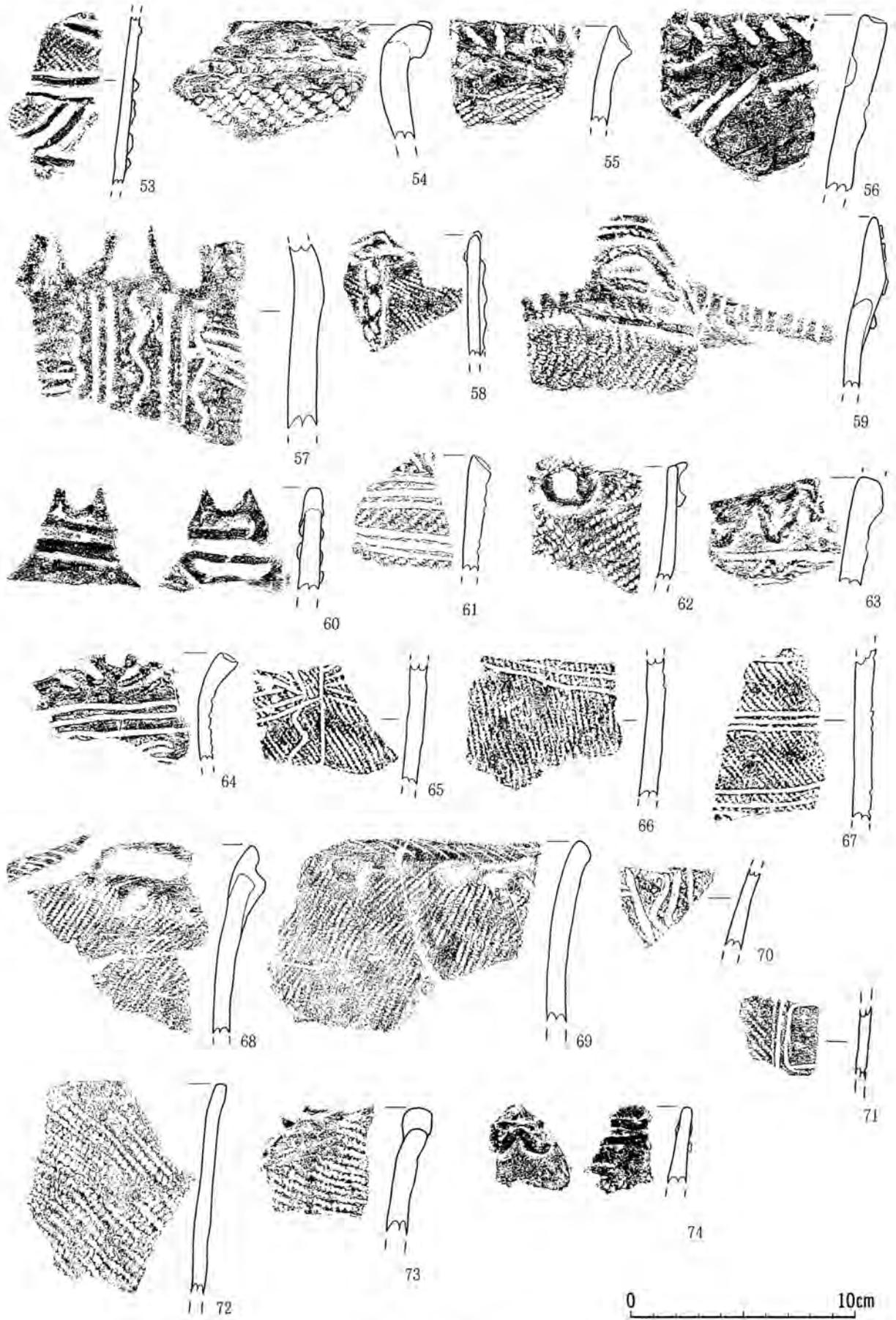


図35 遺構外出土土器(6)

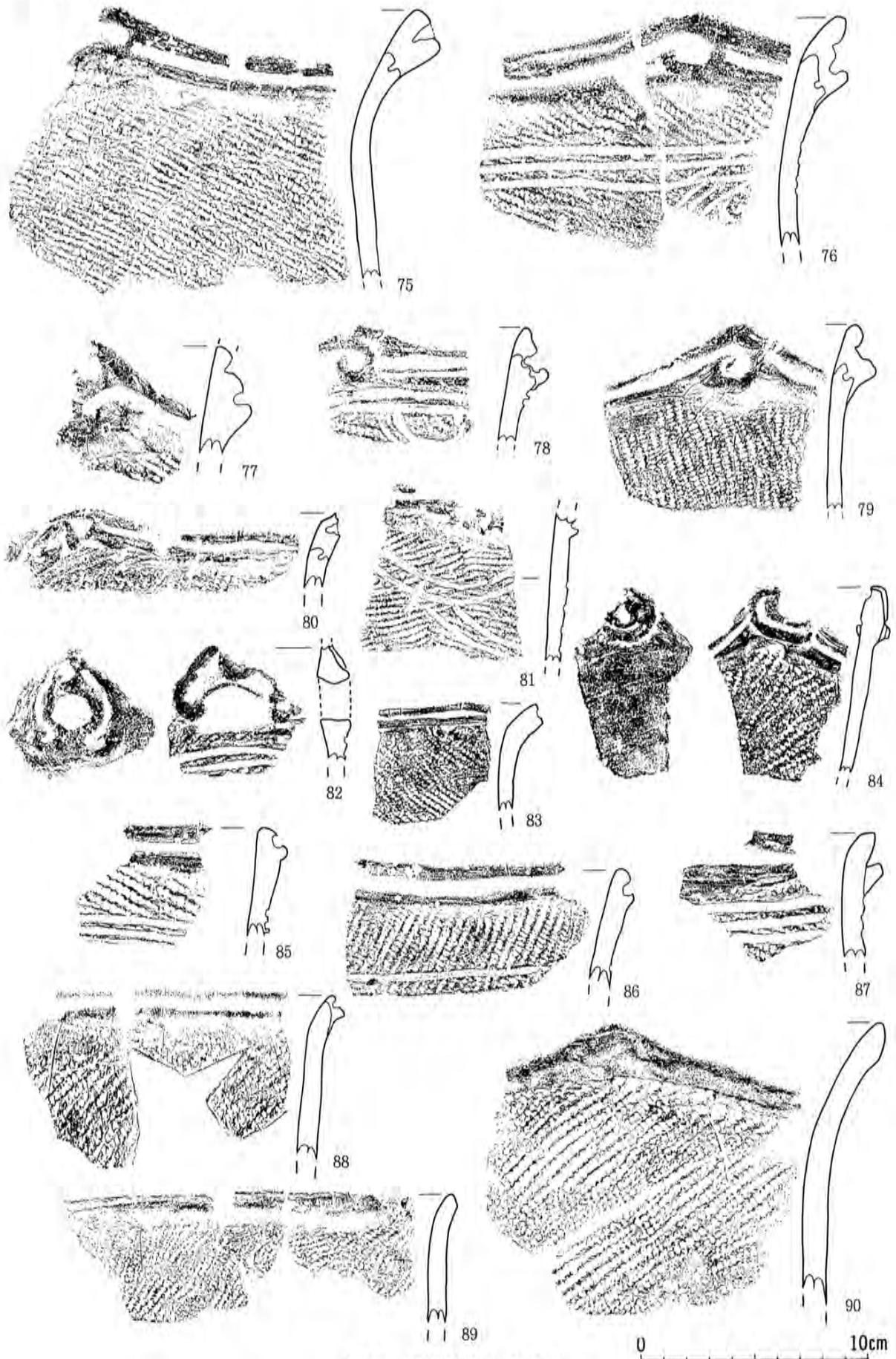


图36 遺構外出土土器(7)

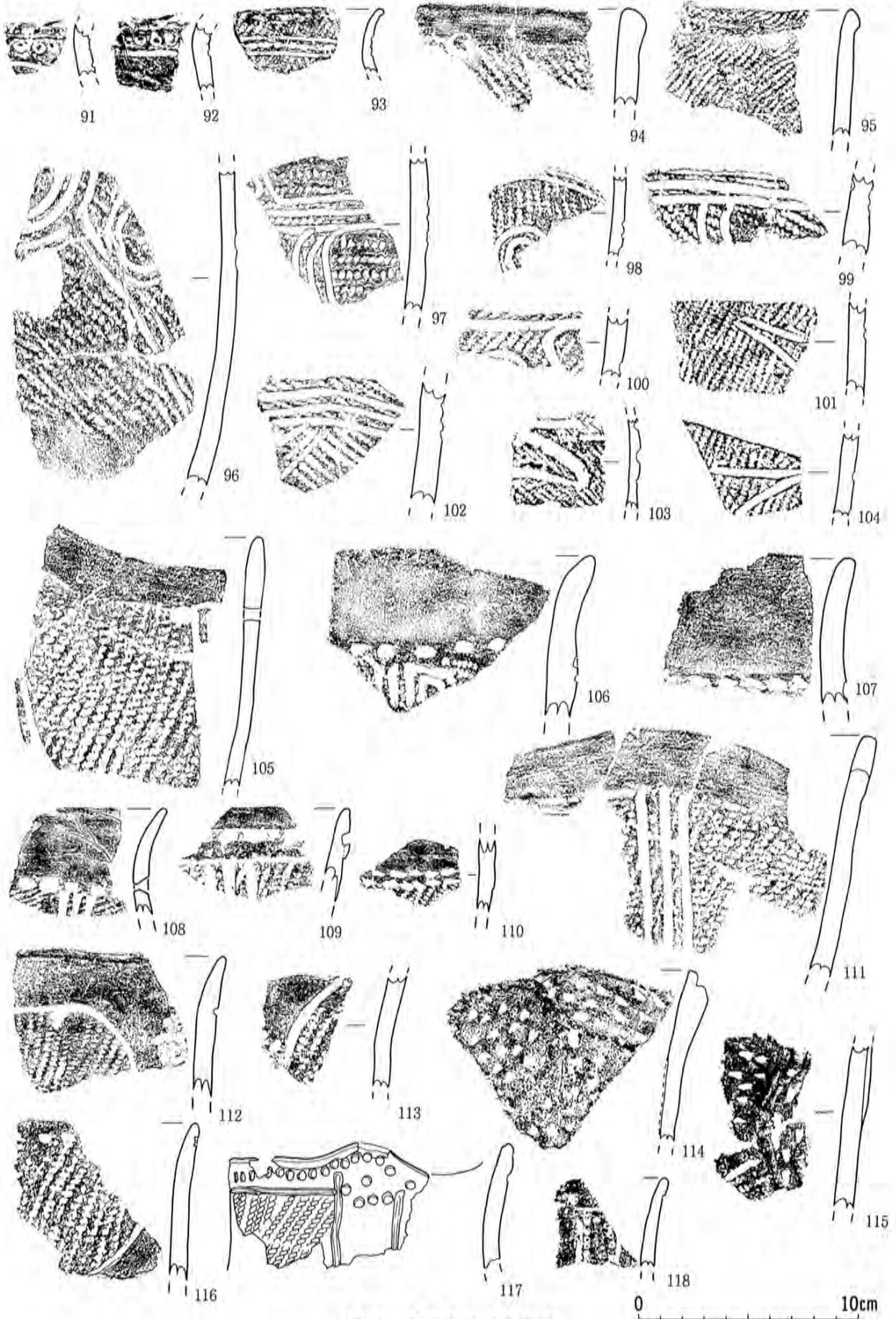


図37 遺構外出土土器(8)

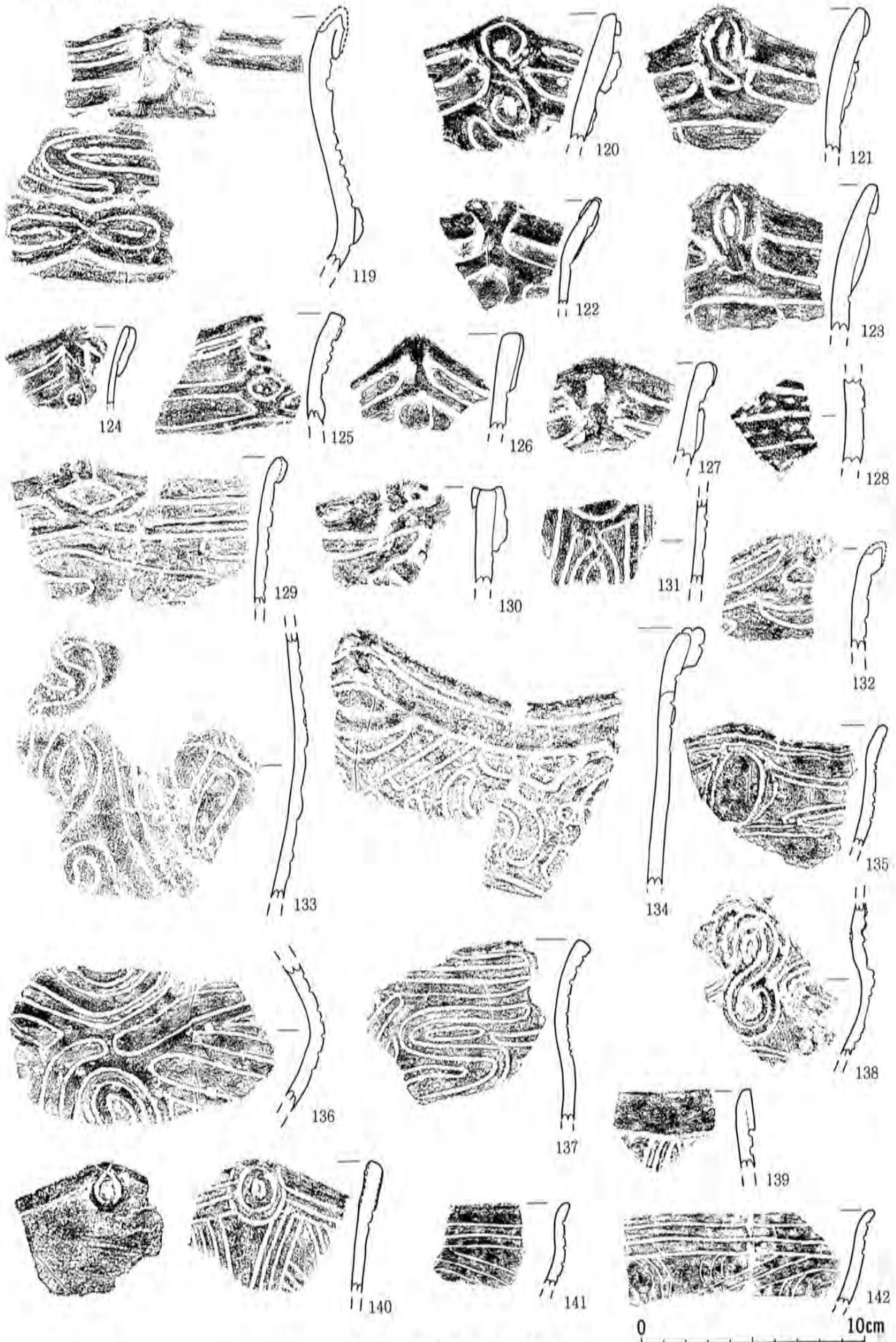


图38 遺構外出土土器(9)

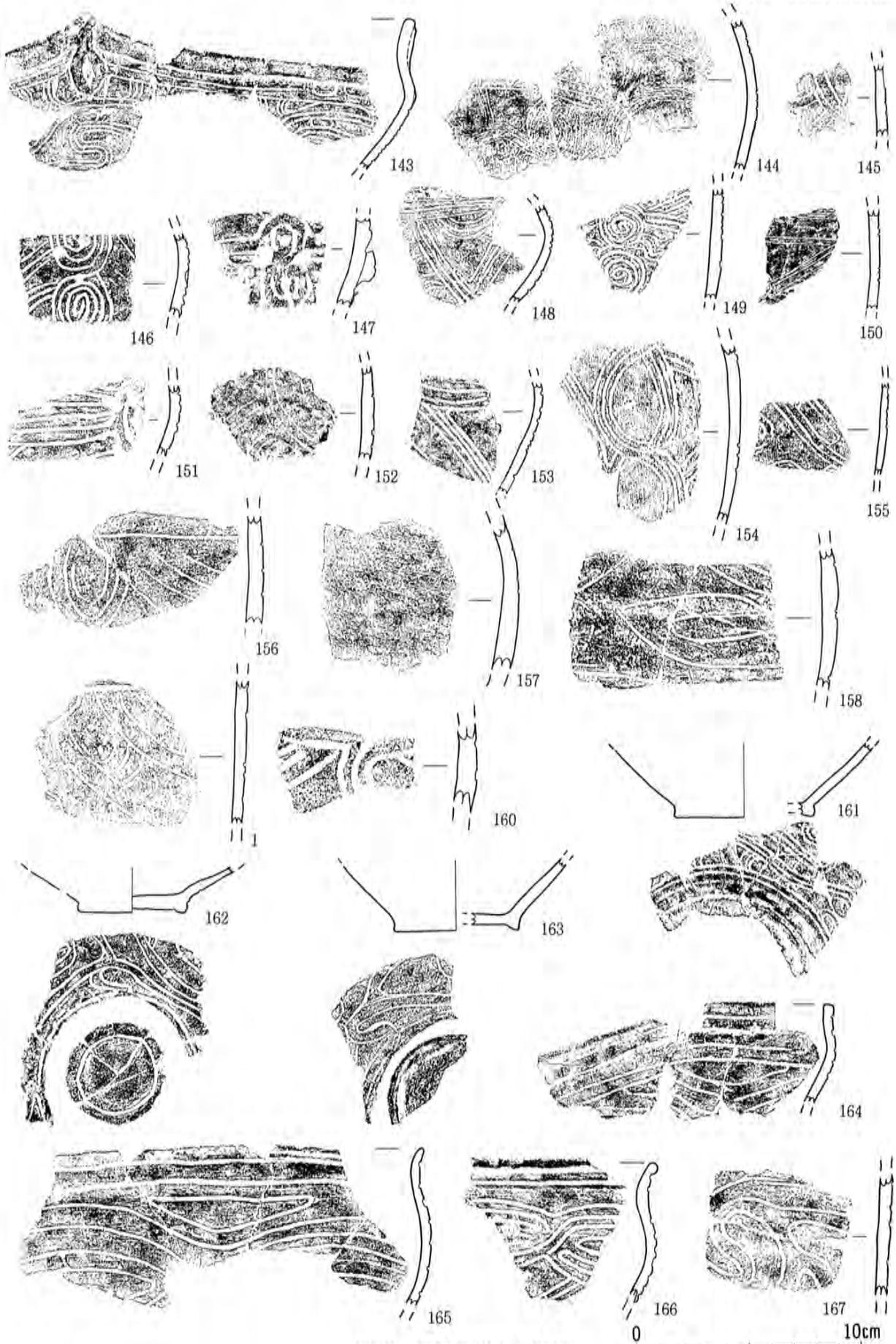


図39 遺構外出土土器(10)

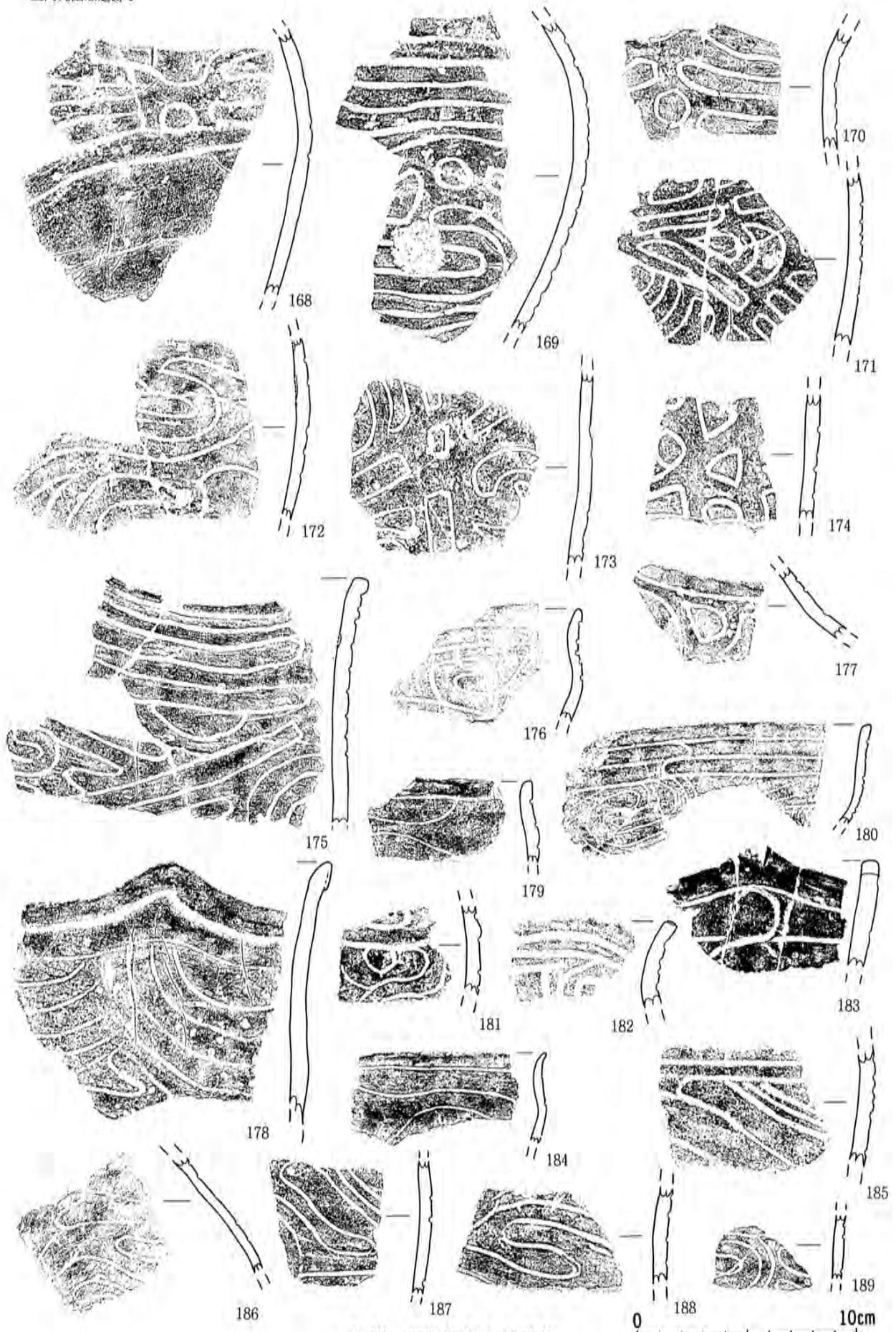


图40 遺構外出土土器(11)

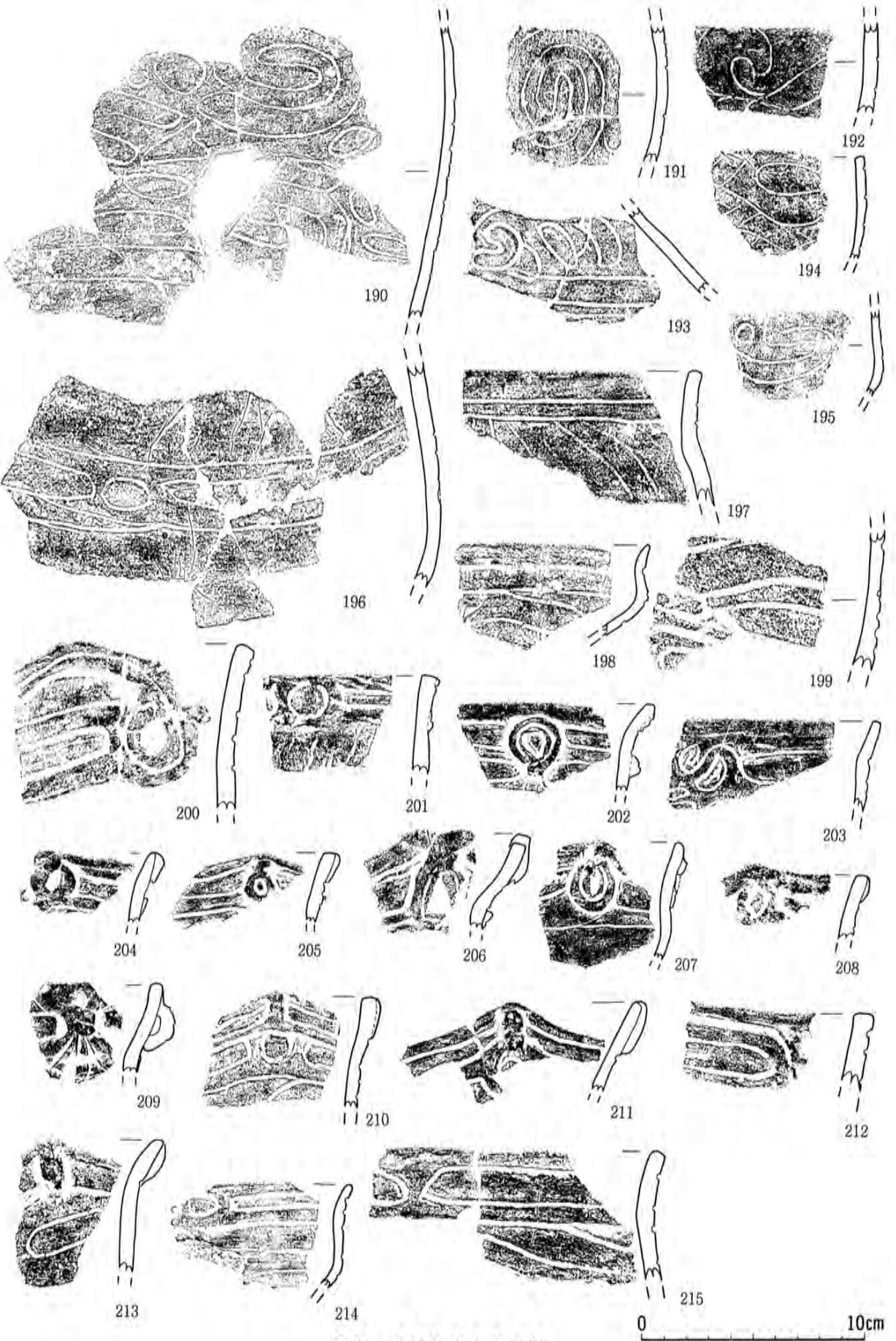


図41 遺構外出土土器(12)

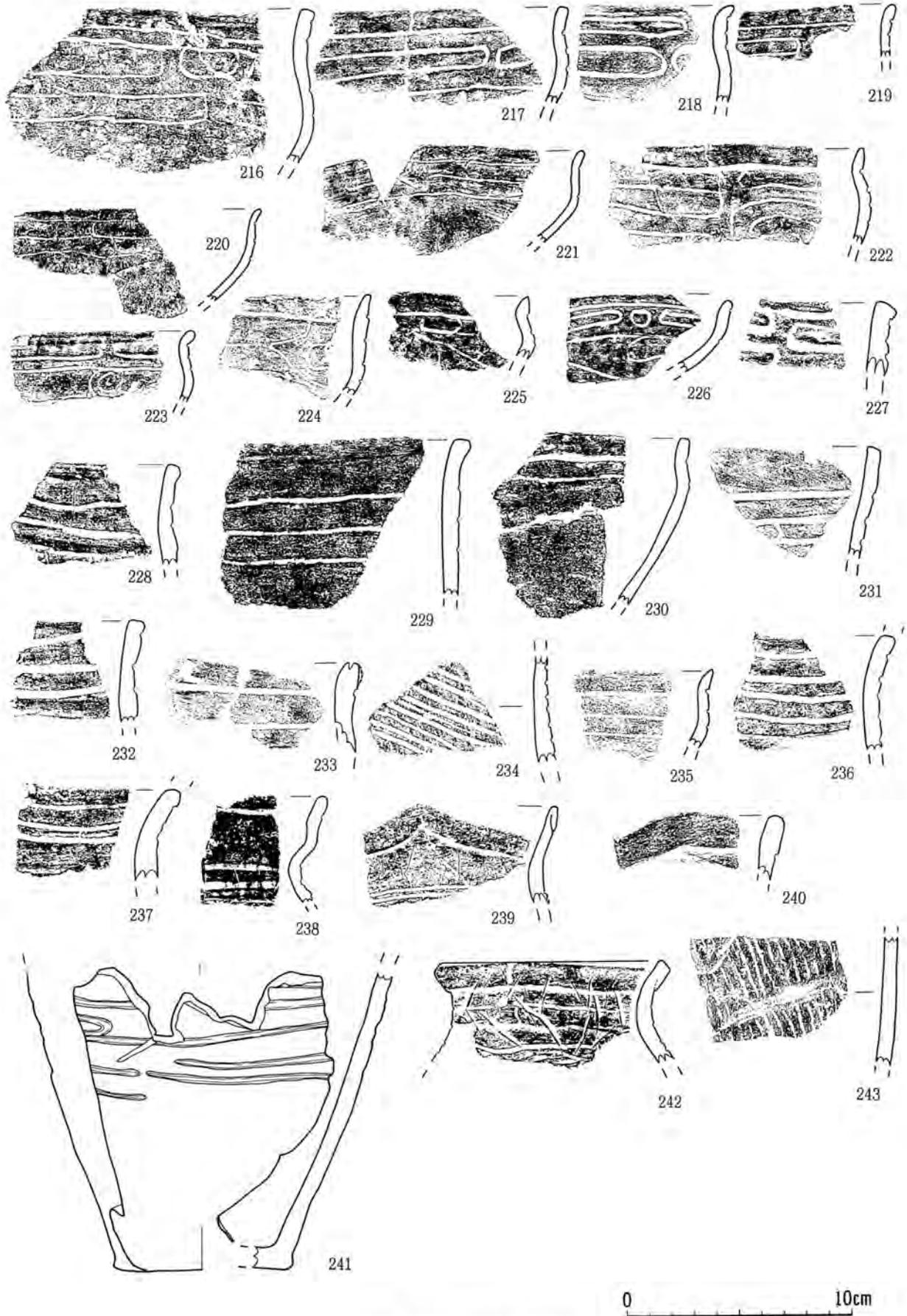


図42 遺構外出土土器(13)

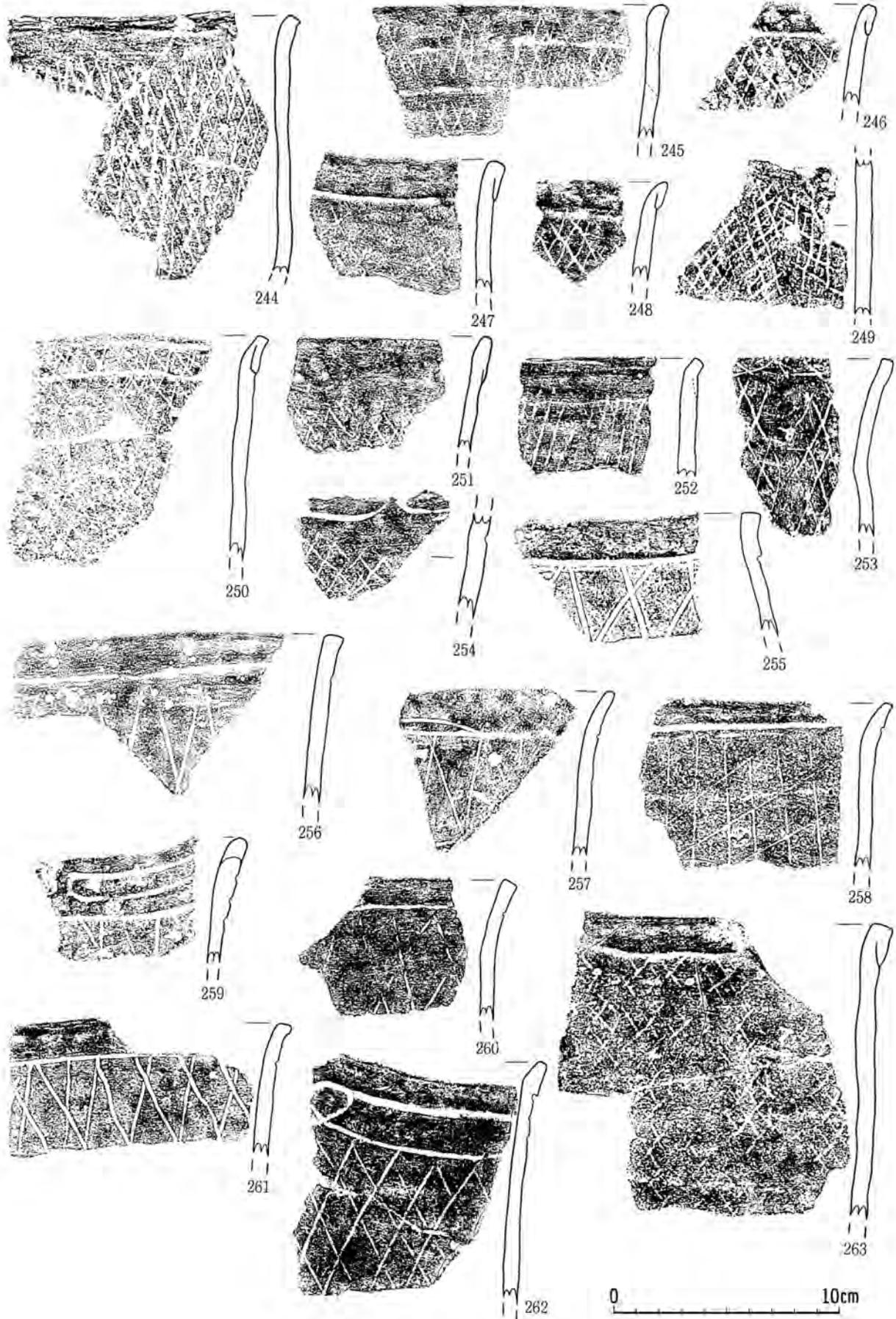


图43 遺構外出土土器(14)

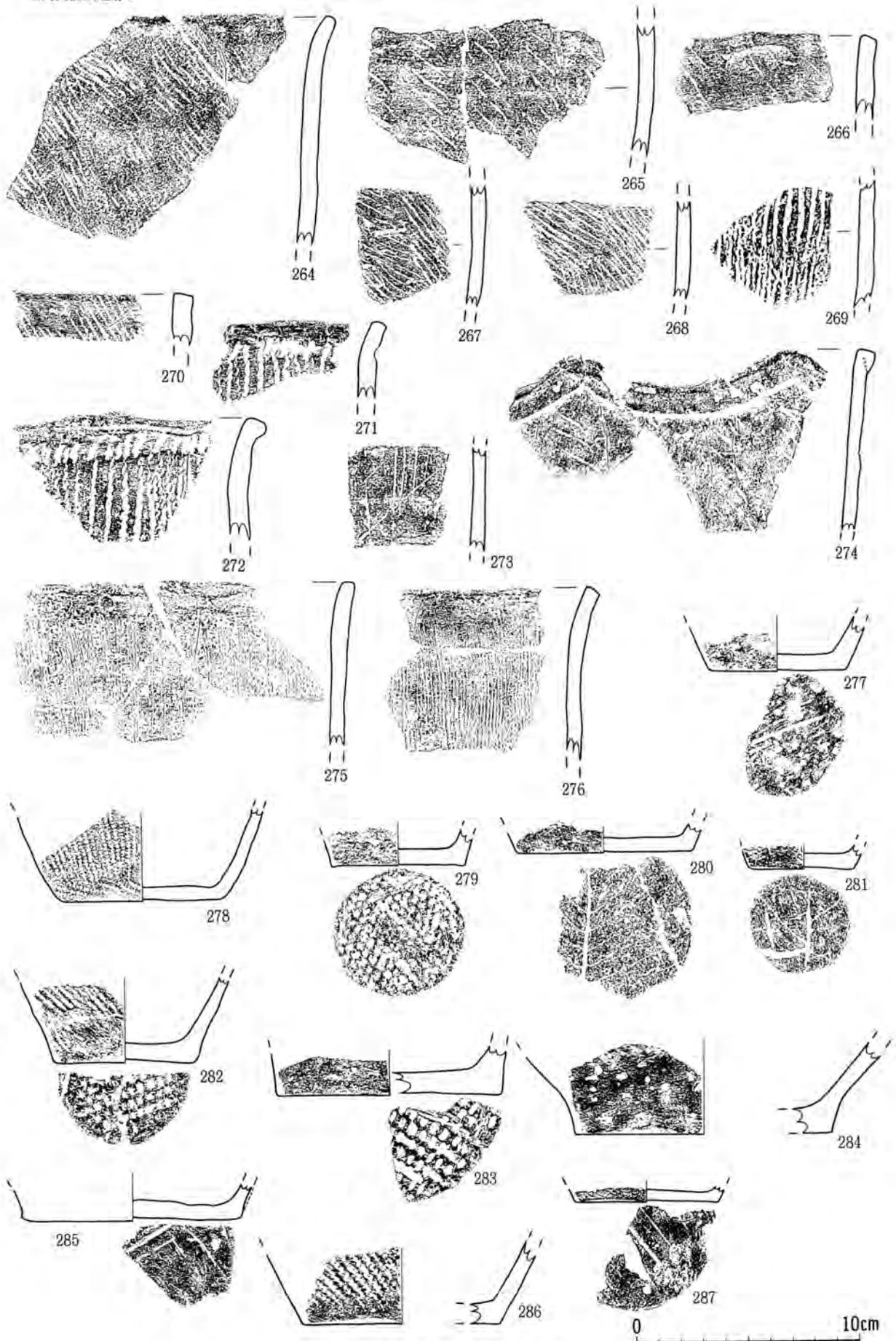


图44 遺構外出土土器(15)

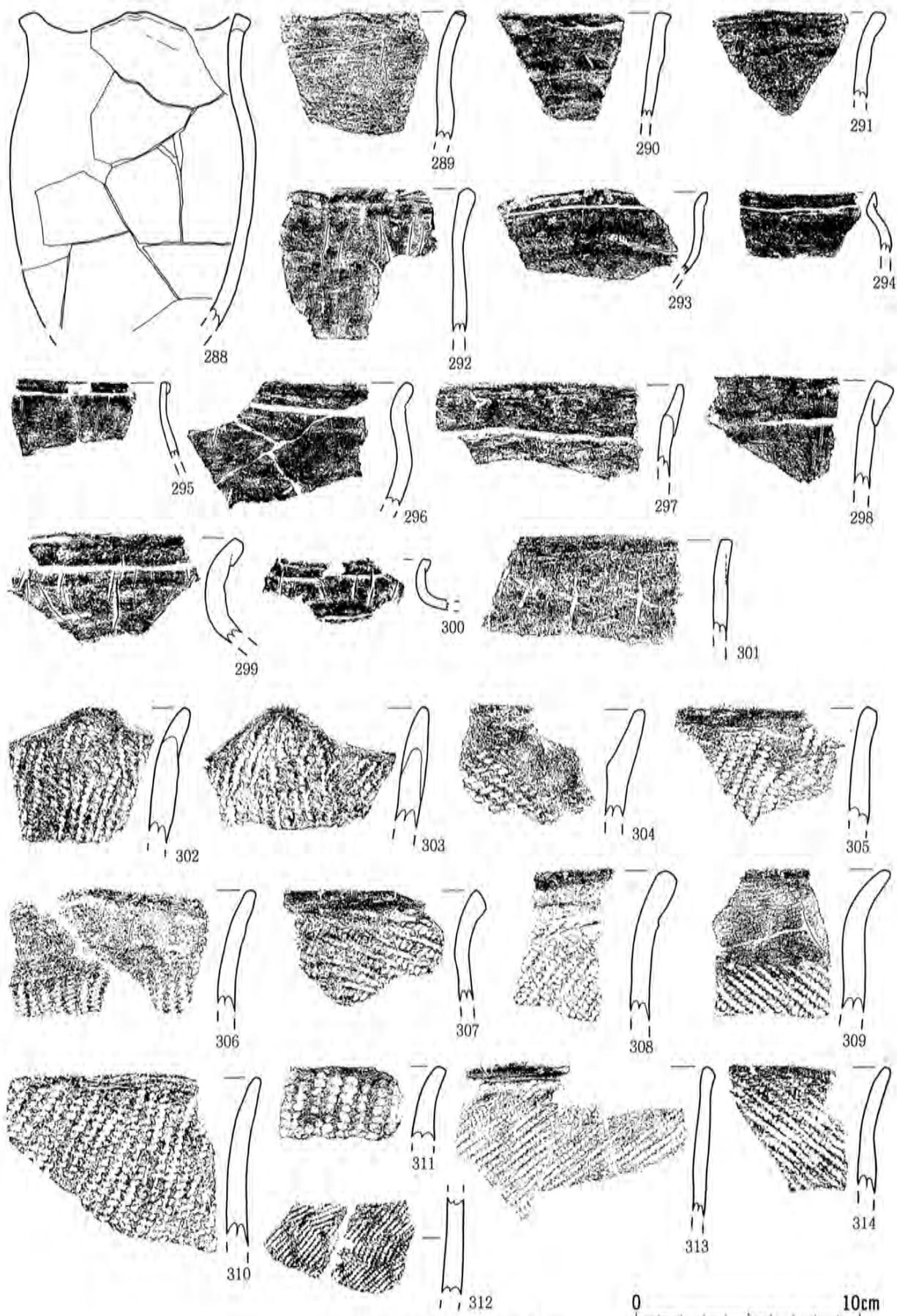


図45 遺構外出土土器(16)

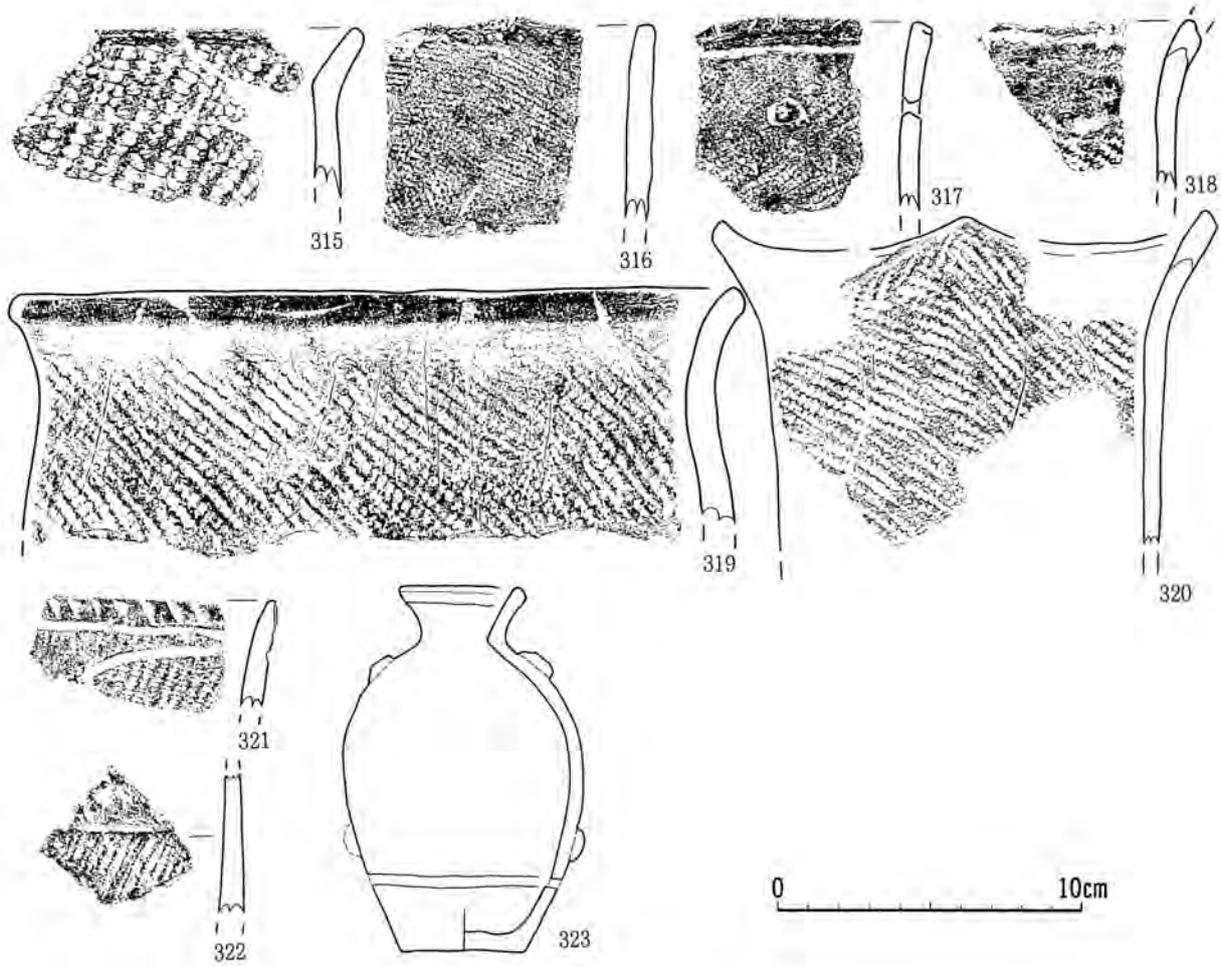


図46 遺構外出土土器(17)

2 石器 (図47~61)

定形石器72点、不定形石器81点、礫石器94点、(二次加工) 剥片152点の総計399点が遺構外から出土した。グリッドⅢK-180~ⅢO-184の遺構の密集した付近からの出土が多い。

石器については、次のように分類した。

I 群 (剥片石器)	1 類 石鏃	II 群 (礫石器)	1 類 石冠
	2 類 石槍		2 類 敲磨器類
	3 類 石匙		3 類 石皿・台石
	4 類 石篋		4 類 砥石
	5 類 石錐		5 類 石棒
	6 類 不定形石器	III 群 (磨製石器)	1 類 磨製石斧

## I群 剥片石器 (図47~52)

1類 石鏃 (1~14) 欠損品を合わせると、18点出土した。

a : 有茎のもの (1~10)

b : 無茎のもの (11~14)

基部が直線的なもの (14)、挟りがあるもの (11~13) がある。13は返し部分が非対称で、やや異形である。

2類 石槍 (15~18) 欠損品を含めて、4点出土した。

平面形がやや幅広の木の葉形のもの (15・16)、基部と思われるもの (17・18) がある。

3類 石匙 (19~31) 13点出土し、1点を除き全て縦形である。

横形石匙を含めて、刃部の調整は片面調整がほとんどであるが、19・23は両面調整を施す。また、剥離が周縁部にとどまるもの (20・22など) と片面をほぼ覆ってしまうもの (19・21など) がある。

4類 石篋 (32~34, 36~47) 欠損品を含めて、20点出土した。

刃部の形状により、

a : 半円形のもの (基本的に棒状)

b : 直線的なもの (平面形は撥形) とに大別することができる。

また、刃部が使用により破損したと思われるもの (41~43など) もある。

5類 石錐 (35)

全体を急角度に調整しており、錐部の先端が磨耗し、若干の光沢がある。

6類 不定形石器 (48~68)

ここでは、二次加工剥片の中で一定の箇所に調整を施したものを一括した。器体の三側縁に刃部を作出するもの (54, 55など)、二側縁に刃部を作出するもの (61, 62など)、一側縁に刃部を作出するもの (66, 67など) がある。 (三林)

## II群 礫石器 (図53~59)

1類 石冠 (69~77)

9点出土しており、全体を窺えるものは2点にすぎない。この類は、大きくすり減った一面と体部に敲打によって作り出された浅い溝を持つものであるが、溝の特徴から二分できる。

a : 敲打による溝を鉢巻き状にめぐらすもの (69~74)

b : 敲打による溝が体部の両端に留まるもの (75~77)

aは溝が全周するため、手に取ってみると非常に握りやすい作りになっている。これに反し、bは

溝が体部両端にしかないため、指先を引っかけるところがなく、多少使いづらい。スリ面はいずれも多少丸みを帯びており、使用方法の一端を窺わせる。

使用石材はすべて安山岩であることから、使用目的にかなった石材が選択されている可能性が高い。

これらの石器は、従来、「北海道式石冠」と呼ばれ、円筒土器文化に伴う石器とされてきたものである。本遺跡の場合のⅡ a～Ⅲ a層の出土のものが多く、縄文時代中期・後期の土器が伴出している。用途としては、石皿とのセットでたたき潰す、製粉化といった石杵としての機能（羽賀：1983）が想定されている。

## 2類 敲磨器類（78～125）

従前であれば、「スリ石」、「敲き石」、「凹石」等に分類されていたものを、スリ・敲き・凹みの機能を複合して持っているものがあるので、「敲磨器類」として一括して取り扱うこととした。

48点出土し、礫石器の中では最も出土点数が多い。全体を窺えるものは20点と、他の類に比較して破損率は低い。

主要痕跡によって分類し、更に機能面の部位などによって細分した。

a：主要痕跡がスリ痕のもの

- 1 両側縁にスリ痕をもつもの（78～82）
- 2 片側縁にスリ痕をもつもの（83～95）
- 3 平坦面にスリ痕をもつもの（96・97）
- 4 1～3に属さないもの一敲打痕を併せもつ（98～101）

b：主要痕跡が敲打痕のもの（敲打が激しく凹になったものも含む）

- 1 平坦面に敲打痕・凹みをもつもの（102～116）
- 2 端部・側縁に敲打痕をもつもの（117～119）
- 3 1・2の両方を兼ね備えるもの（120～125）

aの多くは、従来、「スリ石」と呼ばれていたものであるが、a-4のようにbの主要痕跡を併せ持つものもある。石質は安山岩、流紋岩のものが多い。

bの多くは、従来、「敲き石」、「凹石」と呼ばれていたものであるが、b-3のように、両方を兼ね備え、厳密に従来の区分に当てはまらないものもある。石質は安山岩、流紋岩、凝灰岩などである。

## 3類 石皿・台石（126～128）

3点出土している。いずれも破片で、完形品は1点もない。図中のスクリーントーンは、スリが特に顕著な部分である。また、本来石皿・台石であったものが、凹石に転用されたものは敲磨器類に含めた。

形態の特徴から次のように二分した。

a：立ち上がった縁をもつもの（126・127）

b：それ以外のもの（128）

aは縁をもつ側の面が使用されており、bと比較して厚みがある。bは両面が使用されており、aと比較して薄手である。石質は凝灰岩、流紋岩である。

## 4類 砥石 (129)

1点出土している。欠損品である。両面に数条の溝状（幅1～10mm、深さ数mm）研磨痕が見られる有溝砥石である。溝の断面は幅広でゆるく弧をえがいている。柔らかい凝灰岩を使用していて、石皿の一部を転用したものと思われる。

## 5類 石棒 (130)

1点出土していて、完形品である。長さ40.6cm、直径10.2～10.5cm、重さは7.2kgの無頭石棒である。安山岩が用いられている。

## III群 磨製石器 (図61)

## 1類 磨製石斧 (131～138)

8点出土した。すべて欠損品で破損率が高く、全体の形状を知り得るものは皆無である。刃部形状がわかるものは、ほとんどが両凸刃で、円刃のもの (131, 132, 138)、やや直刃ぎみのもの (134) などがある。136の基端から数cm下の両側面と両主面には、着柄のためと考えられる加工痕が帯状に観察できる。特に、両主面は柄と密着しないように凹状に加工されている。これは両主面が柄と密着していると、使用中に柄が分かれてしまうことを防ぐ意味があるという (佐原: 1982)。

折損方向は平面上で見て、横方向のものが多い。

石質は比較的硬質のものが多く、閃緑岩、緑色細粒凝灰岩、緑色凝灰岩、安山岩、頁岩などである。

遺構外出土石器観察表

(相馬)

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石質	備考
47-1	III I-180	II	石鏃	I-1-a	24.0	14.0	4.0	0.7	珉質頁岩	
2	III M-181	III a	石鏃	I-1-a	31.0	12.0	5.0	1.6	珉質頁岩	
3	III M-179	III a	石鏃	I-1-a	35.0	13.0	6.0	2.2	珉質頁岩	
4	III V-193	II a	石鏃	I-1-a	(43.0)	(12.5)	(5.2)	(2.1)	珉質頁岩	
5	III L-184	-	石鏃	I-1-a	52.0	16.0	7.0	4.3	珉質頁岩	
6	IV G-198	II d	石鏃	I-1-a	51.5	15.0	8.0	4.3	珉質頁岩	
7	IV F-188	II a	石鏃	I-1-a	44.0	16.0	6.7	2.9	珉質頁岩	
8	III L-180	III a	石鏃	I-1-a	39.0	15.0	5.0	2.7	珉質頁岩	
9	III O-185	I	石鏃	I-1-a	(28.0)	(12.0)	(6.0)	(1.6)	珉質頁岩	
10	III L-180	III a	石鏃	I-1-b	30.0	14.3	6.7	2.6	珉質頁岩	
11	III P-184	II a	石鏃	I-1-b	(30.4)	(18.0)	(6.3)	(3.1)	珉質頁岩	
12	III N-186	II a	石鏃	I-1-b	35.0	15.0	3.5	1.2	珉質頁岩	
13	III Q-189	III a	石鏃	I-1-b	32.0	14.7	6.4	1.5	珉質頁岩	
14	III N-178	II d	石鏃	I-1-b	21.0	14.0	2.0	0.5	珉質頁岩	
15	III P-186	II a	石槍	I-2	76.0	31.5	11.5	23.5	珉質頁岩	
16	III M-180	II d	石槍	I-2	86.0	35.5	20.0	39.7	珉質頁岩	
17	III O-186	II a	石槍?	I-2?	(50.0)	(39.0)	(18.0)	(33.6)	珉質頁岩	石鏃の基部?
18	III O-186	II a	石槍?	I-2?	51.0	38.0	21.0	38.1	珉質頁岩	
48-19	III U-193	II a	石匙	I-3	103.0	40.5	18.0	43.4	珉質頁岩	
20	III M-183	II a	石匙	I-3	83.0	34.5	17.0	33.0	珉質頁岩	
21	III I-176	III a	石匙	I-3	94.0	23.5	11.0	20.2	珉質頁岩	
22	III O-186	II a	石匙	I-3	66.0	47.0	12.0	22.6	珉質頁岩	
23	III V-192	II a	石匙	I-3	71.5	26.0	9.5	11.2	珉質頁岩	
24	III I-180	II a	石匙	I-3	48.5	23.0	6.0	7.7	珉質頁岩	
25	III V-193	II a	石匙	I-3	59.0	27.5	12.0	13.4	珉質頁岩	
26	III Q-188	I	石匙	I-3	44.5	18.5	6.7	3.9	珉質頁岩	
27	III O-187	II a	石匙	I-3	62.0	39.0	14.5	25.2	珉質頁岩	
28	III I-180	II a	石匙	I-3	49.0	24.0	55.0	7.4	珉質頁岩	
29	III R-189	II a	石匙	I-3	18.0	16.0	5.0	1.6	珉質頁岩	
49-30	IV U-191	II a	石匙	I-3	87.0	47.5	20.0	45.9	珉質頁岩	
31	IV G-199	II a	石匙	I-3	36.0	45.0	4.9	7.0	珉質頁岩	

## 三内丸山(6)遺跡 I

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: mm	石質	備考
32	ⅢP-188	I	石籠	I-4-a	74.5	20.0	18.5	17.4	珉質頁岩	
33	ⅢO-184	Ⅲa	石籠	I-4-a	63.0	20.0	16.5	19.2	珉質頁岩	
34	ⅢV-192	Ⅱa	石籠	I-4-a	72.0	26.0	11.0	22.2	珉質頁岩	
35	ⅣH-198	Ⅲa	石籠	I-5	66.0	16.0	12.0	9.9	珉質頁岩	
36	ⅢN-184	Ⅲa	石籠	I-4-a	75.0	22.0	19.0	30.5	珉質頁岩	
37	ⅢL-181	Ⅲa	石籠	I-4-a	73.5	29.0	15.0	30.9	珉質頁岩	
38	ⅢI-180	Ⅱa	石籠	I-4-a	51.5	15.5	10.0	8.7	珉質頁岩	
39	ⅢN-182	Ⅲa	石籠	I-4-b	(72.0)	42.0	11.5	37.1	珉質頁岩	
50-40	ⅢI-180	Ⅱa	石籠	I-4-b	57.0	21.0	12.0	15.3	珉質頁岩	
41	ⅢV-192	Ⅱa	石籠	I-4-b	67.0	23.0	13.5	19.4	珉質頁岩	
42	ⅢV-193	Ⅱa	石籠	I-4-b	64.5	20.0	13.5	15.1	珉質頁岩	
43	ⅢT-192	Ⅱa	石籠	I-4-b	49.5	23.5	11.5	12.3	珉質頁岩	
44	ⅢN-184	Ⅱa	石籠	I-4-b	51.0	23.0	13.5	15.6	珉質頁岩	
45	ⅢS-189	Ⅱa	石籠	I-4-b	38.5	27.5	10.5	9.6	玉髓質珉質頁岩	
46	ⅢV-193	Ⅱa	石籠	I-4-b	57.0	29.0	15.0	23.4	珉質頁岩	
47	ⅢO-185	Ⅱa	石籠	I-4-a	103.0	34.0	24.5	84.4	珉質頁岩	
48	ⅢX-195	Ⅱa	不定形	I-6	59.5	24.5	11.0	10.0	珉質頁岩	石籠?
49	ⅢU-190	Ⅱa	不定形	I-6	29.0	20.0	4.0	3.2	珉質頁岩	
50	ⅢN-179	Ⅱa	不定形	I-6	48.0	22.0	10.0	9.6	珉質頁岩	
51-51	ⅢM-181	Ⅲa	不定形	I-6	81.5	26.0	14.0	32.8	珉質頁岩	
52	ⅢU-191	Ⅱa	不定形	I-6	47.0	21.0	14.0	11.3	珉質頁岩	
53	ⅢV-192	Ⅱa	不定形	I-6	40.0	24.0	11.5	8.6	珉質頁岩	
54	ⅣF-187	Ⅱd	不定形	I-6	37.0	52.0	13.0	20.2	珉質頁岩	
55	ⅢI-180	Ⅱa	不定形	I-6	63.0	56.5	21.0	55.4	珉質頁岩	
56	ⅢX-195	Ⅲa	不定形	I-6	59.0	30.0	6.0	8.1	珉質頁岩	
57	ⅢN-187	Ⅲa	不定形	I-6	76.0	39.0	16.0	34.3	珉質頁岩	
58	ⅣV-191	Ⅱa	不定形	I-6	48.0	57.0	13.0	19.8	珉質頁岩	
59	ⅣF-197	Ⅲa	不定形	I-6	50.5	50.0	11.5	27.8	珉質頁岩	
60	ⅢJ-181	Ⅱa	不定形	I-6	41.5	43.5	11.5	22.0	珉質頁岩	
52-61	ⅢN-186	Ⅱa	不定形	I-6	53.0	73.0	14.0	38.1	珉質頁岩	
62	ⅣE-199	Ⅲa	不定形	I-6	52.0	65.0	19.0	28.8	珉質頁岩	
63	ⅢP-188	I	不定形	I-6	53.0	38.5	9.5	15.2	珉質頁岩	
64	ⅢN-182	Ⅲa	不定形	I-6	45.0	52.0	14.0	20.3	珉質頁岩	
65	ⅢI-180	Ⅱa	不定形	I-6	37.0	55.0	15.0	20.9	珉質頁岩	
66	ⅢT-189	Ⅱa	不定形	I-6	31.5	42.5	12.0	12.7	珉質頁岩	
67	ⅢV-193	Ⅱa	不定形	I-6	50.0	43.5	16.0	35.4	珉質頁岩	
68	ⅢO-187	Ⅱa	不定形	I-6	41.5	67.0	9.5	11.9	珉質頁岩	
53-69	ⅢN-186	Ⅱa	石冠	Ⅱ-1-a	(107)	73	37	(390.2)	安山岩	
70	ⅢN-185	Ⅱa	石冠	Ⅱ-1-a	(67)	(68)	(53)	(334.0)	安山岩	
71	ⅢO-181	Ⅱb	石冠	Ⅱ-1-a	135	70	44	(615.8)	安山岩	
72	ⅢN-183	Ⅲa	石冠	Ⅱ-1-a	(89)	(66)	(35)	(303.6)	安山岩	
73	ⅢH-181	I	石冠	Ⅱ-1-a	(56)	(69)	(39)	(194.8)	安山岩	
74	ⅢN-179	Ⅲa	石冠	Ⅱ-1-a	(73)	(54)	(37)	(232.5)	安山岩	
75	ⅢN-186	Ⅱa	石冠	Ⅱ-1-b	(72)	(78)	(38)	(263.3)	安山岩	
76	ⅢO-184	Ⅲa	石冠	Ⅱ-1-b	151	81	41	870.7	安山岩	
77	ⅢL-178	I	石冠	Ⅱ-1-b	(89)	(75)	(25)	(240.6)	安山岩	
54-78	ⅢK-182	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-1	(80)	59	(28)	(201.0)	安山岩	
79	ⅢN-180	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-1	(83)	(58)	(29)	(218.8)	安山岩	
80	ⅢL-177	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-1	(88)	(60)	(40)	(281.8)	安山岩	
81	ⅢP-181	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-1	(120)	(70)	57	(532.1)	安山岩	
82	ⅢE-176	Ⅱ	敲磨器類	Ⅱ-2-a-1	114	55	40	379.8	安山岩	
83	ⅢL-180	I	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	(80)	(74)	(43)	(311.7)	安山岩	
84	ⅢO-181	Ⅱb	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	(82)	(62)	(50)	339.6	安山岩	
85	ⅢS-192	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	(63)	(62)	(33)	(149.8)	流紋岩	
86	ⅢQ-184	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	(107)	(97)	(55)	(507.7)	流紋岩	
87	ⅢO-188	I	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	(122)	71	39	441.6	流紋岩	
55-88	ⅢL-185	Ⅱ	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	157	66	45	634.1	安山岩	
89	ⅢO-186	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	(116)	(65)	(30)	(339.0)	安山岩	
90	ⅢO-186	I	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	(98)	(62)	(40)	(223.2)	安山岩	
91	ⅢO-181	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	157	78	54	849.0	流紋岩	
92	ⅢK-182	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	155	(70)	(55)	(600.2)	流紋岩	
93	ⅢO-180	Ⅱb	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	141	(63)	(28)	(362.9)	安山岩	

図版番号	出土位置	層位	器種	分類	長さ: mm	幅: mm	厚さ: mm	重さ: g	石質	備考
94	ⅢU-190	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	149	59	32	(510.2)	安山岩	
95	ⅢO-185	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-2	121	71	44	(575.8)	安山岩	
56-96	ⅢL-182	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-3	(131)	65	53	(645.6)	安山岩	
97	ⅢH-179	I	敲磨器類	Ⅱ-2-a-3	(87)	(63)	(62)	(459.2)	安山岩	
98	ⅢL-185	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-4	(111)	(78)	(59)	(575.2)	流紋岩	
99	ⅢN-186	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-4	145	78	51	836.4	流紋岩	
100	ⅢL-182	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-4	143	83	66	1173.2	流紋岩	
101	ⅢL-178	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-a-4	141	62	56	724.5	安山岩	
57-102	C区	I	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	150	53	37	384.8	安山岩	
103	ⅢO-182	I	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(111)	(90)	(54)	(660.3)	流紋岩	
104	ⅢV-192	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(51)	(87)	(22)	(92.4)	凝灰岩	
105	ⅢM-184	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(62)	(63)	(32)	(161.7)	凝灰岩	
106	ⅢO-188	I	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	135	65	27	(291.0)	安山岩	
107	ⅢO-186	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(96)	(57)	(33)	(253.2)	安山岩	
108	ⅢM-180	Ⅱb	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	149	54	40	349.7	安山岩	
109	ⅢM-181	I	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(114)	60	49	(372.5)	流紋岩	
58-110	ⅢW-195	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(132)	120	(39)	(369.1)	凝灰岩	
111	ⅢU-194	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(82)	(68)	(33)	(177.7)	凝灰岩	
112	ⅢO-186	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(152)	(93)	(31)	(605.0)	凝灰岩	
113	ⅢJ-180	I	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(76)	(57)	(31)	(173.2)	安山岩	
114	ⅢJ-180	I	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(70)	(58)	(25)	(123.5)	安山岩	
115	ⅣE-195	I	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	168	47	34	468.7	安山岩	
116	ⅢH-181	Ⅱ	敲磨器類	Ⅱ-2-b-1	(113)	(50)	(50)	(431.1)	安山岩	
59-117	ⅢP-182	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-2	112	59	50	520.2	流紋岩	
118	ⅢN-184	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-2	126	31	30	131.9	安山岩	
119	ⅢM-183	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-2	145	45	40	326.4	安山岩	
120	ⅢM-181	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-3	97	57	43	249.0	凝灰岩	
121	ⅢW-195	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-3	142	65	36	486.3	安山岩	
122	ⅢM-182	Ⅲa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-3	146	64	40	455.4	安山岩	
123	ⅢO-186	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-3	(87)	(67)	(48)	(471.0)	流紋岩	
60-124	ⅢQ-187	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-3	117	60	41	365.0	安山岩	
125	ⅢM-183	Ⅱa	敲磨器類	Ⅱ-2-b-3	114	60	33	322.1	安山岩	
126	ⅢN-181	Ⅲa	石皿・台石	Ⅱ-3-a	(101)	80	(35)	(221.2)	凝灰岩	
127	ⅢL-185	Ⅱa	石皿・台石	Ⅱ-3-a	(85)	(78)	(29)	(126.6)	凝灰岩	
128	ⅢK-179	Ⅱa	石皿・台石	Ⅱ-3-b	(94)	(131)	(30)	(277.2)	流紋岩	
129	ⅢX-194	Ⅲa	砥石	Ⅱ-4	(47)	(58)	(26)	(63.8)	凝灰岩	
130	ⅢR-187	Ⅱa	石棒	Ⅱ-5	406	102	105	7200	安山岩	
61-131	ⅢN-182	I	磨製石斧	Ⅲ-1	(46)	(32)	(17)	(40.5)	安山岩	
132	ⅢN-183	Ⅱa	磨製石斧	Ⅲ-1	(54)	(54)	(25)	(52.3)	頁岩	
133	ⅢN-184	I	磨製石斧	Ⅲ-1	90	(35)	(20)	(81.5)	緑色細粒凝灰岩	
134	ⅢU-193	Ⅱa	磨製石斧	Ⅲ-1	(98)	(56)	35	(313.9)	閃緑岩	
135	ⅢO-187	Ⅱa	磨製石斧	Ⅲ-1	(119)	(58)	(38)	(334.7)	緑色凝灰岩	
136	ⅢJ-176	Ⅲa	磨製石斧	Ⅲ-1	(109)	(46)	(27)	(207.7)	緑色細粒凝灰岩	
137	ⅢF-187	Ⅱb	磨製石斧	Ⅲ-1	(119)	(48)	(32)	231.9	閃緑岩	
138	ⅢO-180	Ⅲa	磨製石斧	Ⅲ-1	(92)	(63)	(45)	(353.4)	緑色細粒凝灰岩	

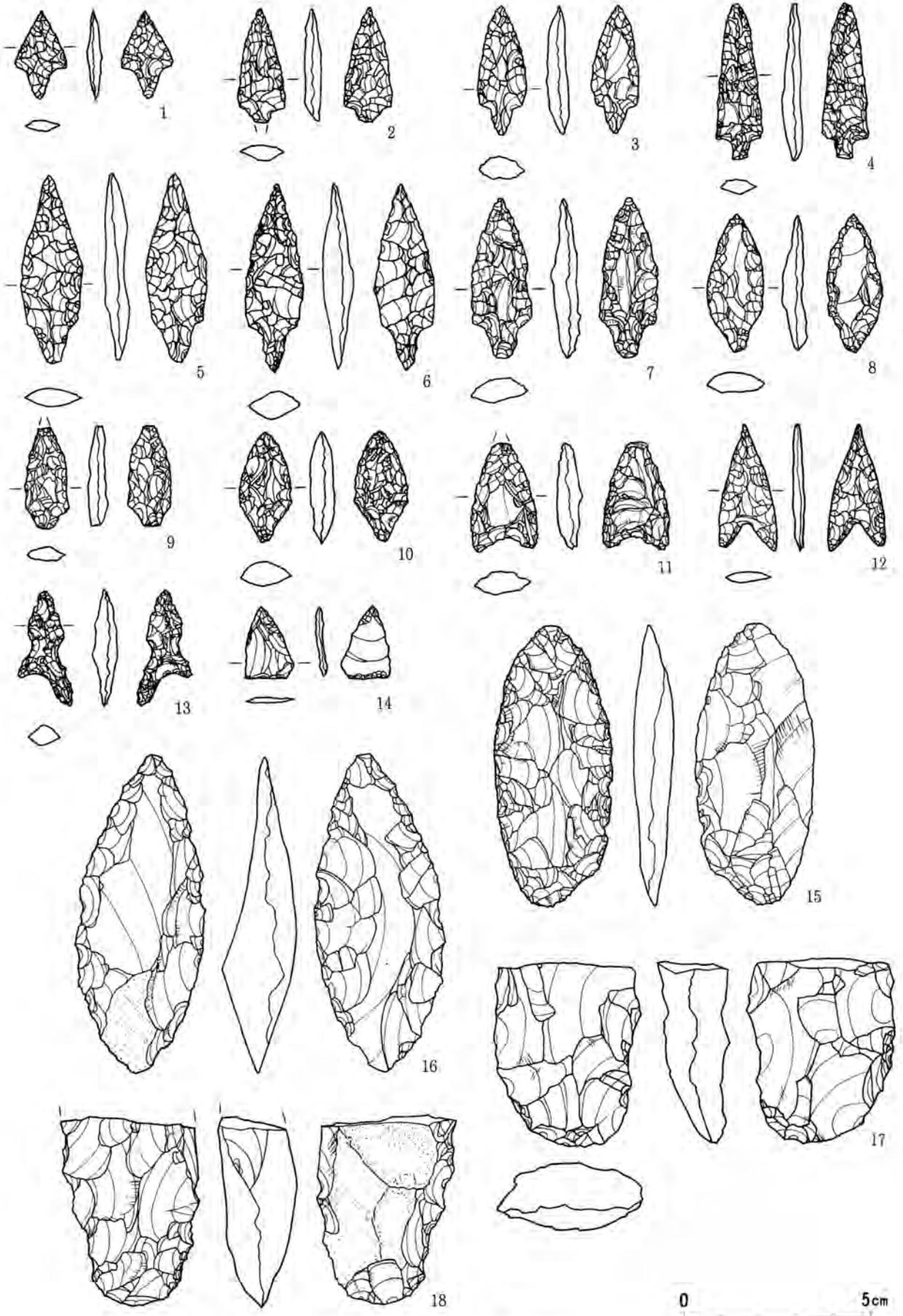


図47 遺構外出土石器(1)

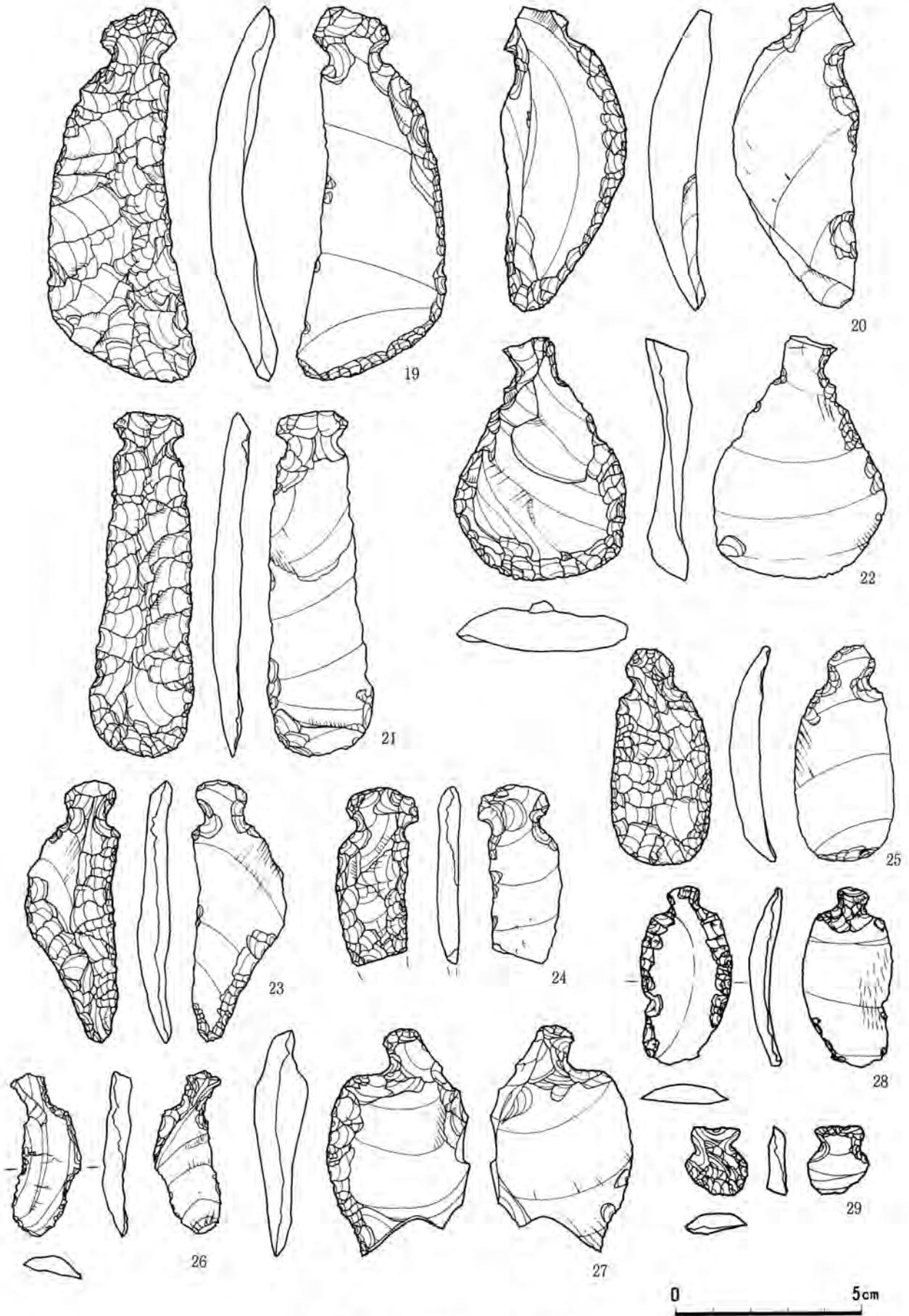


图48 遺構外出土石器（2）

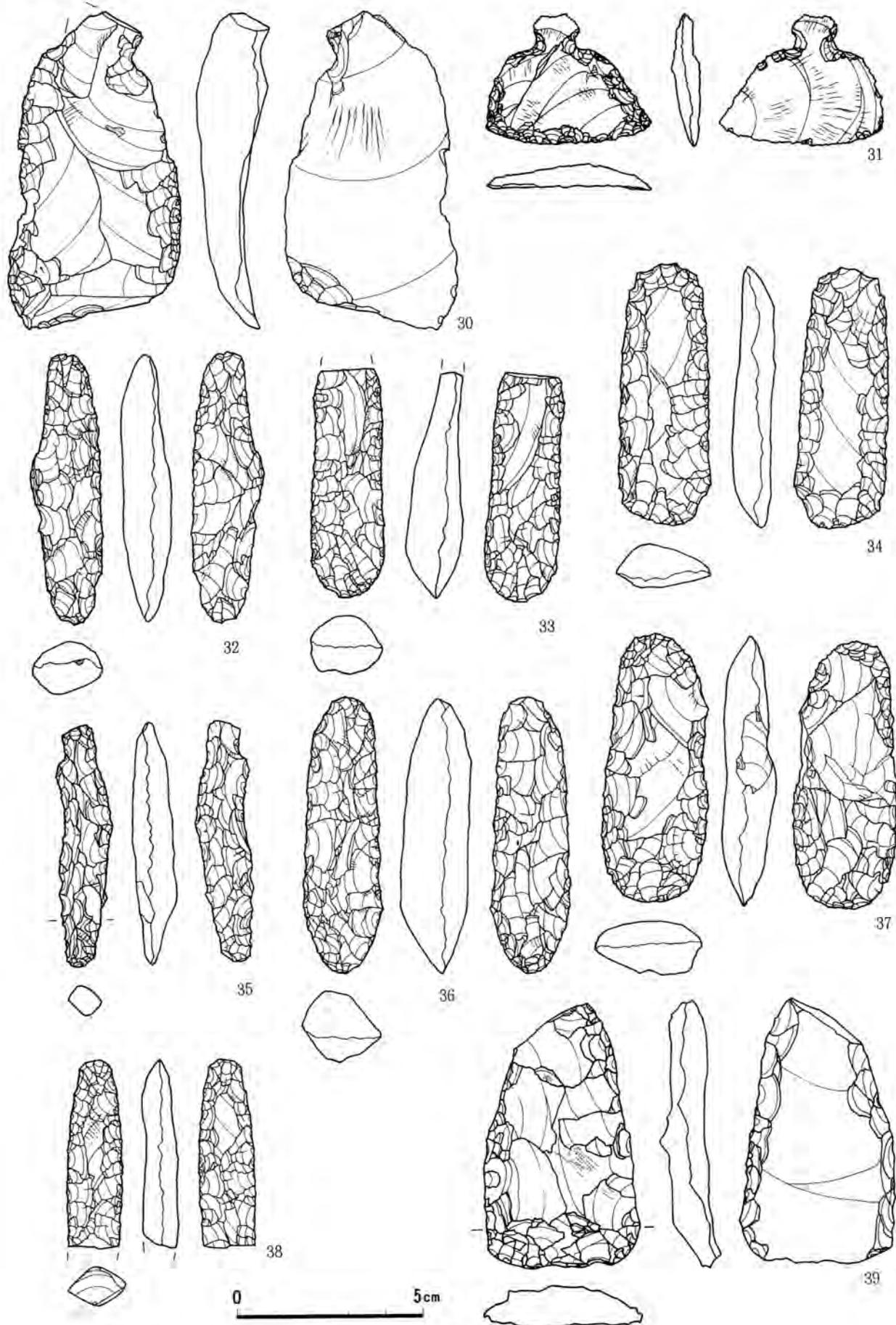


图49 遺構外出土石器 (3)

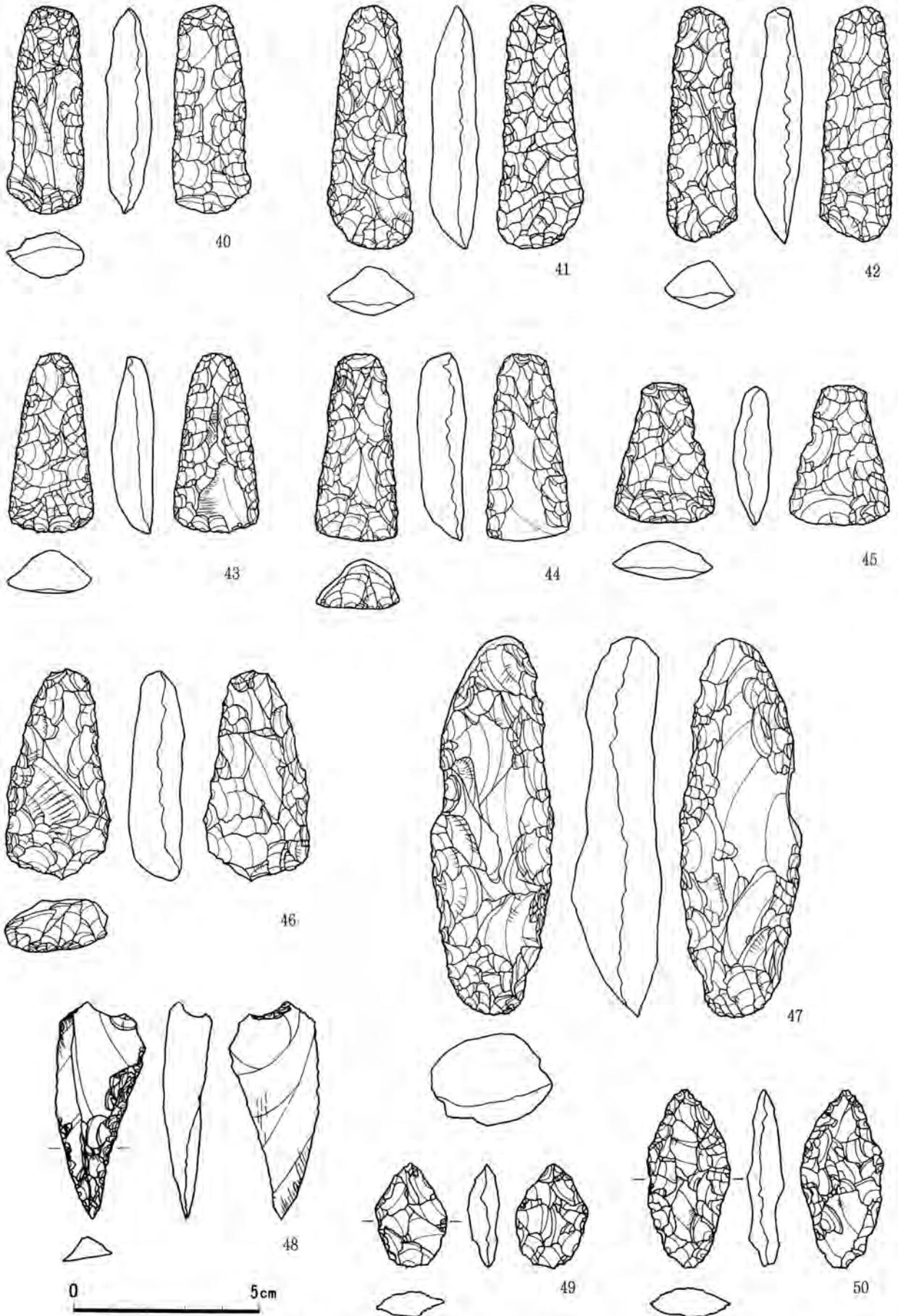


図50 遺構外出土石器 (4)

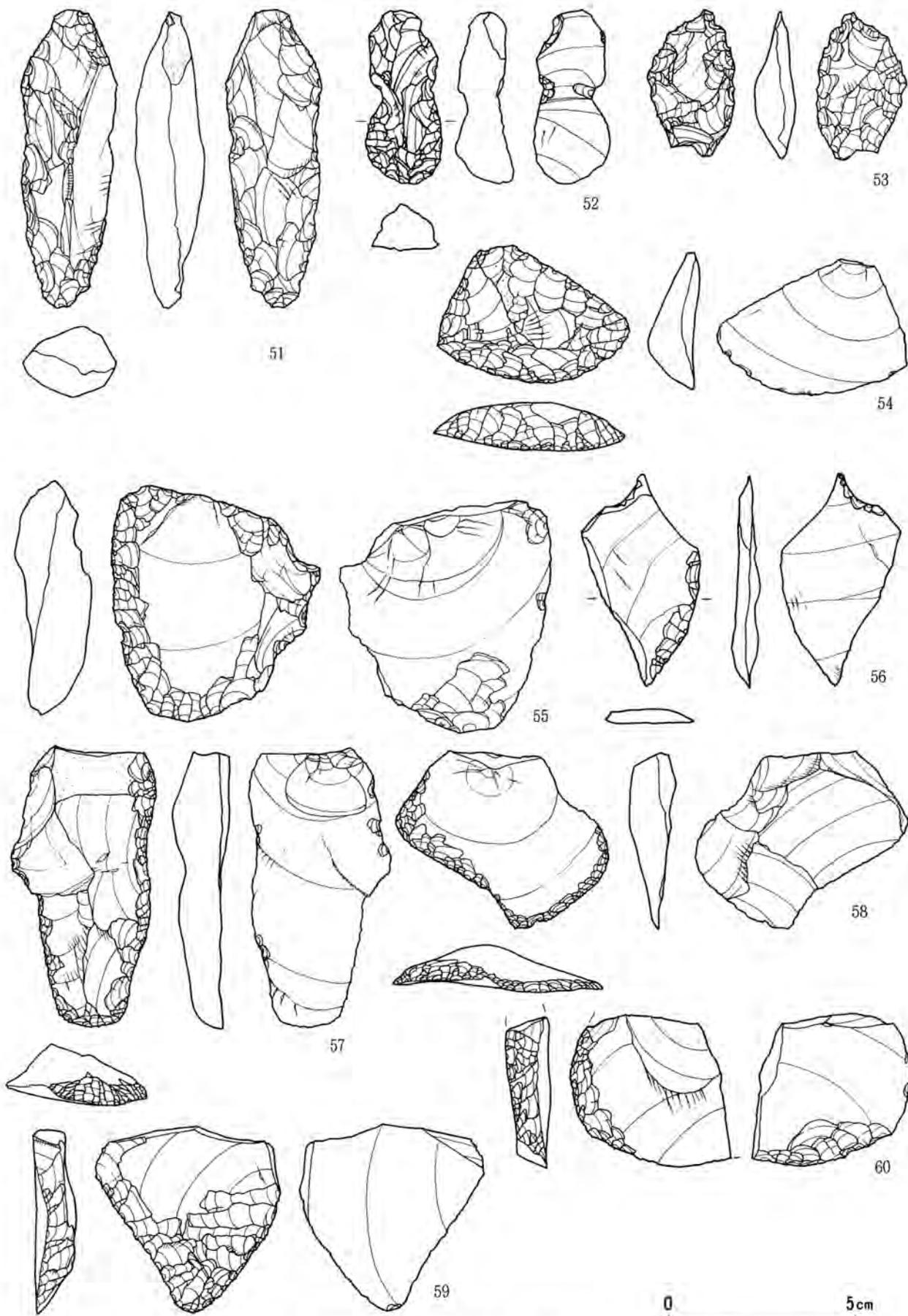


図51 遺構外出土石器 (5)

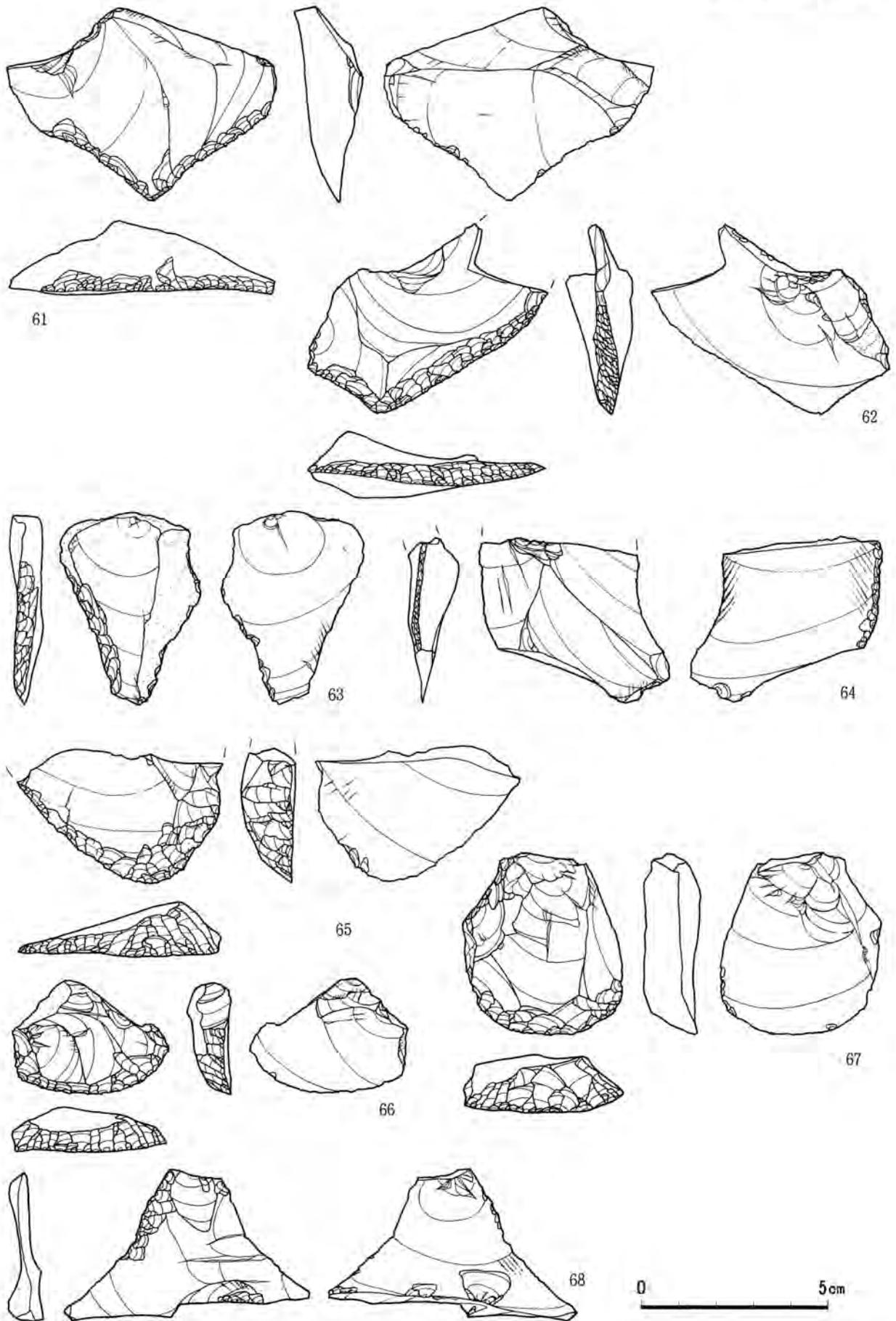


图52 遺構外出土石器(6)

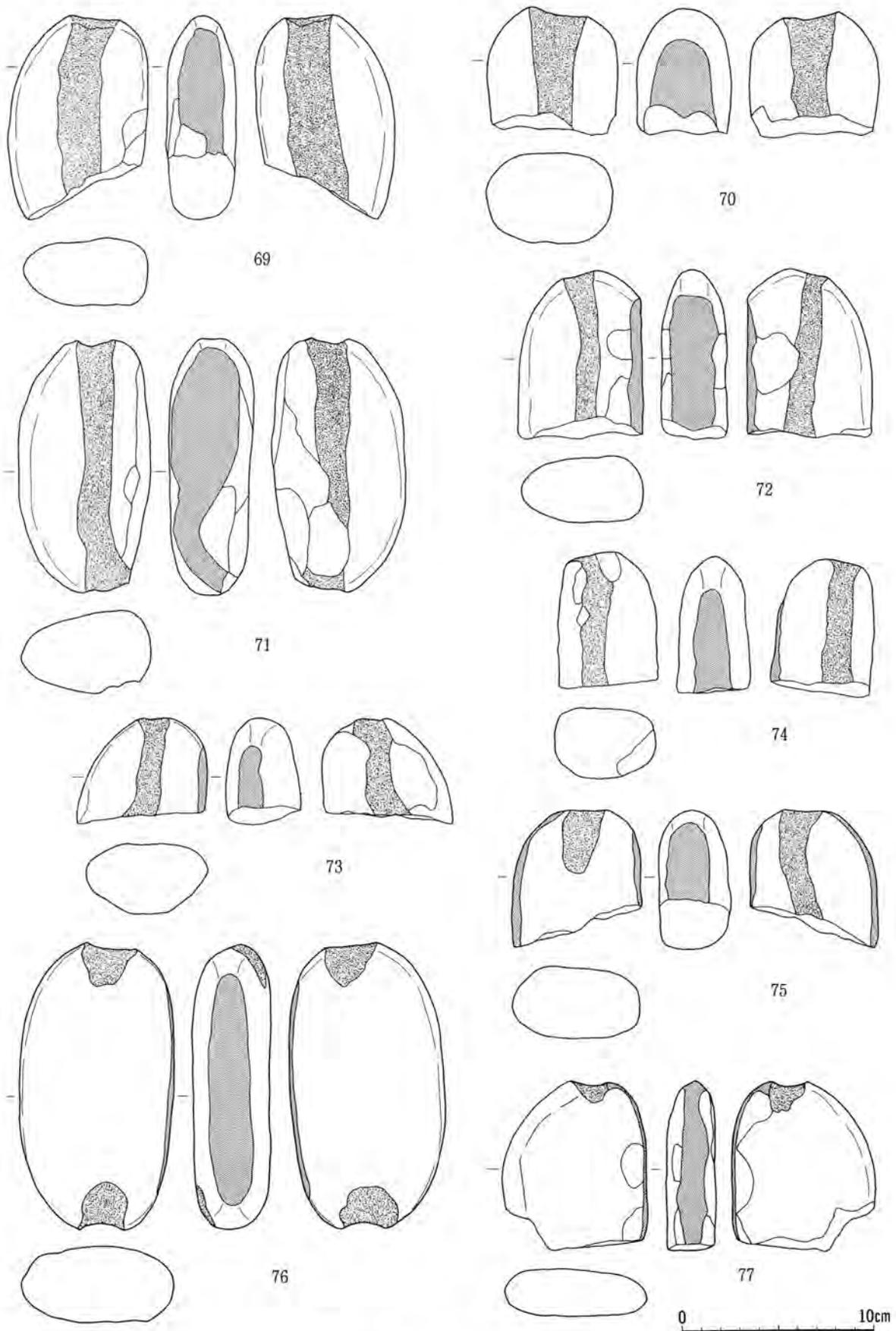


图53 遺構外出土石器(7)

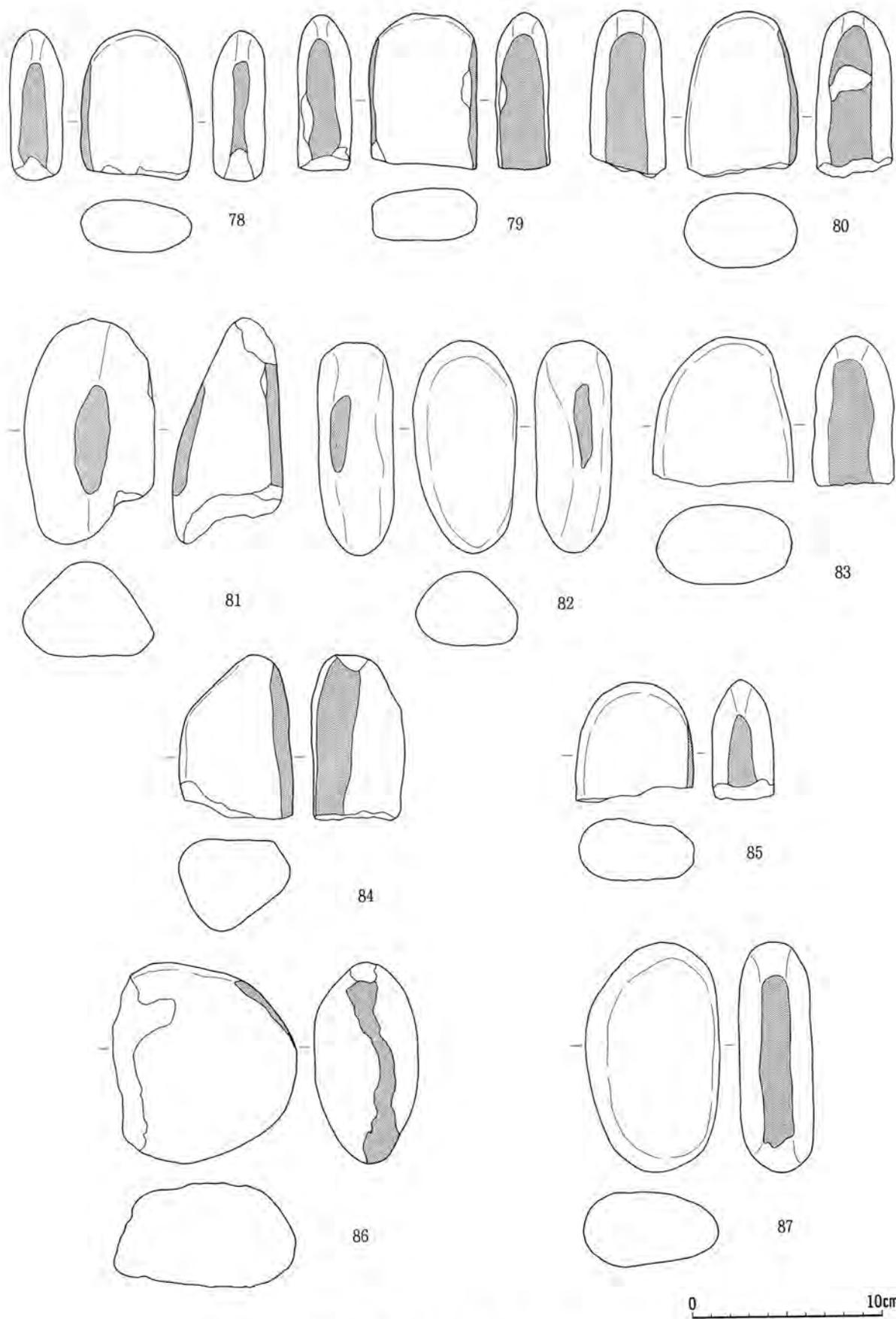


図54 遺構外出土石器(8)

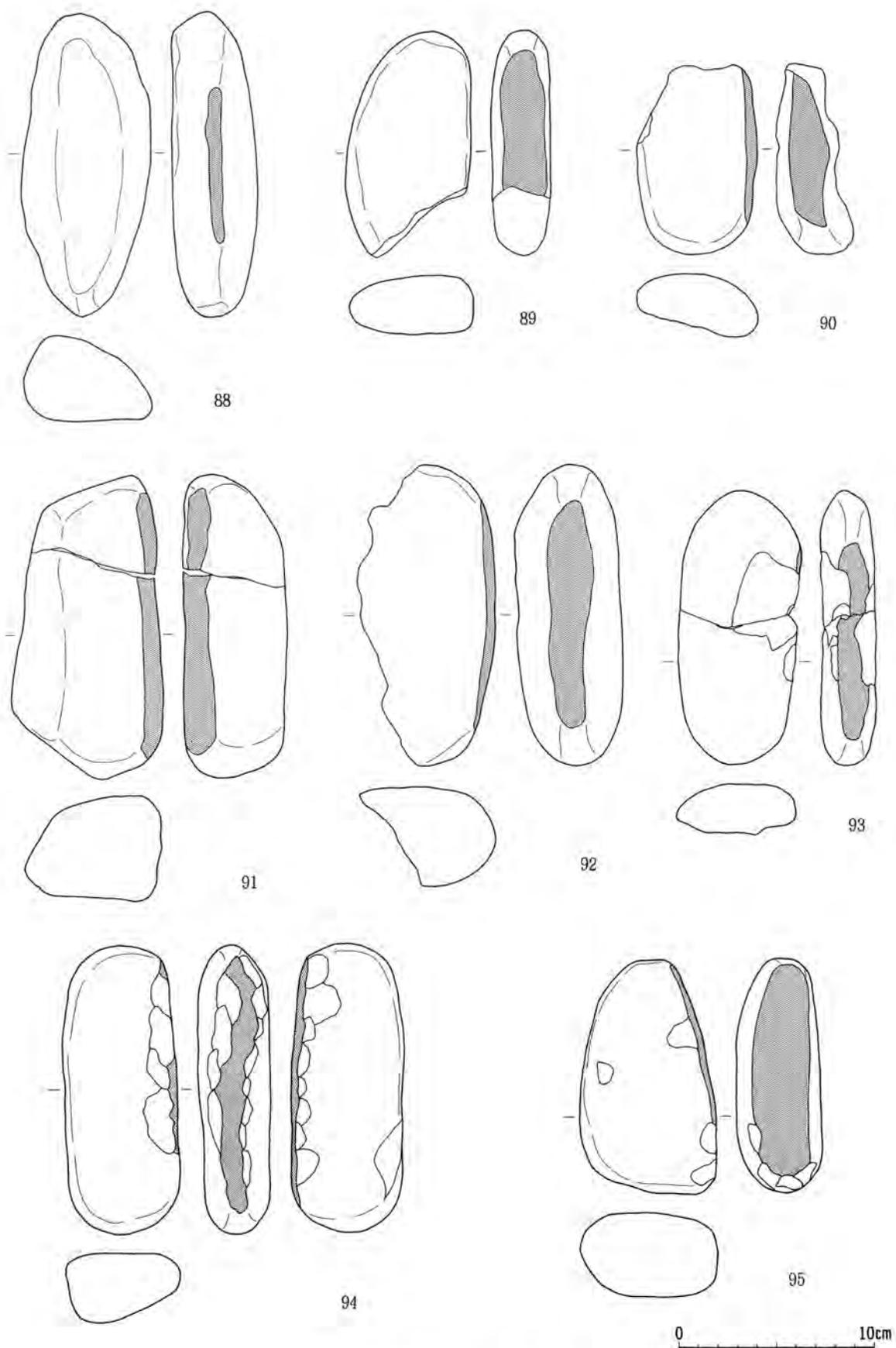


图55 遺構外出土石器(9)

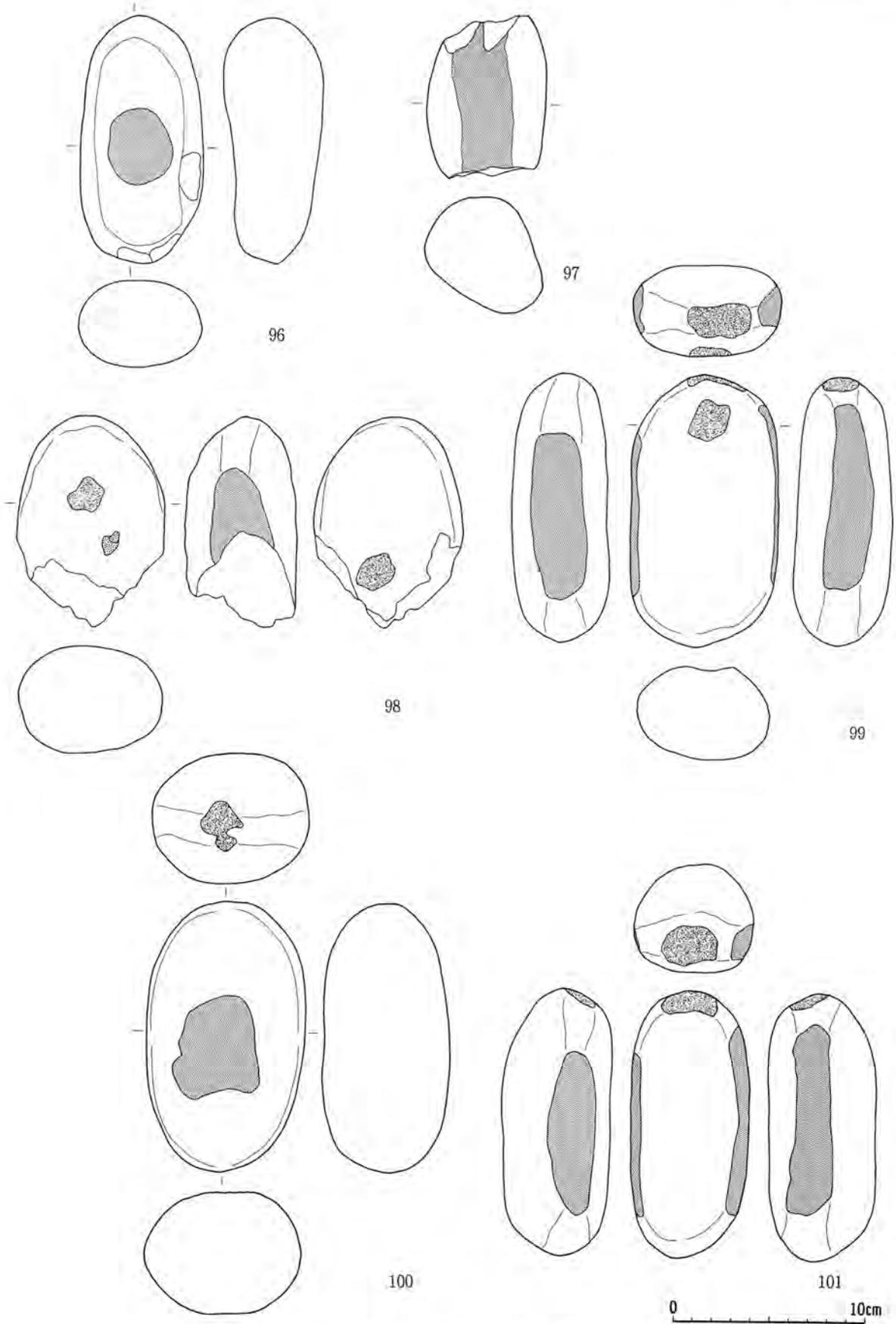


図56 遺構外出土石器 (10)

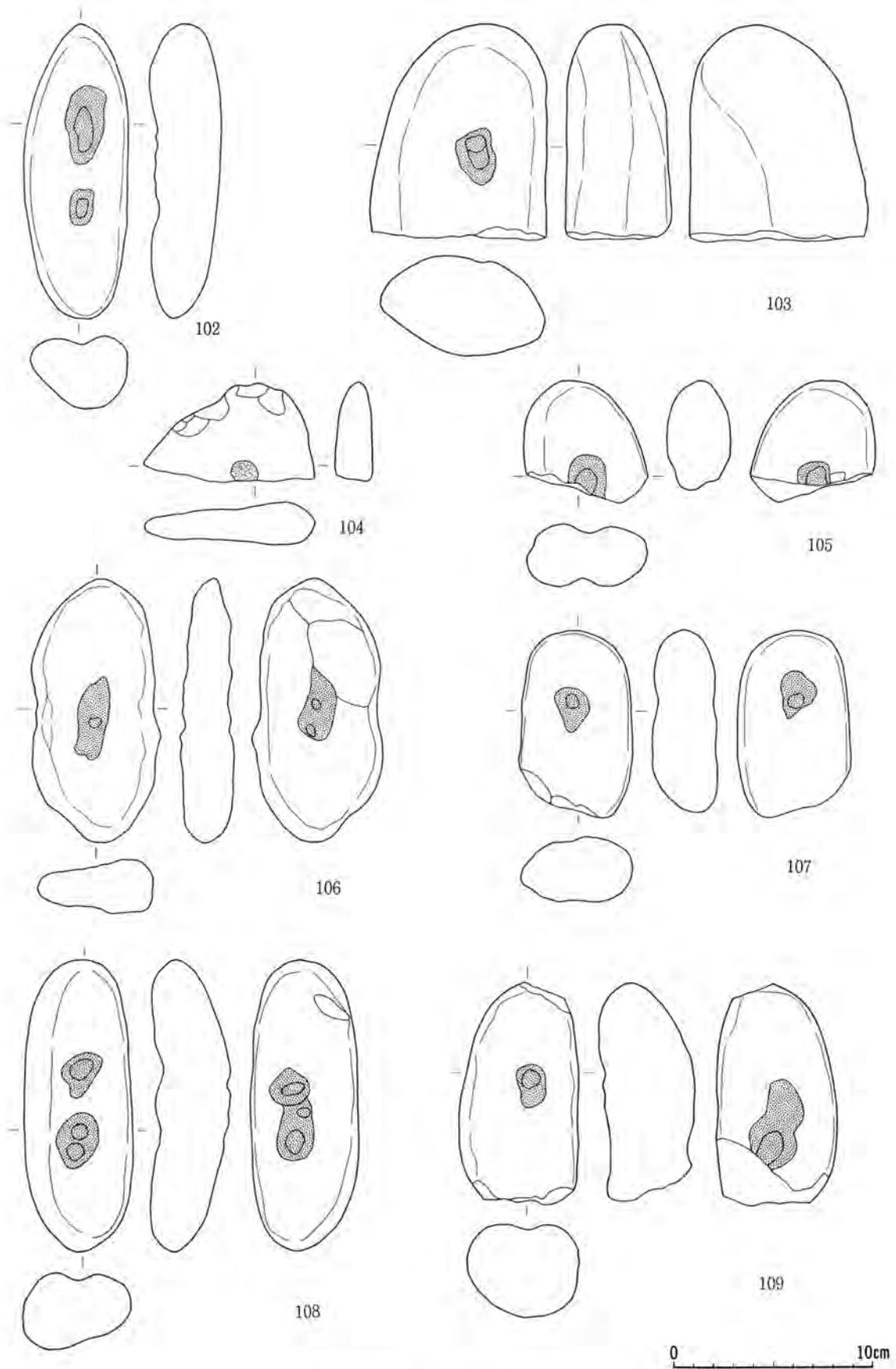


图57 遺構外出土石器 (11)

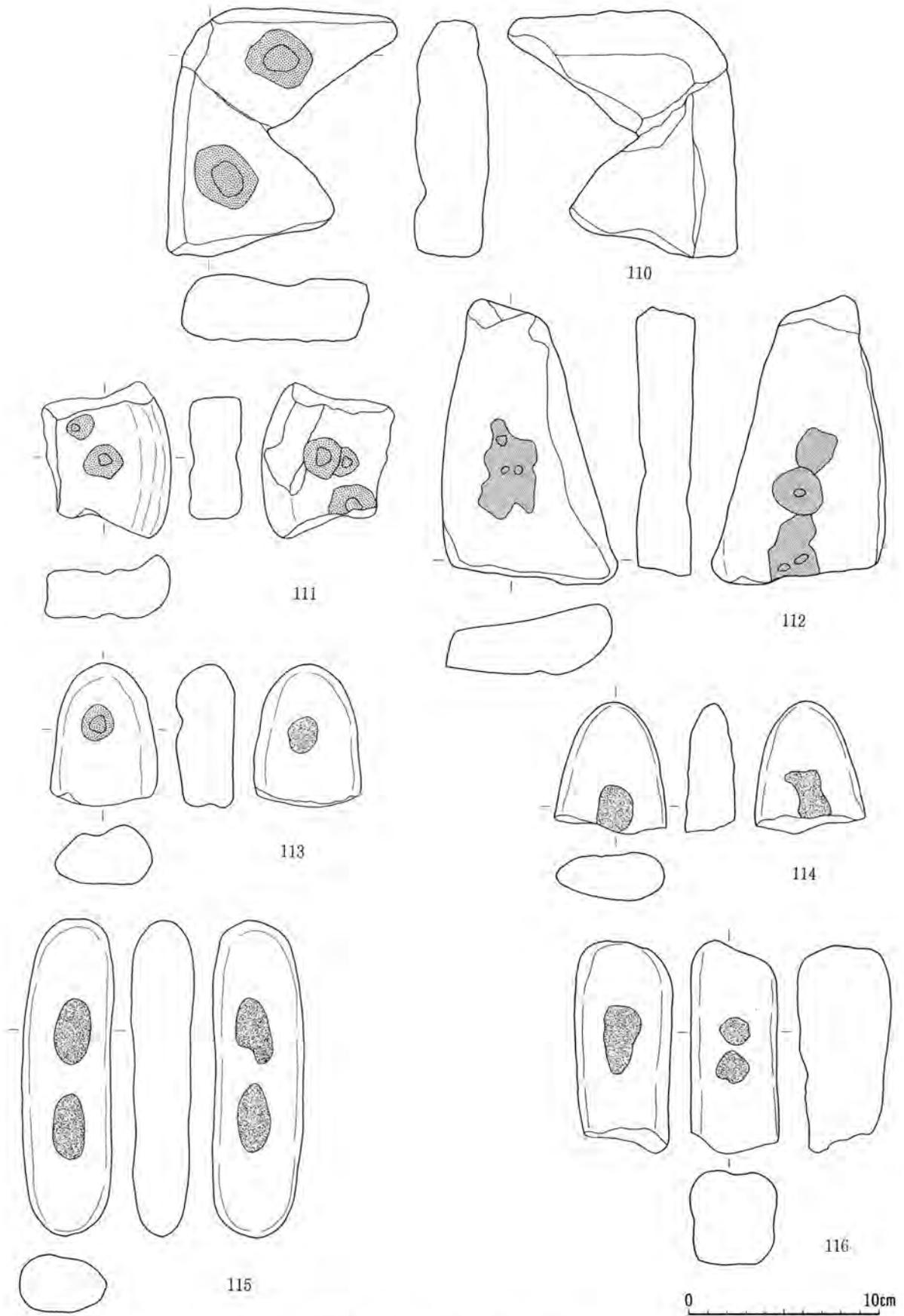


図58 遺構外出土石器 (12)

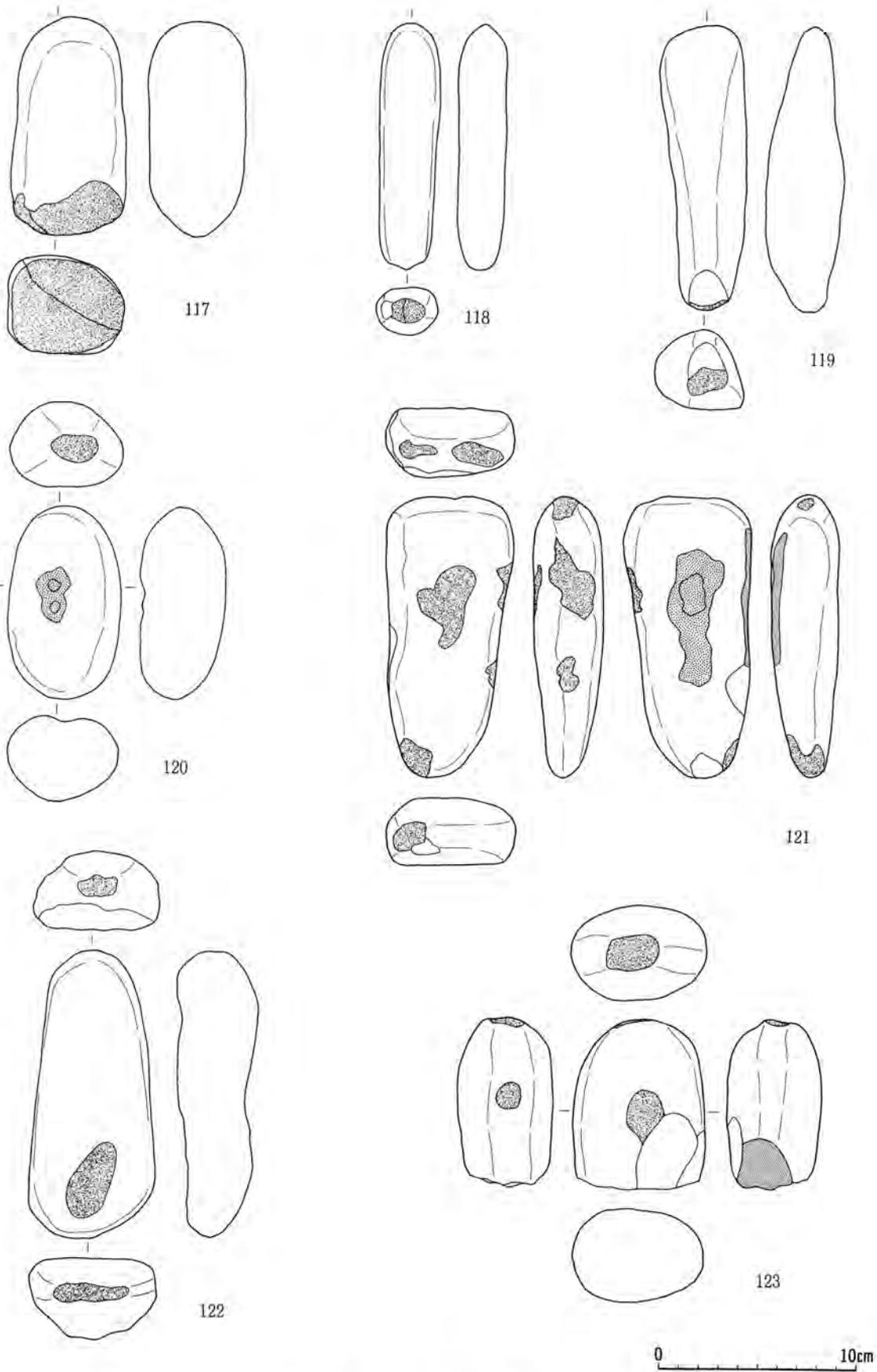


图59 遺構外出土石器 (13)

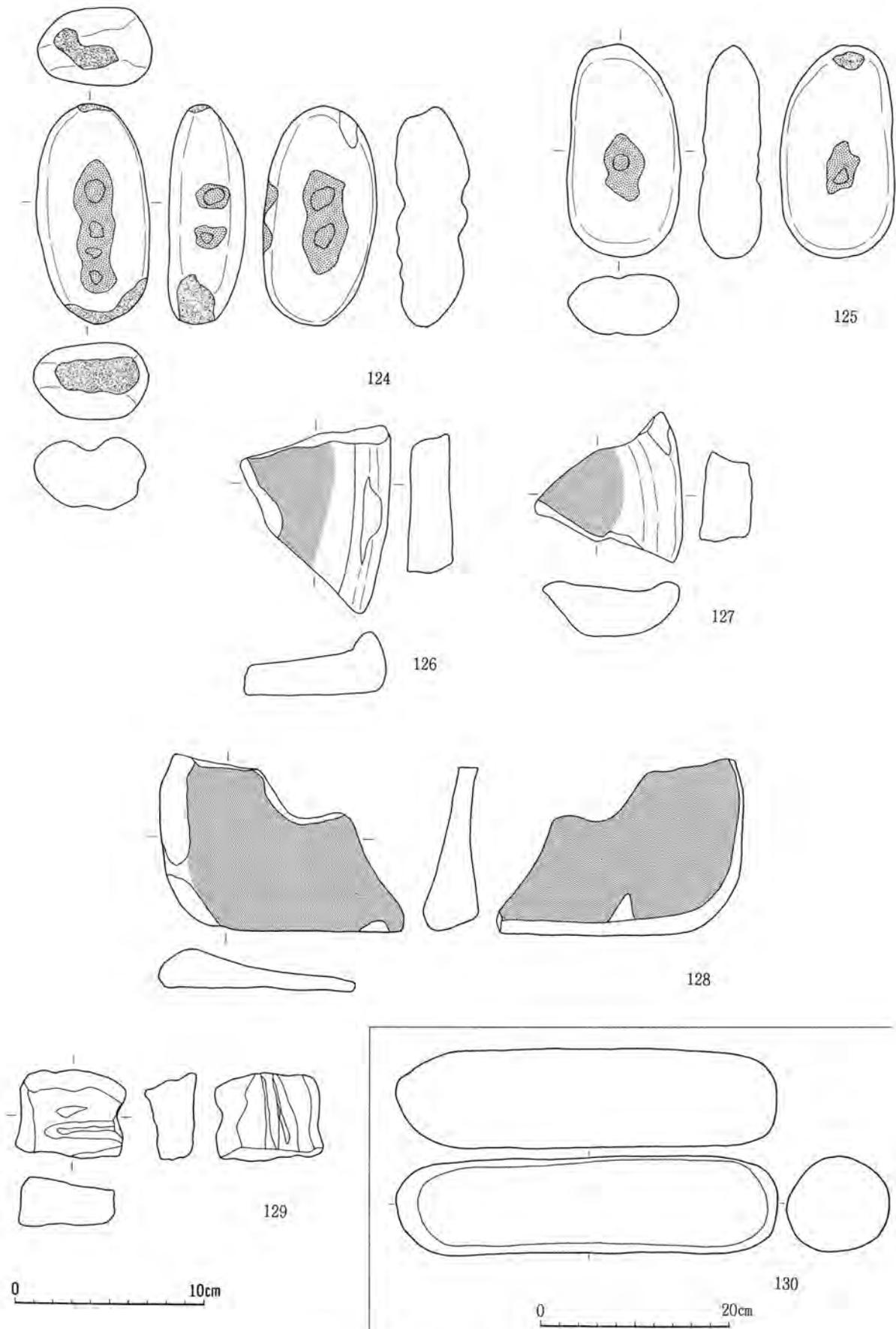


図60 遺構外出土石器 (14)

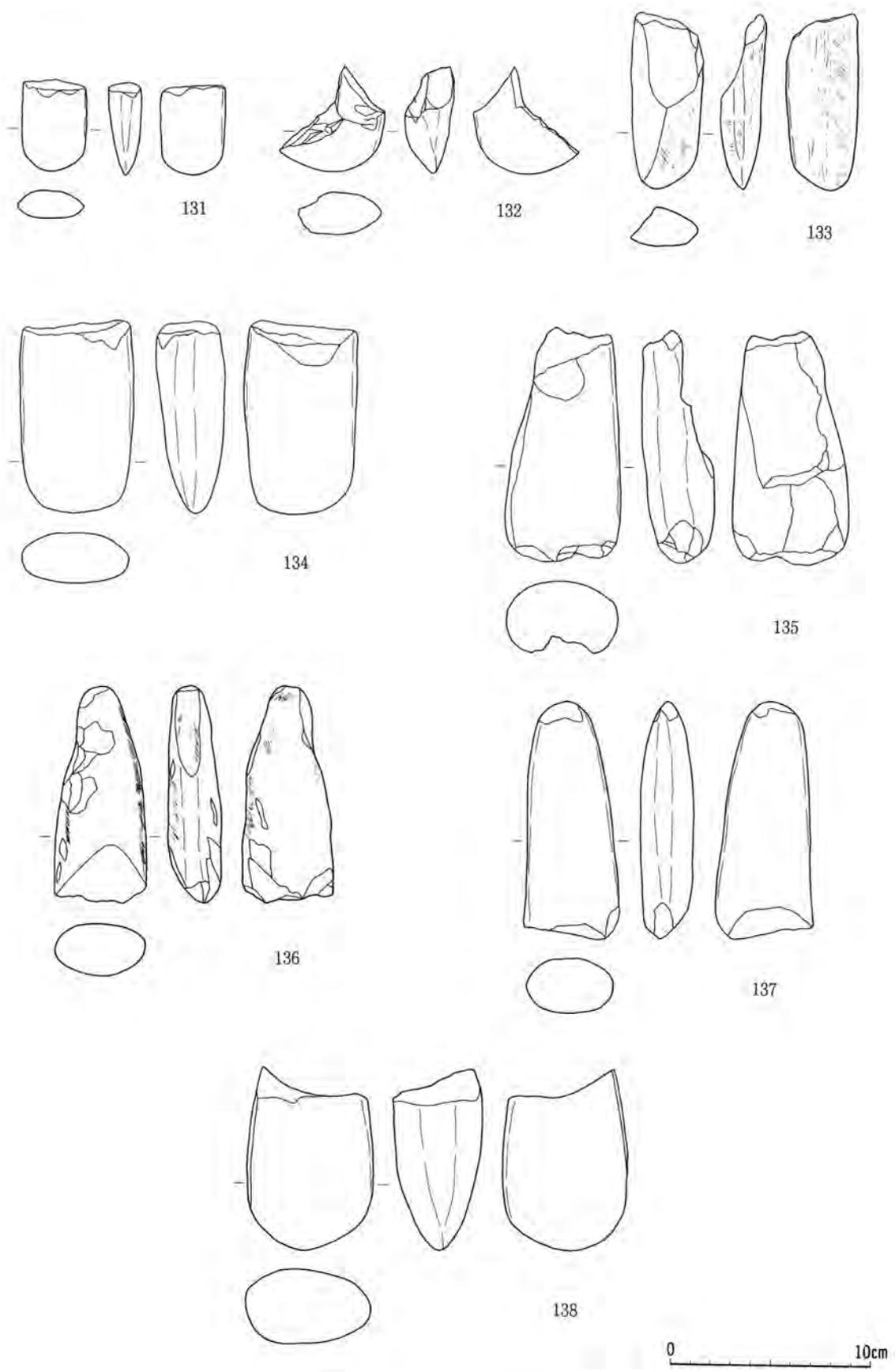


图61 遺構外出土石器 (15)

## 3 土製品・石製品、その他の遺物（図62～64）

## ・土製品

今回の調査で縄文時代の土製品53点、石製品3点、平安時代の須恵器片（大甕）が7片出土した。以下に記す。

## ①土偶（1～4） 4点出土した。

## a：板状のもの（1・4）

1は表裏面とも沈線と刺突により文様が施されている。内外面ともに丁寧に磨かれている。4は欠損部が多く不明であるが、脚部分の可能性もあり本類に含めた。

## b：立体的なもの（2・3）

2は頭部である。目と口にあたる部分が刺突により表現されており、鼻・耳・頭部中央の張り出し部分は粘土の貼り付けによる。3は脚部と思われる。

## ②足形付土版（5・6）

5は幼児の足を焼成前の粘土板に押しつけ、その後焼成した足形付土版の欠損品である。実測・拓本図の向かって左・右側にそれぞれ左足、右足を押しつけている。足形の周囲、粘土板の形状に沿って左足には細い沈線が、右足には幅広の浅い沈線が施されている。沈線施文と足形を粘土板に押しつけた前後関係は、指の腹の部分に沈線が入り込んでいる箇所もあり、また沈線の上に足形作成時の粘土のはみ出しがある箇所もあり、明確には言えない。右足に比べ左足の方が器面の凹凸がないのは、初め左足を粘土板に押しつけ、その後右足を押しつけたためと思われる。また、左右の足ともに指の腹部分に至るまで細かいナデ状の調整を施しているため、足を押しつけた時点より、足形の凹凸はより大きくなっていると思われる。

6は足形が確認できる面を表面、反対側を裏面とここでは呼称する。表面に残存する指の腹の跡がほぼ同じ大きさということもあり、親指の部分が欠損していると思われ、おそらく右足を押しつけたものと思われる。器面は表・裏面ともに丁寧な調整がなされている。また、踵側の足形が押捺されていない部分に楕円形状に貫通孔が穿たれている。

今回出土した足形付土版はいわゆる捨て場にあたる箇所から出土している。周囲の土器片はおおむね縄文時代後期前半が主体であり、この足形付土版も同時期のものと思われる。

## ③鐸形土製品（7～9）

3点出土した。7は完形品であり、文様は沈線と刺突からなり、沈線間に刺突を連続的に施した区画内に、曲線・渦巻状の沈線を施文している。開口部は円形を呈し、やや内湾している。8は欠損品であり、頂端部の貫通孔の有無は不明である。文様は沈線と刺突からなる。沈線がしっかりと施文されており、区画内の刺突施文部分がやや浮き出た感じを受ける。9は沈線を網目状に施文している。開口部は円形で、直線的である。貫通孔を穿つために鐸身の上部に指で両側から挟み込むようにしてつまみ出している。

④環状土製品 (10・11)

2点出土した。10は沈線による文様を有し、焼き締まりが良い。11は無文で、胎土が粗であり、焼き締まりが良くない。

⑤土製耳飾 (12)

1点出土した。沈線と粘土紐の貼り付けにより文様が施されている。器体と粘土紐貼り付け部の隙間に赤色顔料が残っている。

⑥土玉 (13・14)

2点出土した。13は全体に赤色顔料が残っている。

⑦土製蓋 (15～17)

3点出土した。15はつまみ部分がやや欠損しているが、ほぼ完形品である。つまみ部分は直交する貫通孔を有していたと思われる。実用品の可能性もあるが土製品の中で取り扱った。16・17はつまみ部分を中心として同心円状の沈線を有している。17はつまみ部分の頂部に刺突を有する。

⑧(有孔)円盤状土製品 (18・19)

18は有孔であることが確認できるが、19は不明である。文様は沈線と刺突により表現されている。装身具の可能性はある。

⑨三角形土版 (20～22)

21は3つの頂部が内反りしているので、側面は弧状を呈している。表面観察から、手捏ねにより成形・調整を行っている。22は手捏ねにより成形・調整を行い、3つの頂部を摘み出し状に突出させた形状を呈す。器面片側には先端の鋭利な工具により規則的な刺突を施している。その裏面の凹みは成形後に施したのではなく、意図的かは不明であるが、整形段階で生じた凹みと思われる。20は2箇所穿孔があり、装身具の可能性が高いが、形状から本類に含めた。

⑩土器片再利用土製品 (23～40)

土器片に人が手を加えたもので、形状により以下のa～cに分け、順に記す。

a : 円板状土製品 (23～30)

文様は、無文のもの、網目状の沈線・縄文を有するもの、曲線状の沈線を有するものがある。23は周縁全体を非常に丁寧に研磨している。

b : 方形板状土製品 (31～34)

文様は、無文のもの、網目状の沈線を有するものがある。32は周縁を丁寧に研磨しているが、他は打ち欠いて整形している。

c : 三角形板状土製品 (35～40)

文様は、平行状の沈線を有するもの、網目状の沈線を有するもの、縄文を有するものがある。周縁の一部に研磨が見られるものは、35・37であり、他は打ち欠きによる整形である。

## ⑩ミニチュア土器 (41~53)

ここでは、器形を見る限りでは「器」の形をしているが、その許容量から一般的に用いられたものではないと思われる手捏ねの土器を指す。

破損品が大半で、完形品は53のみである。器形では深鉢を思わせるものが多い。底部は平底(43・44)、上げ底(41・42)のものがあり、また、台付のもの(45・46)も出土している。無文のものが多いが、胴部・底部に沈線を施すもの(49・50)もある。

## ・石製品

## ①(有孔)円盤状石製品(54~56)

55は周縁の一部に、また54は器面全体に調整が加えられている。56は器面に調整痕は確認できないが、穿孔されており、装身具の可能性はある。

## ・その他の遺物

平安時代の須恵器大甕の胴部破片(57~59)が出土した。

(三林)

遺構外出土土製品・石製品、その他の遺物観察表

図	番号	出土位置	層位	器種	大きさ(mm)	重さ(g)	文 様 な ど	備 考
62	1	ⅢO-187	Ⅱa	土偶	(74)×78×12	64.1	沈線、刺突	
	2	ⅢN-182	Ⅲa	土偶	50×39×29	26.7		頭部
	3	ⅢK-178	Ⅲa	土偶	48×30×23	25.0		脚部
	4	ⅢT-191	I	土偶?	(60)×(36)×10	23.1		脚部?
	5	ⅢL-183	Ⅱa	足形付土版	(60)×(85)×12	70.7		
	6	ⅣC-201	I	足形付土版	(108)×(82)×10	66.7		貫通孔径:4.0mm
	7	ⅢN-186	Ⅱa	鐮形土製品	54×39×6	38.5	沈線、刺突	貫通孔径:3.5mm
	8	ⅢX-194	Ⅲa	鐮形土製品	(45)×(41)×10	14.2	沈線、刺突	
	9	ⅢN-187	Ⅱa	鐮形土製品	(39)×(30)×15	16.9	網目状沈線	貫通孔径:3.0mm
	10	ⅢX-195	Ⅲa	環状土製品	(61)×(17)×10	19.0	沈線	
	11	ⅢO-183	Ⅱa	環状土製品	(68)×(18)×20	19.0		胎土粗
	12	ⅣG-195	Ⅲa	土製耳飾	(23)×(32)×6	7.3	粘土貼付、沈線	赤彩
	13	ⅢO-182	I	土玉	7×10	0.3		孔径:1.8mm、赤彩
	14	ⅢN-186	Ⅱa	土玉	11×16	2.8		孔径:1.8mm
63	15	ⅢM-180	Ⅲa	土製蓋	102×101×14	87.9	沈線、刺突	実用蓋?
	16	ⅢL-181	Ⅱa	土製蓋	(66)×(64)×9	32.1	沈線	
	17	ⅢL-181	Ⅱa	土製蓋	(54)×(44)×12	12.2	沈線、つまみ頂部刺突	
	18	ⅢW-193	Ⅱa	円盤状土製品	(22)×(24)×8	4.6	沈線	
	19	ⅢX-194	Ⅱa	円盤状土製品	(22)×(24)×10	5.3	沈線、刺突	
	20	ⅢJ-182	Ⅲa	三角形土版	46×43×10	15.9		穿孔2箇所
	21	ⅢN-181	Ⅲa	三角形土版	44×52×11	25.5		一部欠け
	22	ⅢI-183	Ⅲa	三角形土版	40×44×16	20.6	刺突	成形時の抉れ?
	23	ⅢM-184	I	円板状土製品	37×39×8	16.3		
	24	ⅢQ-187	Ⅲa	円板状土製品	47×44×9	21.5	沈線(沈線面スリ)	
	25	ⅢN-182	I	円板状土製品	41×39×6	12.4		
	26	ⅢL-183	I	円板状土製品	37×34×11	14.2		
	27	ⅢH-177	Ⅲa	円板状土製品	40×41×7	15.3	網目状縄文	
	28	ⅢR-182	Ⅱd	円板状土製品	39×42×6	13.7	網目状縄文	
	29	ⅢN-186	Ⅱd	円板状土製品	39×38×7	13.2		
	30	ⅢV-192	Ⅱa	円板状土製品	45×42×6	15.0	網目状沈線	
	31	ⅢO-186	Ⅱa	方形板状土製品	31×35×7	10.6	網目状沈線	
	32	ⅢM-182	Ⅲa	方形板状土製品	49×54×9	29.7		
	33	ⅢL-179	Ⅱa	方形板状土製品	37×43×8	17.6	網目状沈線	
	34	ⅢL-179	Ⅱa	方形板状土製品	41×33×7	11.0	網目状沈線	
	35	ⅢK-181	Ⅱa	三角形板状土製品	43×53×6	17.7	沈線	
	36	ⅣF-188	Ⅱd	三角形板状土製品	49×38×7	14.1	R L R	
	37	ⅢL-181	Ⅲa	三角形板状土製品	38×40×7	11.9	L R ?	

三内丸山(6)遺跡 I

図	番号	出土位置	層位	器種	大きさ (mm)	重さ (g)	文 様 な ど	備 考
	38	Ⅲ O-184	Ⅲ a	三角形板状土製品	30×38×4	5.6	網目状沈線	
	39	Ⅲ N-186	Ⅱ a	三角形板状土製品	47×41×7	14.0	R L R、沈線	
	40	Ⅲ L-182	Ⅲ a	三角形板状土製品	56×49×9	21.9	L R	
64	41	Ⅲ M-182	Ⅱ a	ミニチュア土器	-×-×19	3.5		口径×器高×底径
	42	Ⅲ U-191	Ⅱ a	ミニチュア土器	22×12×10	2.2	沈線	口径×器高×底径
	43	Ⅲ O-186	Ⅱ a	ミニチュア土器	29×30×22	4.9		口径×器高×底径
	44	Ⅲ L-181	Ⅱ a	ミニチュア土器	-×-×24	8.3		口径×器高×底径
	45	Ⅲ M-181	Ⅲ a	ミニチュア土器	-×-×34	34.0		口径×器高×底径
	46	Ⅲ J-178	Ⅲ a	ミニチュア土器	-×-×23	39.3		口径×器高×底径
	47	Ⅲ S-191	Ⅱ a	ミニチュア土器	64×-×-	24.3		口径×器高×底径
	48	Ⅲ O-187	Ⅱ a	ミニチュア土器	33×-×-	10.7		口径×器高×底径
	49	Ⅲ O-182	I	ミニチュア土器	-×-×47	60.7	底部沈線	口径×器高×底径
	50	Ⅲ X-195	Ⅱ a	ミニチュア土器	-×-×-	4.8	沈線(曲線状)	口径×器高×底径
	51	Ⅲ O-187	Ⅱ a	ミニチュア土器	-×-×-	5.8		口径×器高×底径
	52	Ⅲ V-192	Ⅱ a	ミニチュア土器	-×-×22	8.7		口径×器高×底径
	53	Ⅲ M-181	Ⅲ a	ミニチュア土器	42×22×32	26.6		口径×器高×底径
	54	Ⅲ O-182	I	円盤状石製品	36×39×5	10.6		頁岩
	55	Ⅲ O-187	Ⅱ a	円盤状石製品	22×24×7	13.8		
	56	Ⅲ N-186	Ⅱ a	円盤状石製品	41×35×5	9.1	有孔	粘板岩
	57	Ⅲ M-182	I	須恵器：大甕	-	-	平行タタキ目	胴部
	58	Ⅲ M-182	Ⅱ a	須恵器：大甕	-	-	平行タタキ目	胴部
	59	Ⅲ L-181	Ⅱ a	須恵器：大甕	-	-	平行タタキ目	胴部

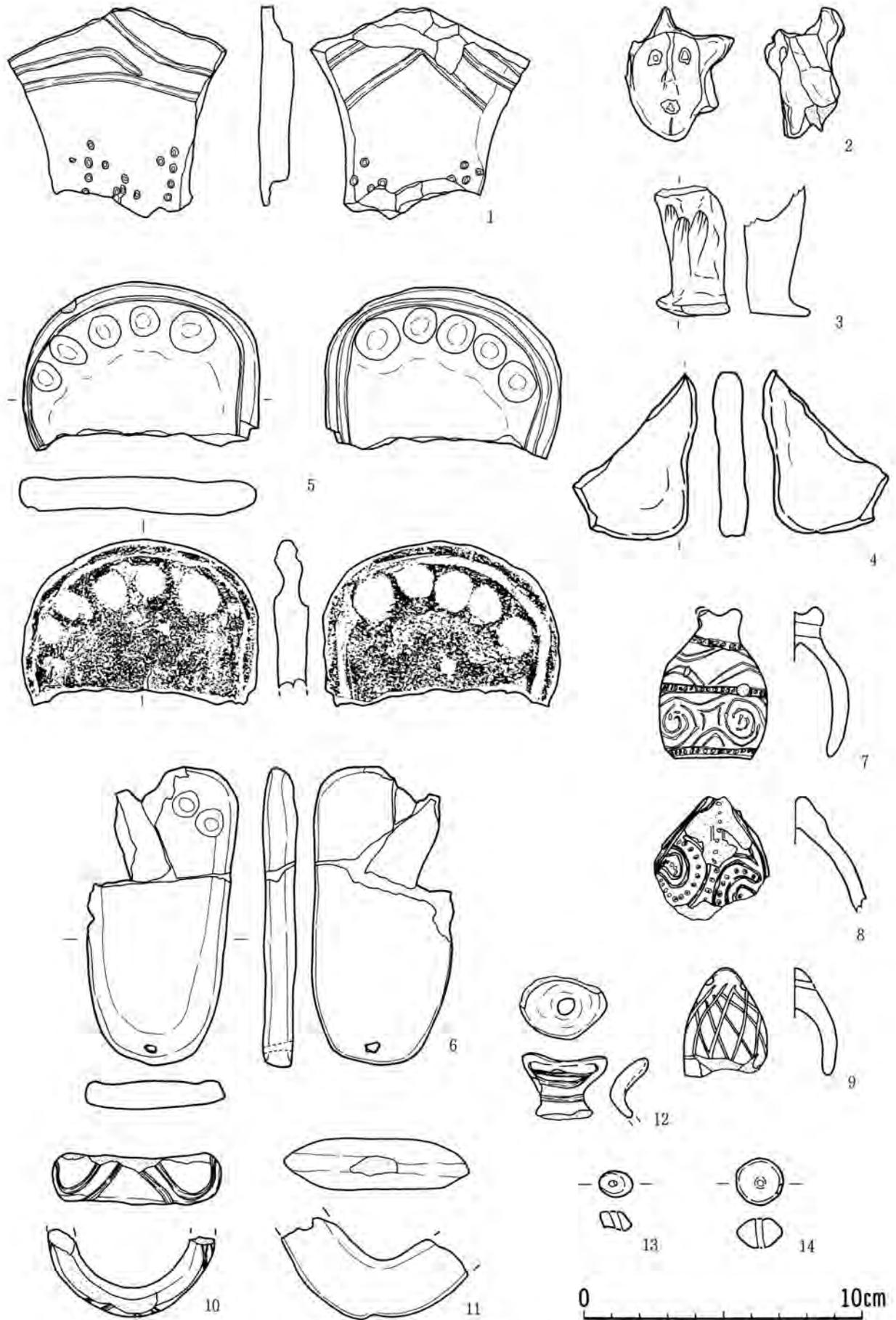


图62 遺構外出土製品(1)

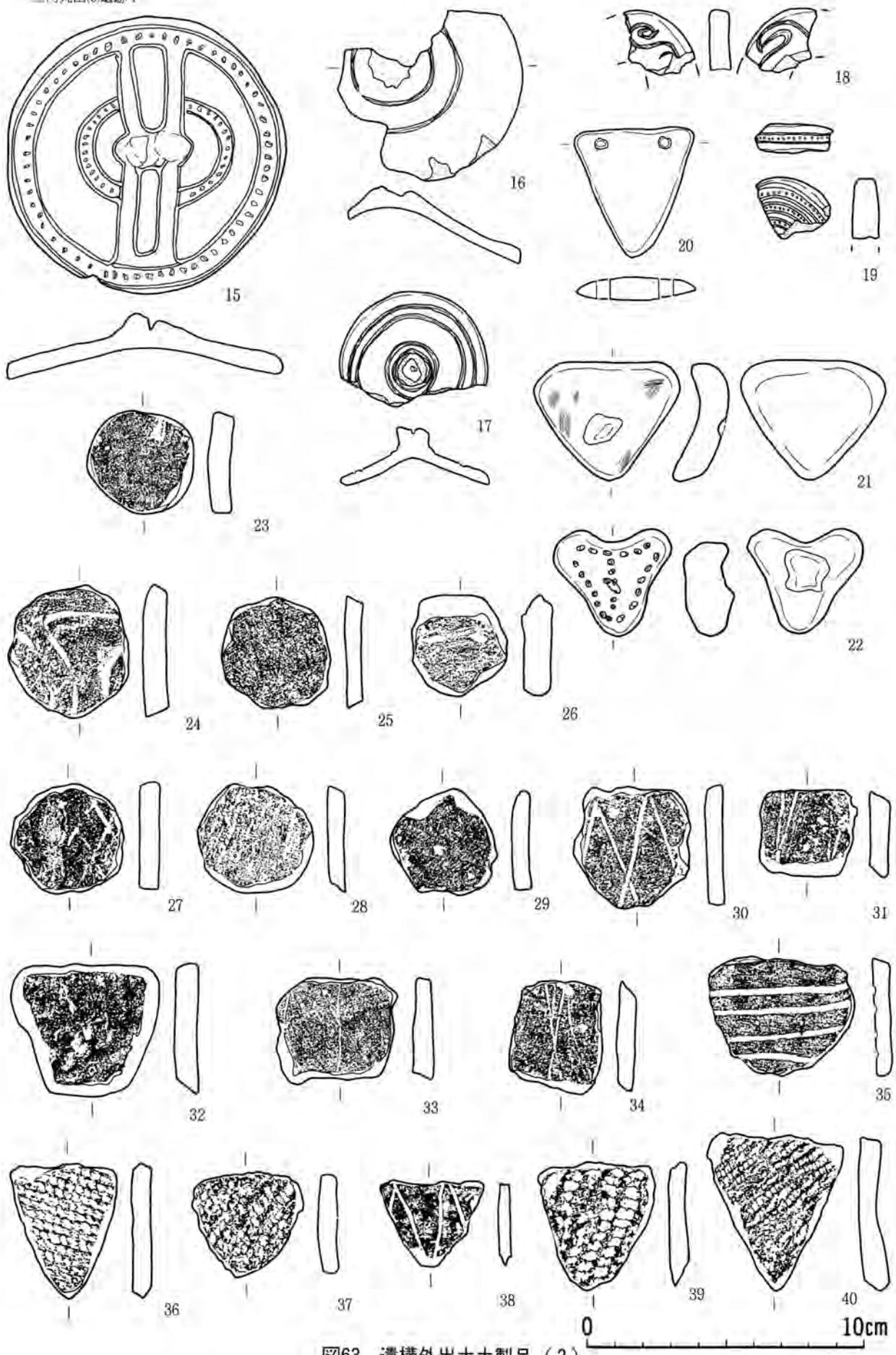


図63 遺構外出土土製品 (2)

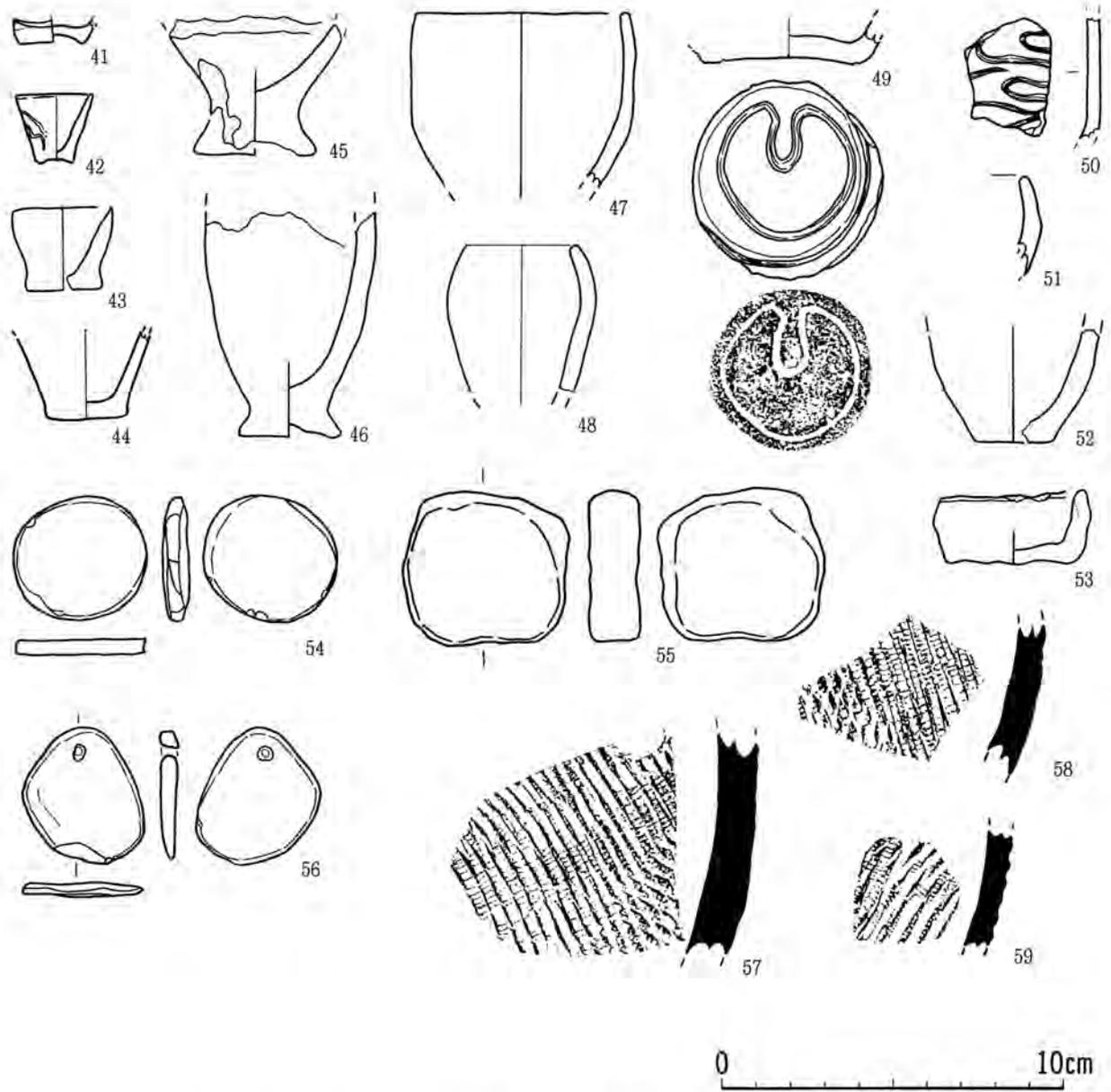


図64 遺構外出土土製品(3)、石製品、その他の遺物

## 〈参考文献〉

- |                         |      |                           |                               |
|-------------------------|------|---------------------------|-------------------------------|
| 青森県教育委員会                | 1974 | 『近野遺跡(Ⅱ)』                 | 青森県埋蔵文化財調査報告書第22集             |
| 青森県教育委員会                | 1974 | 『中の平遺跡』                   | 青森県埋蔵文化財調査報告書第25集             |
| 青森県教育委員会                | 1976 | 『近野遺跡(Ⅲ)・三内丸山(Ⅱ)遺跡』       | 青森県埋蔵文化財調査報告書第33集             |
| 青森県教育委員会                | 1978 | 『近野遺跡』                    | 青森県埋蔵文化財調査報告書第47集             |
| 青森県教育委員会                | 1982 | 『牛ヶ沢(3)遺跡』                | 青森県埋蔵文化財調査報告書第86集             |
| 青森県教育委員会                | 1983 | 『一ノ渡遺跡』                   | 青森県埋蔵文化財調査報告書第79集             |
| 青森県教育委員会                | 1984 | 『弥栄平(2)遺跡』                | 青森県埋蔵文化財調査報告書第81集             |
| 青森県教育委員会                | 1986 | 『大石平遺跡Ⅱ』                  | 青森県埋蔵文化財調査報告書第97集             |
| 青森県教育委員会                | 1986 | 『沖附(2)遺跡』                 | 青森県埋蔵文化財調査報告書第101集            |
| 青森県教育委員会                | 1986 | 『大石平遺跡Ⅲ』                  | 青森県埋蔵文化財調査報告書第103集            |
| 青森県教育委員会                | 1986 | 『上尾駁(2)遺跡Ⅱ』               | 青森県埋蔵文化財調査報告書第115集            |
| 青森県教育委員会                | 1987 | 『館野遺跡』                    | 青森県埋蔵文化財調査報告書第119集            |
| 青森県教育委員会                | 1998 | 『隈無(1)遺跡・隈無(2)遺跡・隈無(6)遺跡』 | 青森県埋蔵文化財調査報告書第237集            |
| 青森県教育委員会                | 1998 | 『幸畑(4)遺跡・幸畑(1)遺跡』         | 青森県埋蔵文化財調査報告書第236集            |
| 青森市教育委員会                | 1996 | 『小牧野遺跡』                   | 青森市埋蔵文化財調査報告書第30集             |
| 八戸市教育委員会                | 1986 | 『丹後谷地遺跡』                  | 八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集             |
| 八戸市教育委員会                | 1997 | 『牛ヶ沢(4)遺跡Ⅰ』               | 八戸市埋蔵文化財調査報告書第71集             |
| 鹿角市教育委員会                | 1984 | 『天戸森遺跡』                   | 鹿角市文化財調査資料26                  |
| 岩手県文化振興事業団<br>埋蔵文化財センター | 1998 | 『本内Ⅱ遺跡』                   | 岩手県文化振興事業団<br>埋蔵文化財調査報告書第271集 |
| 山内清男                    | 1979 | 『日本先史土器の縄紋』               | 先史考古学会                        |
| 金子拓男                    | 1982 | 「三角形土版・三角形岩版」             | 『縄文文化の研究 9』 雄山閣               |
| 成田滋彦                    | 1986 | 「切断蓋付土器考」                 | 『弘前大学考古学研究第3号』 弘前大学考古学研究会     |
| 佐原 真                    | 1982 | 「石斧再論」                    | 『森貞次郎博士古希記念古文化論集』             |
| 羽賀憲二                    | 1983 | 「北海道式石冠」                  | 『縄文文化の研究 7』 雄山閣               |

# 写 真 图 版





調査区全景（西から）



遺構検出状況（東から）



遺物出土状況 III N～III O-187 (北から)



調査区東方畑地部分試掘 (南東から)



調査区東方畑地部分試掘 (北西から)

写真 2



↑ (西から)  
← 足形付土版出土状況

(南東から)

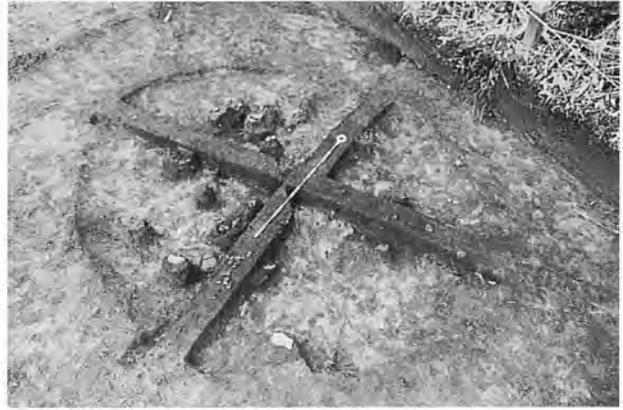
板状土偶出土状況 (北から)



写真 3



1号住居跡セクション (南から)



2号住居跡遺物出土状況 (北から)



1号住居跡セクション (東から)



2号住居跡セクション (北から)



1号住居跡完掘 (南から)



2号住居跡Pit 3セクション (南から)



2号住居跡確認 (南から)



2号住居跡完掘 (北から)



3号住居跡確認（西から）



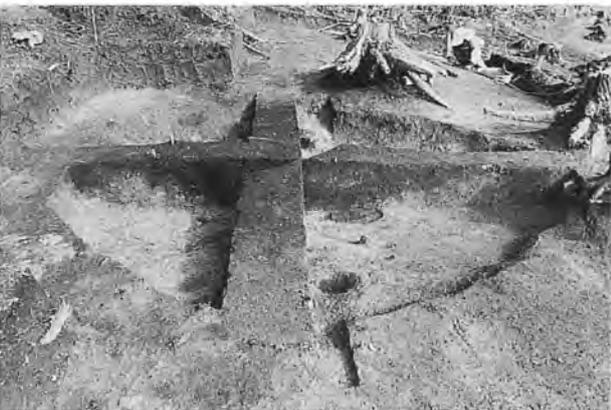
3号住居跡土器埋設炉確認（南から）



3号住居跡セクション（南から）



3号住居跡土器埋設炉セクション（西から）



3号住居跡セクション（西から）



3号住居跡土器埋設炉覆土完掘（西から）



3号住居跡完掘

写真 5



4号住居跡確認（北東から）



4号住居跡完掘（北東から）



4号住居跡セクション（西から）



5号住居跡確認（南から）



4号住居跡セクション（北東から）



5号住居跡遺物出土状況（西から）



4号住居跡遺物出土状況（西から）



5号住居跡完掘（西から）

写真 6



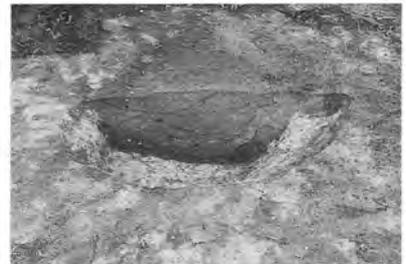
土坑群完掘状況（北から）



1号土坑セクション（南から）



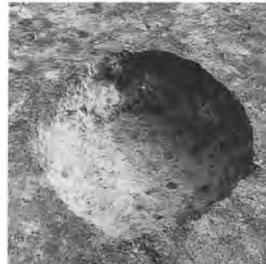
3号土坑セクション（西から）



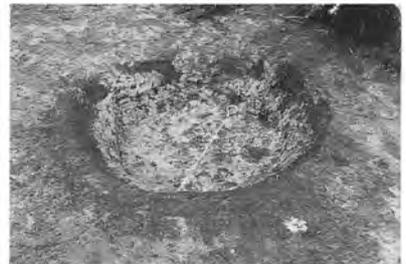
6号土坑セクション（東から）



1号土坑完掘（北から）



3号土坑完掘（南から）



6号土坑完掘（北から）



2号土坑セクション（南から）



4・5号土坑完掘（西から）



7号土坑セクション（西から）

写真 7



7・8号土坑完掘（南から）



14号土坑セクション（西から）



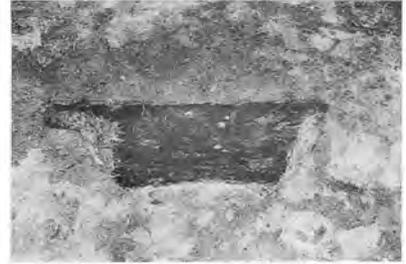
16号土坑完掘（南から）



9・10号土坑セクション（西から）



14号土坑遺物出土状況（北から）



17号土坑セクション（西から）



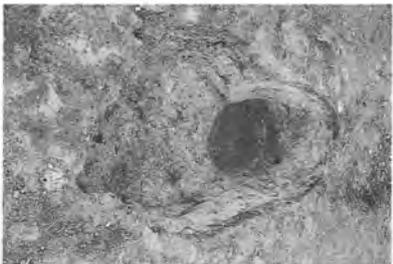
9・10号土坑完掘（西から）



14号土坑完掘（北から）



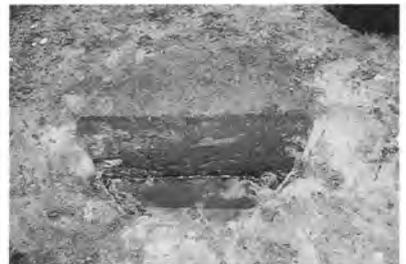
17号土坑完掘（西から）



11・12号土坑完掘（北から）



15号土坑セクション（西から）



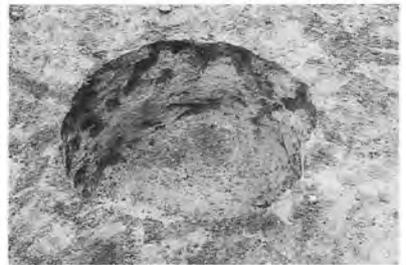
18号土坑セクション（南から）



13号土坑セクション（南から）



15号土坑完掘（西から）



18号土坑完掘（西から）



13号土坑完掘（北から）



16号土坑セクション（南から）



19号土坑セクション（西から）

写真 8



19号土坑完掘（西から）



23号土坑遺物出土状況（南から）



26号土坑完掘（西から）



20号土坑セクション（南から）



23号土坑完掘（東から）



27号土坑セクション（西から）



20号土坑完掘（東から）



24号土坑セクション（西から）



27号土坑完掘（北から）



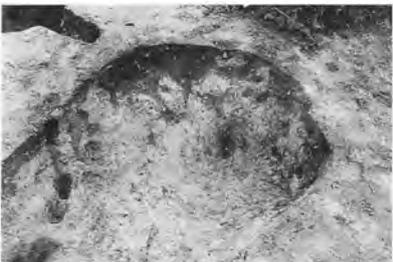
22号土坑セクション（西から）



24号土坑完掘（北から）



29号土坑セクション（西から）



22号土坑完掘（西から）



25号土坑セクション（南から）



29号土坑完掘（北から）



23号土坑セクション（南から）

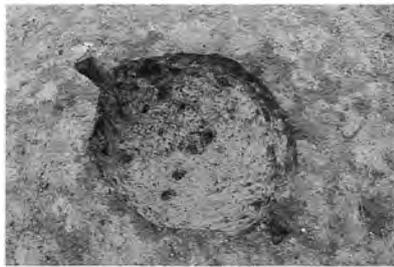


26号土坑セクション（西から）



30号土坑完掘（西から）

写真 9



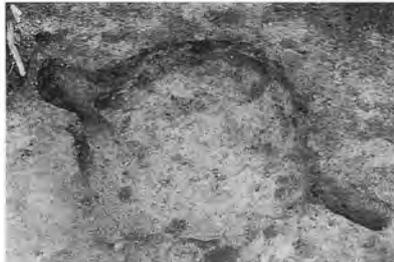
30号土坑完掘（西から）



35号土坑完掘（南から）



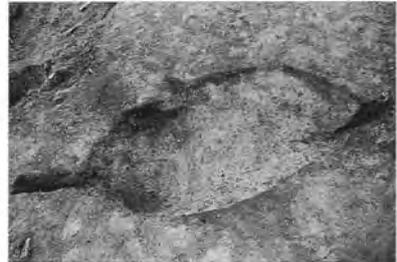
41号土坑セクション（東から）



31号土坑完掘（南から）



35号土坑完掘（西から）



41号土坑完掘（東から）



32・33号土坑完掘（西から）



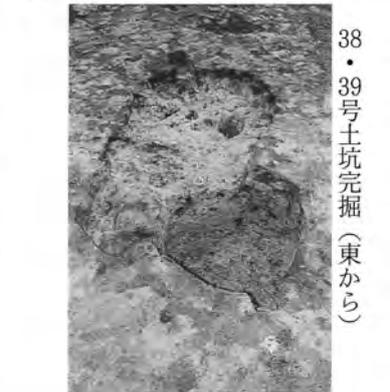
36・37号土坑完掘（東から）



40号土坑確認（南から）



34号土坑完掘（北から）



38・39号土坑完掘（東から）



40号土坑セクション（東から）



1号埋設土器セクション（南から）



40号土坑完掘（東から）



40号土坑遺物出土状況（東から）



1号埋設土器完掘（南から）

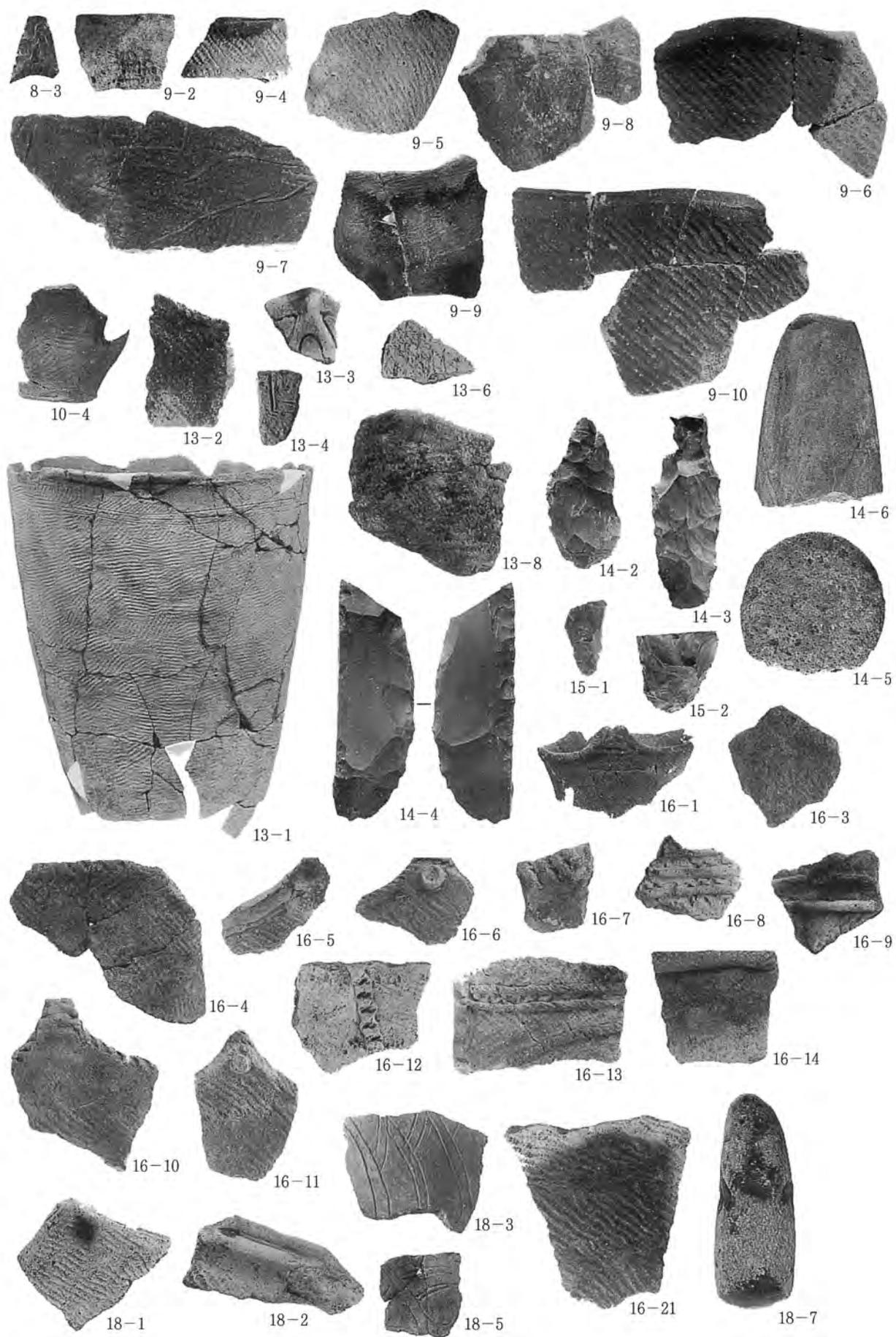


写真11 (住居跡出土土器・石器)

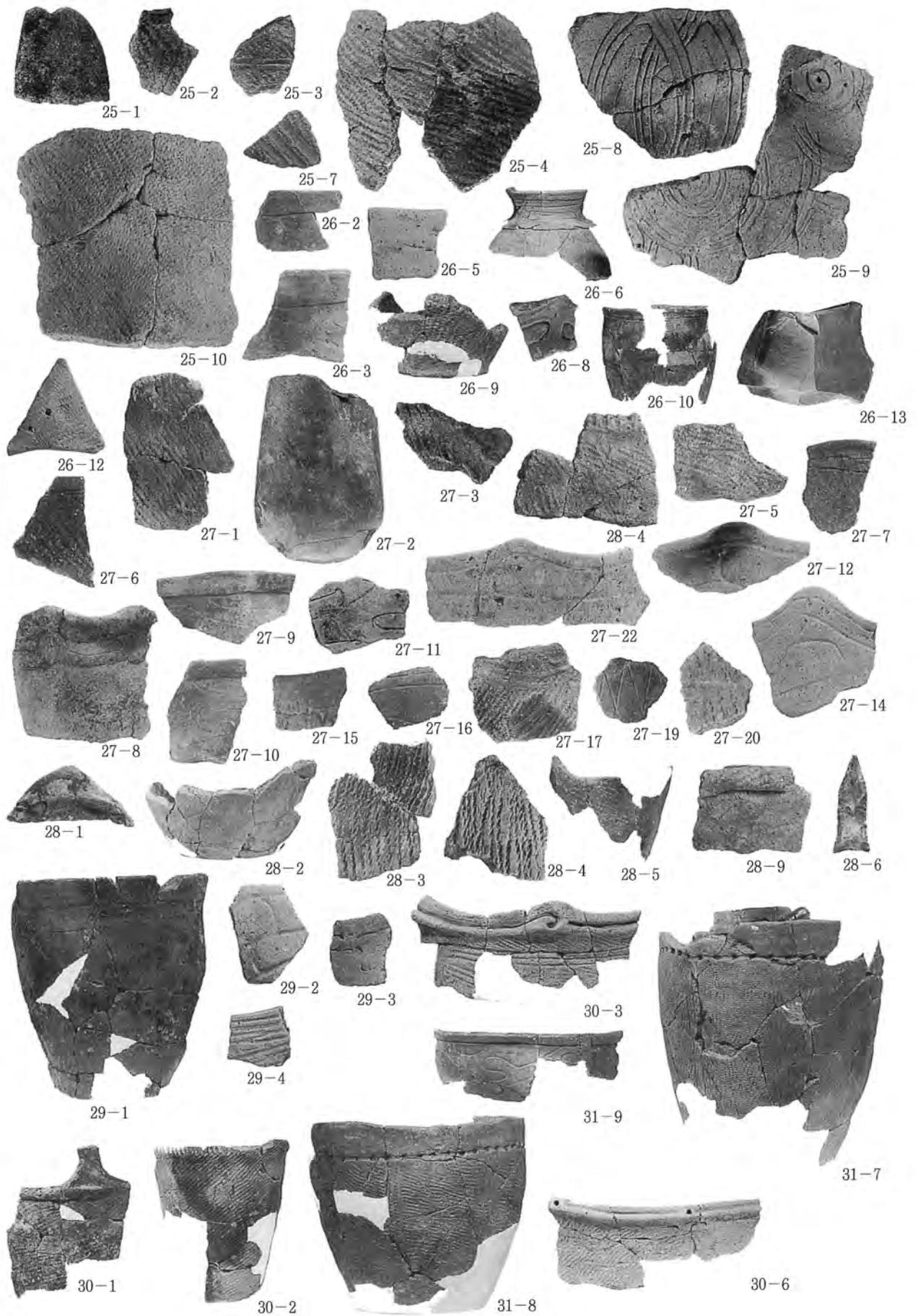


写真12 (土坑出土土器・石器、遺構外土器)

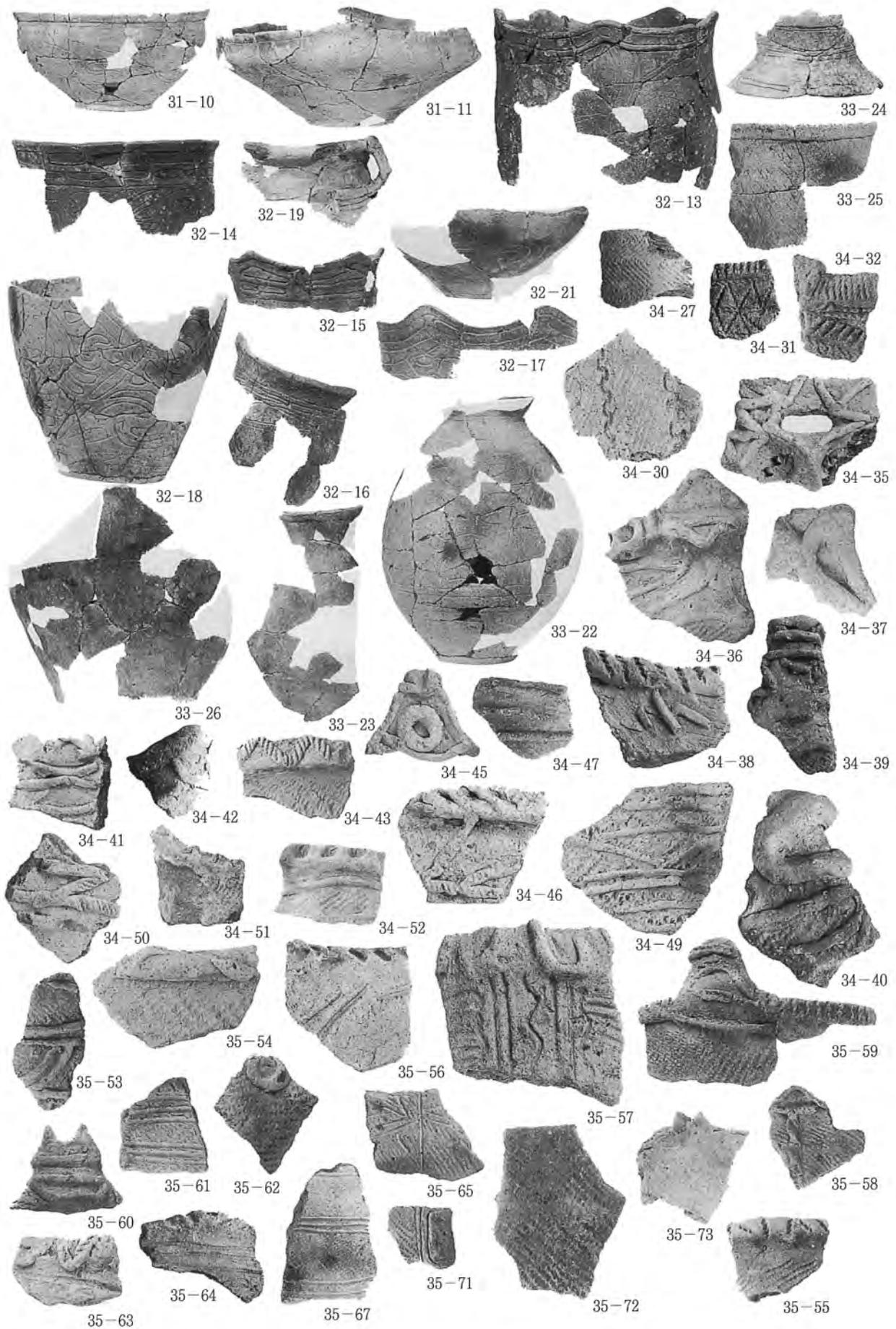


写真13 (遺構外土器)

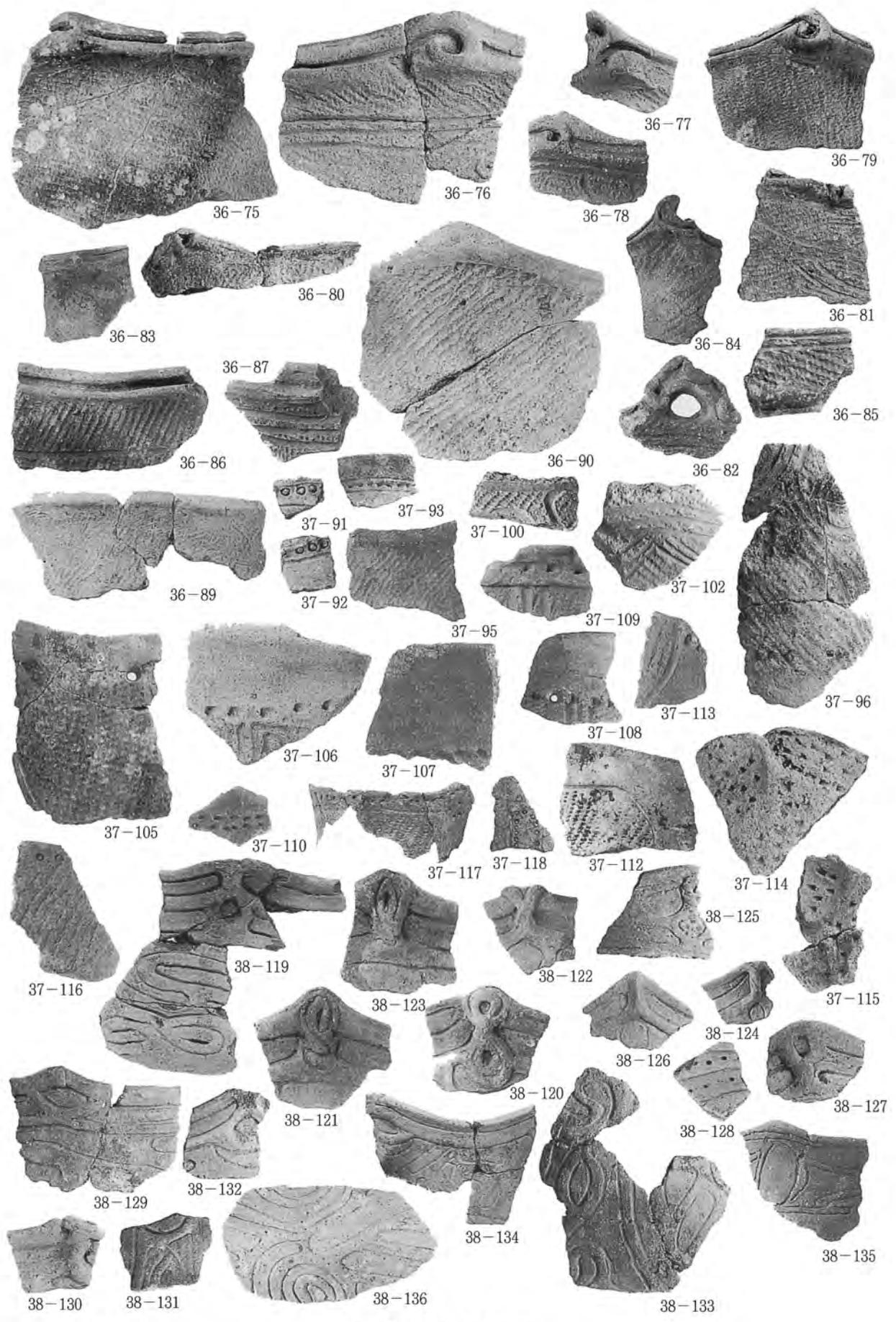


写真14 (遺構外土器)

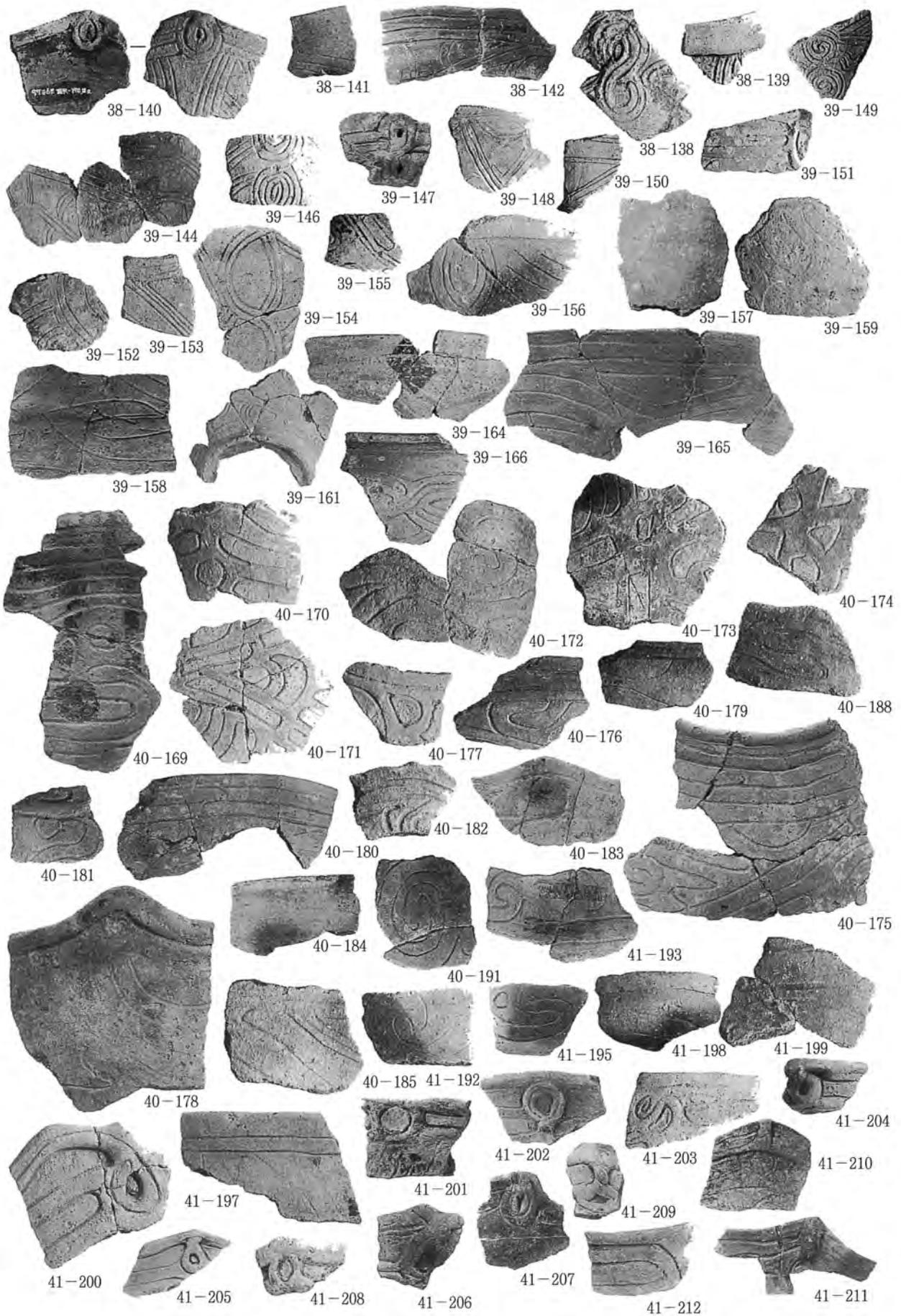


写真15 (遺構外土器)

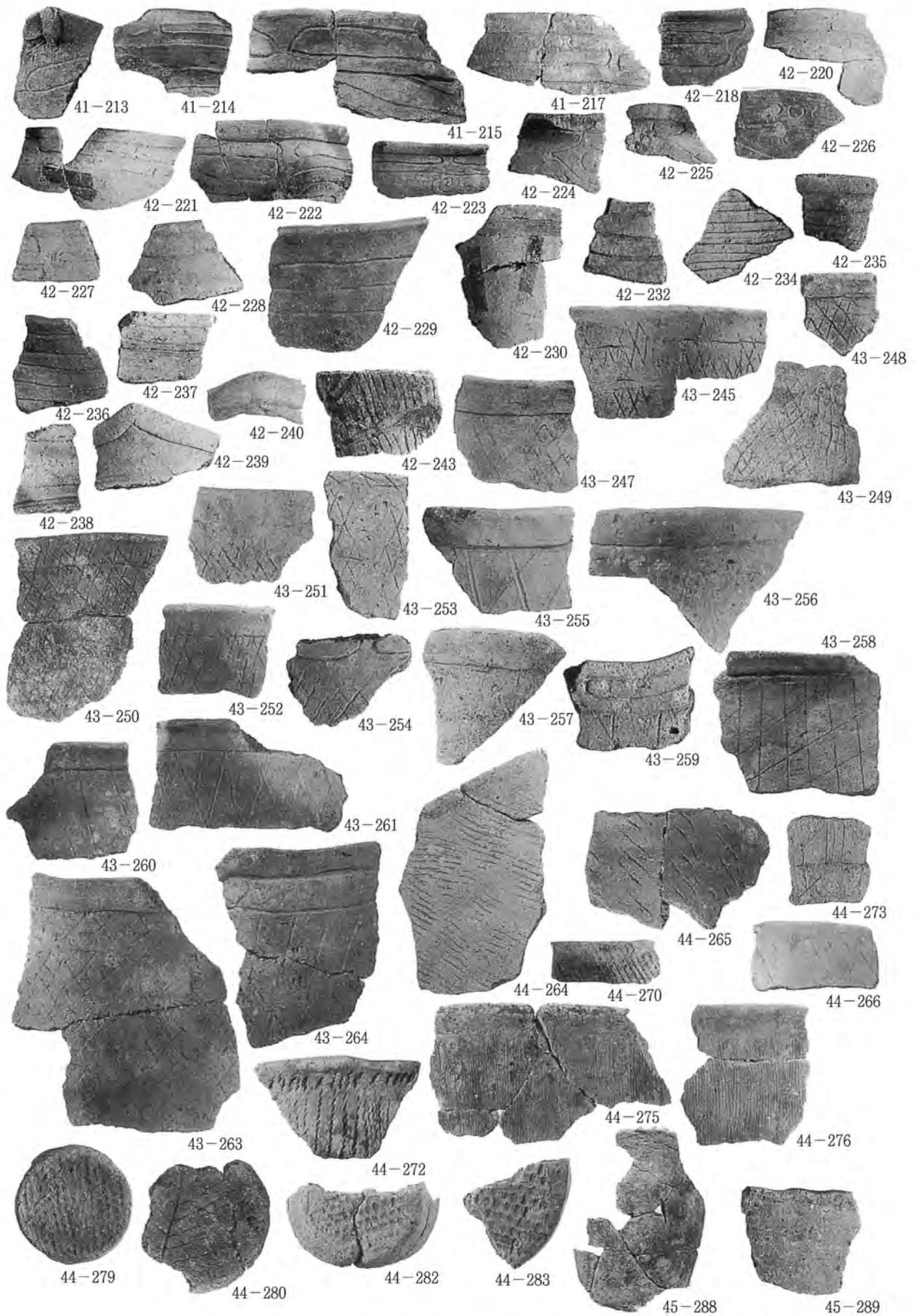


写真16 (遺構外土器)

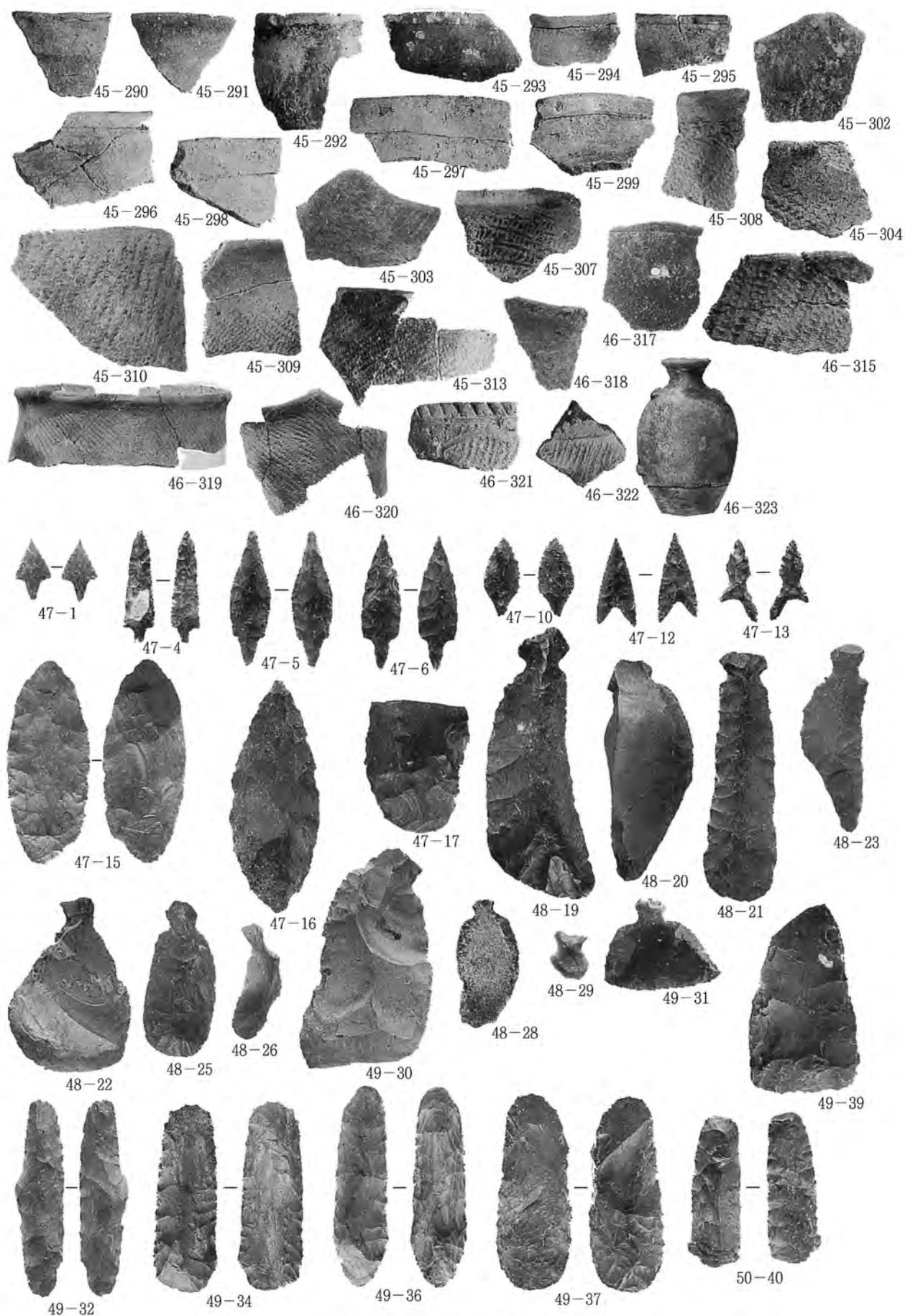


写真17 (遺構外土器、剥片石器)

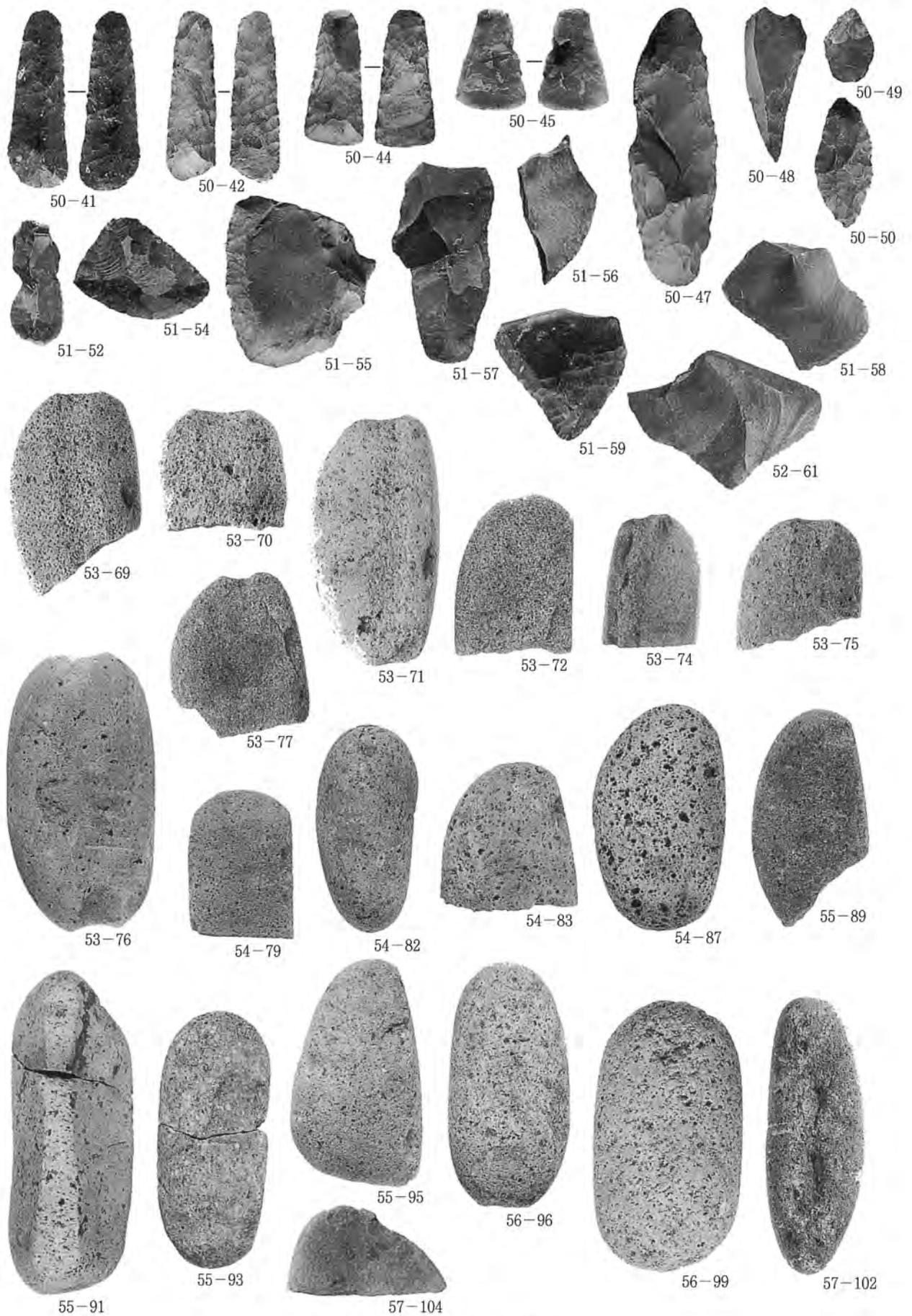


写真18 (遺構外剥片・礫石器)

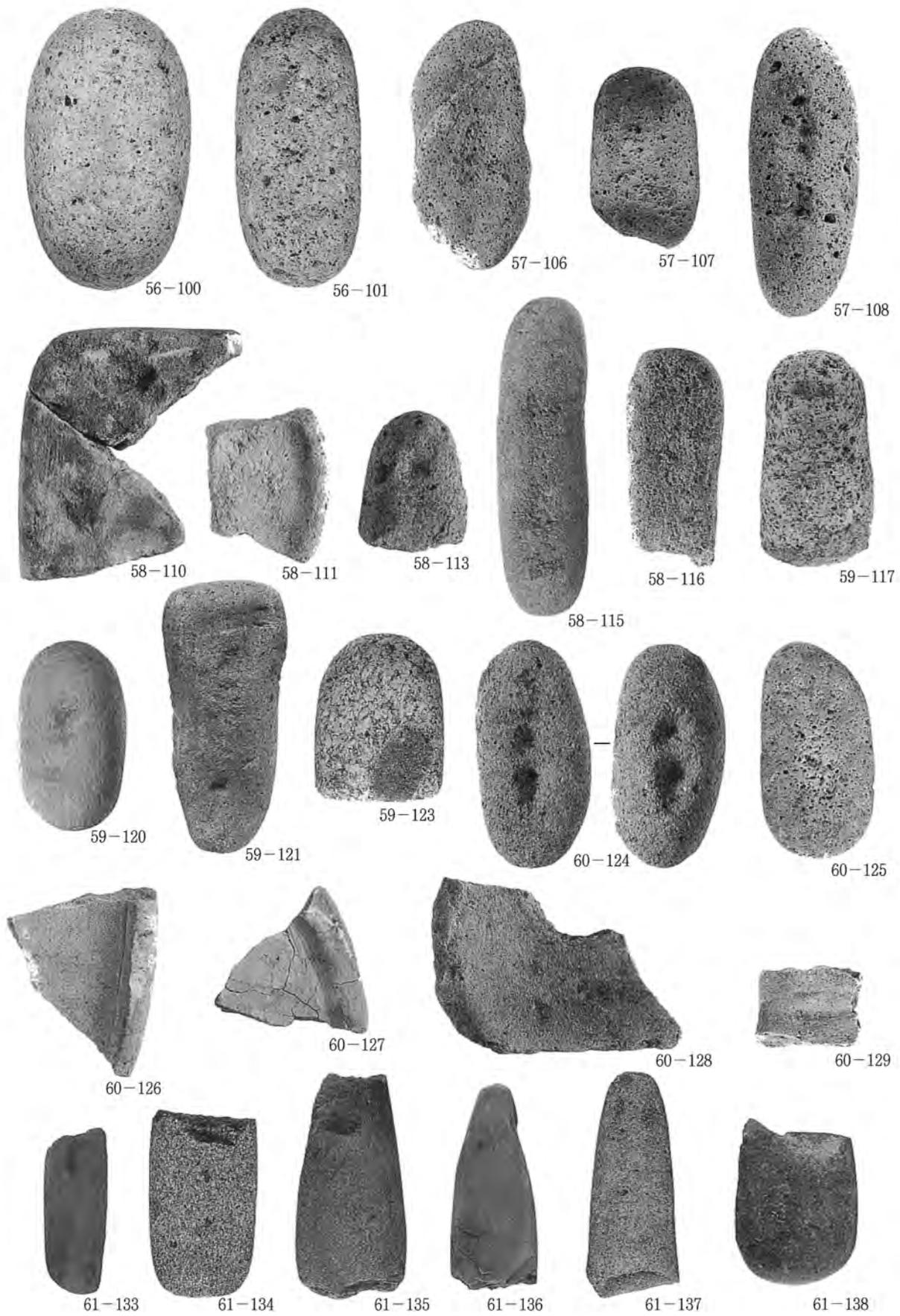


写真19 (遺構外礫石器)

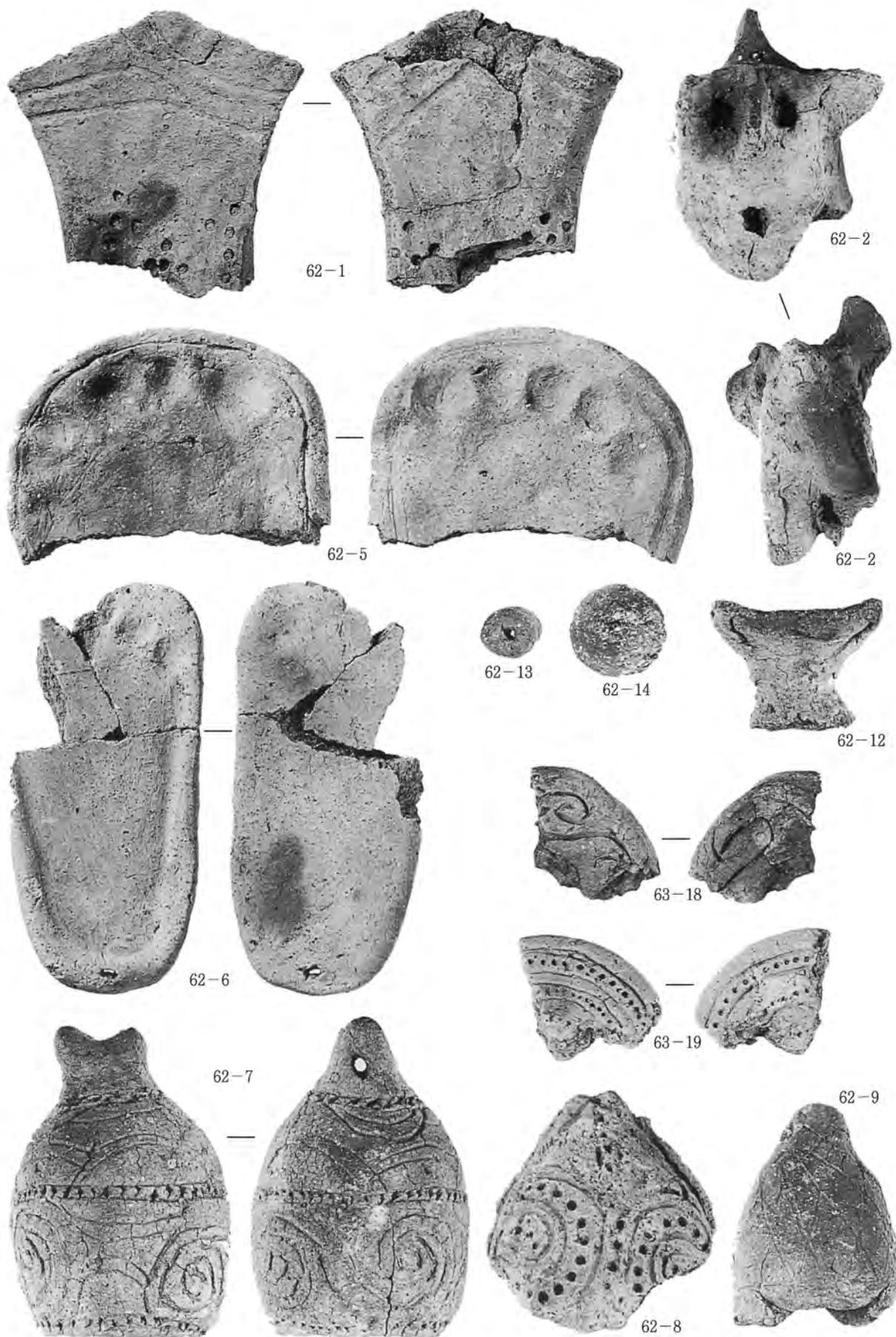


写真20 (遺構外土製品)

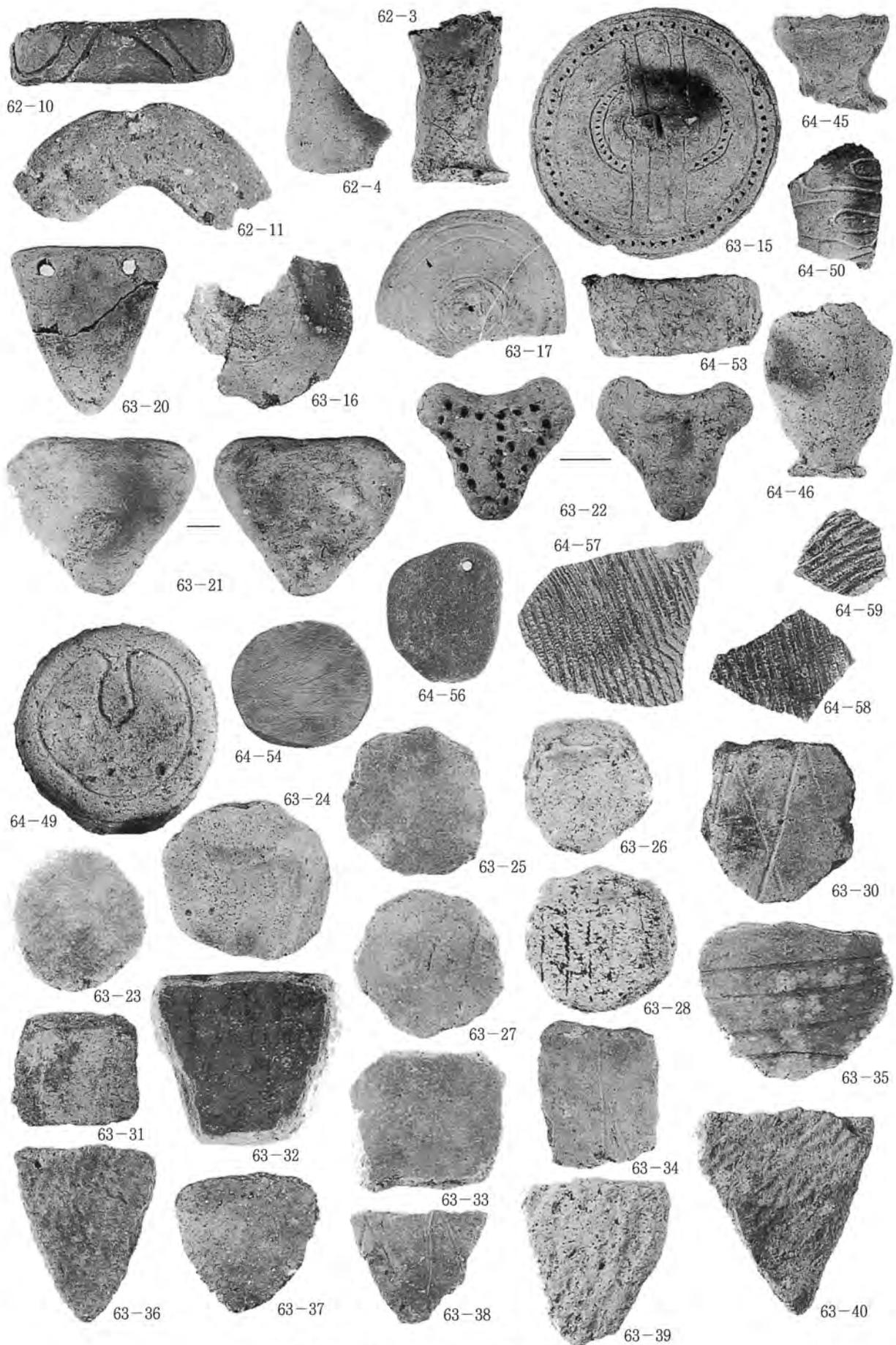


写真21 (遺構外土・石製品、その他)

# 報 告 書 抄 録

ふ り が な	さんないまるやま(6)いせき1							
書 名	三内丸山(6)遺跡1							
副 書 名	東北縦貫自動車道八戸線（青森～青森）建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シ リ ー ズ 名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シ リ ー ズ 番 号	第257集							
編 著 者 名	秦 光次郎、三林 健一、相馬 信吉							
編 集 機 関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所 在 地	〒038-0042 青森県青森市新城字天田内152-15 TEL(0177)88-5701							
発 行 機 関	青森県教育委員会							
発 行 年 月 日	1999（平成11）年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんないまるやま(6)いせき 三内丸山(6)遺跡	あおもりけんあおもりし ねがほびさん 青森県青森市大字三 ないあびまるやま 内字丸山419-37、 外	02-201	01282	40° 2' 10"	140° 42' 12"	97・07・30 ～10・31	6,000㎡	東北縦貫自動車 道八戸線建設事 業
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
三内丸山 (6)遺跡	集落跡	縄文時代  平安時代	住居跡 5軒 土坑 41基 埋設土器 1基	前期末から後期前葉の土 器、石器 須恵器		なし		

青森県埋蔵文化財調査報告書 第257集

## 三内丸山（6）遺跡 I

—東北縦貫自動車道八戸線(青森～青森)建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 1999年3月25日  
発行 青森県教育委員会  
編集 青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038-0042 青森市大字新城字天田内152-15  
TEL 0177-88-5701、FAX 0177-88-5702  
印刷所 東奥印刷株式会社  
〒030-0902 青森市古川二丁目17の5  
TEL 0177-76-5361、FAX 0177-76-5363





活彩あomor

— 輝くあomor新時代 —